

ILYN30

41-645

宗門之維新ヲ贈呈スルニ就テノ敬白

由蓮上人ノ宗門ハ宗門ノ爲ニ之ヲ建テタルニ非ズ、國家ノ爲ニ之ヲ弘メタリ。然ルニ國家ノ今ニ至ルマデ之ヲ知ラズ、今ノ宗門亦將ニ其祖師ヲ忘レントス、今ニシテ復興ヲ圖ラズンバ、則チ心田ノ枯涸ニ墮ル。佛種ノ斷絶ヲ以テセントス。宗門ノ革正維新ハ、獨リ宗門ノ私事トシテ、非ズ、亦應ニ天下ノ具ニ瞻テ以テ呼應聲援スベキ所也。

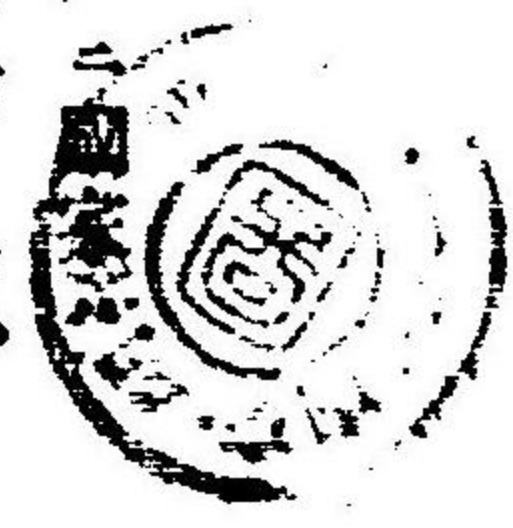
所謂宗門ノ維新ハ、祖道ノ復古ニシテ制度ノ革新也。今ノ宗門ハ、信仰ニ於テモ、安心ニ於テモ、宗風競ハズ、厥令拘急、幾ト死ニ隣ル。志士泣キ、義人叫ビドモ、願ルコトナクシテ以テ今日ニ至レルモノ也。

公家政治邁キ、武家天下喪ヒテ、王政古ニ復リタル明治ノ今日ニモ、猶名分紊レ大義廢レタル病的宗制ヲ固守シテ、空ク封建ノ夢ヲ食リツ、世界駭々ノ開明ニ遅クル、コト雷ニ三百由旬ナラザル此宗門ヲ見テ、我ハ遂ニ默過スル能ハズナリス。我素ト幸ニ局外ニ在リ、見地ヤ情實ニ塵レズ、胸中些ノ野心ナシ、オノヅカラ立言ノ好位地ヲ占メテ而シテ公批ノ分ヲ有スルニ幾シ、乃チ安祥トシテ筆ヲ呼ビ、茲ニ二十年來ノ蘊蓄ヲ啓テ以テ天下ニ問フ、名ケテ宗門之維新ト曰フ。

願クハ本篇精讀ノ諸君、各々其高見ヲ披テ、此論ノ當否ヲ我ニ誨ヘヨ、乃チ恭ク一本ヲ札下ニ呈シテ、敢テ國家ノ爲ニ高闊高批ヲ禱ル。

明治三十四年七月八日重訂再刊ノ時

智學居士 田中巴之助



要 叙

○本篇ハ前キニ雜誌『妙宗』ニ掲ゲテ先ヅ宗内ノ輿論ニ聞ケル所、今復更ニ重訂増補シ、足スニ『妙宗未來年表』ヲ以テシ、之ヲ流通分ト爲シ、廣ク世間ノ有識者ニ贈リテ、其公批ヲ乞ハシメ、非賣品トシテ別冊再刊スルモノ也

○予ガ憂宗憂國ノ切情ヲ扶ク、大法利ヲ布テ國士ヲ嚴淨セシメテ闢リ、此書再刊ノ淨資ヲ義出セルハ、故小僧智聞居士ノ遺族、及其友人食滿智律、上村智禪、大津源吉、長野政吉ノ諸人ニシテ、亦齊シク智聞居士ガ護法ノ遺志ヲ成サシメントノ友誼ニ出ヅ

○本篇ノ流通分タル妙宗未來年表及未來地圖ハ、正シク本門壽量ノ本國土妙ヲ事相ノ上ニ立證說破セル所、是本化妙宗教義ノ必然ガ驅テ之ヲ然ラシメタル者ニシテ、決シテ著者ノ狂熱才覺ニ出ヅタルニ非ズ、『一切經ノ中ニ此壽量品マシマサズバ天ニ日月ナク國ニ大王ナク山河ニ珠ナク人ニ精神ナカラシカ如シ』(開目抄)『一代五十餘年ノ諸經十方三世諸佛ノ微塵ノ經々ハ皆壽量品ノ序分也』(觀心本尊抄)トハ、聖祖ノ究竟指南也、洵ニ壽量品ノ法門ハ佛教ノ機軸ニシテ、聖祖主張ノ樞鍵也、若シ能ク之ヲ説キ若シ能ク之ヲ聽カバ、宗教及人生ノ能事全ク斯ニ畢ル矣、『妙宗未來年表』ハ實ニ算盤ト地圖トヲ以テ壽量品ヲ説キタルモノ也

(撰 者 白)

宗門之維新目次

本 篇

○序 論 (序 分)

○總 論 (正宗分ノ上)

改革ノ判義... 改革ノ機運... 復古ト進歩... 侵略的態度... 内亂ノ鎮定... 法華折伏... 侵略ハ天地ノ公道ナリ... 爾等ノ祖師ヲ忘レタル乎... 大義名分ノ祖師... 祖師宗門重キ乎先師法類重キ乎... 須ク文明最後ノ大美ヲ濟スベシ... 精神ノ復古、方式ノ進歩... 進テ論究セヨ... 僧侶ノ本山ヲ要セズ宗門ノ本山ヲ要ス... 本山ノ開顯顯妙... 宗門ノ版圖、信徒ノ人語... 海上道場... 宗風の感化... 出家、行末、出家... 今ノ所謂僧ハ古ノ所謂傳婆塞ナリ... 財聚リテ害除カル... 本化活眼ノ經濟

○別 論 (正宗分ノ下)

○第一、本尊ノ統一○第二、勸請ノ整齊○第三、修行ノ統一○第四、宗學ノ組織○第五、布教ノ統一○第六、宗團ノ統一○第七、靈地ノ整理○第八、宗權ノ統一○第九、宗長ノ革新○第十、諸山ノ聯合○第十一、本山ノ統政○第十二、宗政ノ組織○第十

附 錄

○妙宗未來年表 (流 通 分)

緒言... 年表ノ項目... 五十年間宗學年表... 宗門ノ新ナル諸効力... 本表五十年以内ニ於ケル宗門諸効力ノ成功... 第五十年以後ノ宗勢... 宗勢發展ノ圖説... (唯一本山設計ノ宗門改革全國普及ノ圖、國教成立日本統一ノ圖、開洋廣布世界統一ノ圖)

(目 次 畢)

◎讀妙宗維新策
 神機妙策運縱橫、獨有將軍能用兵、可慰君王國醉衷、
 荒涼四十又餘城、(守本文靜師)
 ◎唱和
 殉難誰亦哭田橫、天下至今無義兵、異體同心唯口耳、
 任他城者也被城、(著者)

宗門之維新

妙宗優婆塞 田中智學撰

稽首大憂茶 別頭三寶尊 大慈垂昭鑑 證於我論義
 信外我無物 法外我無字 祖道茲復古 宗命乃維新

◎序論……………(序分)

予ガ宗門改革ノ意見ハ、世ノ風潮ニ幻追シテ一朝一夕ノ夢想ヲ放言セルモノニ非ズ、
 今ヨリ二十年前予ガ『立正安國會』ヲ發軔セシ當時ヨリノ宿案ニシテ、今日ニ至ル
 マデ再三之ヲ當局者ニ説キ、又管長ヲ公會場ニ聘シテ論議スルコト前後二回、其他
 筆ニ由リテ時々宗内ノ雜誌ニモ其一端ヲ漏ラセシコアリ、今ヤ時運ノ益急ナルヲ認
 メ、其首尾ヲ完ウシテ之ヲ宗家及天下ニ問ハントス、予ハ實ニ此意見ヲ抱持シテ密
 ニ筆舌ノ上ノミニ於テセズ、自ラ窃カニ其幾分ノ實行ヲ試ミテ、二十年來幾ト眠食
 ナ忘レタリ、故ニ今之ヲ唱破スルハ決シテ無責任ノ言議ヲナスニ非ズ、予ガ永年ノ

實驗思索ニ徴シテ、其必行ヲ期シ得ベキヲ確信ス、只[△]附[△]ブ[△]ム[△]所[△]ハ[△]宗[△]家[△]ノ[△]眞[△]面[△]目[△]ニ[△]視[△]聽[△]チ[△]此[△]ニ[△]傾[△]ク[△]ル[△]ヤ[△]否[△]ヤ[△]ニ[△]在[△]リ、予[△]ガ[△]宗[△]法[△]ノ[△]爲[△]ニ[△]孤[△]節[△]ヲ[△]局[△]外[△]ニ[△]持[△]シ[△]來[△]レ[△]ル[△]モ[△]ノ[△]亦[△]全[△]ク[△]ユ[△]レ[△]ガ[△]爲[△]メ[△]也。

夫レ本化ノ妙宗ハ、宗門ノ爲メノ宗門ニ非ズシテ、天下國家ノ爲メノ宗門也、即チ日本國家ノ應サニ護持スベキ宗旨ニシテ、亦未來ニ於ケル宇内人類ノ必然同歸スベキ、一大事因縁ノ至法也。

此大事縁ヲ宣傳センガ爲メニ、日蓮聖祖ハ吾日本國ニ垂化シタマヘリ、此大ナル願業ヲ繼紹貫通センコトヲ目的トシテ、『本化妙宗』ハ建ラレタリ。然ルニ今ノ宗門ハ、數百年來種々ノ惡事情ノ爲メニ、全ク其本分ヲ亡失シ、予レリ、故ニ今之ヲ改造シテ、聖祖出世垂教ノ宏猷ヲ恢復シ、以テ宗門ノ眞利妙用ヲ光顯セザルベカラズ、本篇ハ之ヲ詳論シテ、宗門改革ノ根本義ヲ明ニス。予ハ此論篇ノ云フ如キ宗門ニ非レバ、日蓮聖祖ノ宗門ニ非ズト爲シ、又此宗門ノ改造ハ單ニ宗徒ノ間ニノミ唱フベキモノニ非ズシテ、日本國家ノ應サニ大ニ注目スベキ最高問題也ト爲スモノ也。

日本國家ノ將來ニ於テ決スベキ尤モ大ニシテ尤モ神聖ナル問題ハ、日蓮ハ何故ニ我邦ニ出現シタリヤ』ノ一事是也、故ニ予ハ宗門改造ヲ以テ、初ヨリ其宗團ノ一私事ト爲サズ、淨クシテ光明アル前途ノ理想ヲ國家ニ植メント欲シテ、此活法門ヲ開示スルモノ也。

今日ノ宗門、内ハ祖師ノ本旨ヲ亡シ、外ハ時世ノ開明ニ後レ、只喘々トシテ伽覽的氣息ヲ迷信界ノ一隅ニ持ツノミ、健全ナル生命ナク、清新ナル活氣ナシ、人ヲ導キ世ヲ救フハ愚カ、其自ラノ獨立サヘモ覺束ナキ悲境ニ在ル也、而シテ其此ニ至レルハ、固ヨリ許多ノ源因アリテ、一朝一夕ノ故ニアラザルハ論ナシト雖、予ガ尤モ怪訝ニ堪ヘザルハ、其宗門ノ衰頹ヨリモ、宗徒ノ此衰頹ヲ憤慨セザル事是也、否其憤慨ヲ實ニシテ蹶起セザル事是也。

宗門ノ今日ハ、百事ヲ抛テ唯改造ノ一事アル而已、今ノ宗門ハ根底ニ於テ既ニ病ヲ爲セリ、改造ヲ思ハズシテ徒ラニ「姑息的教育」「姑息的布教」ヲ敢テスルハ、却テ偶々其病ヲ布キ毒ヲ植ウル所以ニシテ、入テハ聖祖ノ本懷ヲ全フスル能ハズ、出テハ世間ヲ利導スルニ足ラズ、何ヲ以テ閻浮第一ノ妙宗ト謂フヲ得ン。

宗門ノ内容ハ教義也、其外形ハ制度也、教義ハ雜亂シテ既ニ乃祖ノ眞意ヲ失シ、制度ハ昏昧ニシテ迥カニ時世ノ進歩ニ後ル、斯ノ如キモノヲ以テ末法應時ノ教ト爲シ、唯一最尊ノ宗ト爲シテ、恬然自ラ居ラントスルニ至リテハ、妙經ハ神聖ヲ瀆シ本化ノ高明ヲ誣ルノ甚シキモノ也、故ニ苟モ宗門ヲ念ヒ國家ヲ思フモノハ、屹然トシテ立テ現宗門ノ改造ヲ唱導セザルベカラズ。

改造難キカ、曰ク難シ、宗徒既ニ淨信ヲ失シ、愚心魔心縱橫攪亂シテ、我レト吾ガ宗躰ノ何タルヲダニ忘却セル今日ノ宗門ニ在テ、突如トシテ維新ノ談ヲ爲シ、未曾有ノ改革論ヲ張フ、猶晴天ノ霹靂ノ如キノミ。

改造必ズ難キカ、曰ク必ズ難カラズ、宗門ノ縑素一タビ根本清淨ノ正信ニ歸ラバ、始テ眞誠ニ祖業ノ大ナルヲ知ラン、夫レ能ク清淨宏大ノ信念ニヨリテ感通セル如法ノ道眼ニハ、聖祖ノ大智至徳ト其無外ノ大化ト博宏悠遠ナル聖的經國ノ洪業トヲ浮ベ來テ、始テ吾聖祖ノ一宗門祖ニアラズシテ、日本國ノ靈元タリ世界最後ノ教主タルコトヲ知り、其遺教聖業即チ吾宗門的動作ナルコトヲ自覺シ來ラン、既ニ斯カル神聖ニシテ絶大ナル經營ヲ負テ、方ニ其道途ニ在ル吾宗門ニシテ、内容亂レ外

形朽チテ奄々死ニ隣ル如キ眼前ノ光景ヲ看取シテ、誰レカ一姓モ此ニ安ンズルモノアラン、改造ノ聲、期セズシテ一致シ、革新ノ方、諍ハズシテ一途ニ出デン、能ク斯ノ如クナラバ、宗門ノ改造必ズ難事ニ非ズ、予ハ是ニ於テ改造ノ原動機ヲ信仰ノ醇發ニ在リト斷ズ。

宗門衰頹ノ第一原因ハ、實ニ信仰ノ衰減ニ在リ、眞智翳レ、道念亡ビ、勇氣沮シ、學事衰へ、弘法荒ミ、行儀紊レ、教勢微ニ、財力渴シ、異義煩ク、俗論殷ニ、内訌續キ、外侮頻リナル、咸是宗門信仰ノ非薄ニ基因ス、故ニ今ニシテ改造ヲ圖ラントセバ、『純ニシテ淨キ信仰心ノ回復』コレ第一根本ノ先決問題也。

況ヤ此前代未聞トイヘラン如キ、一大果斷ノ改革ヲ行ハントス、苟モ清新活氣ノ信仰アルニ非ザレバ、條々空言徒論ト成リ了ラシ耳。所謂清新活氣ノ信仰トハ何ゾヤ、『不惜身命ノ心地』是也、法華經ト、聖祖トガ吾人ニ命ジタル信ハ即チ是也。

日蓮ノ宗ヲ奉ジテ日蓮ノ信ヲキハ既ニ宗門活氣ノ滅亡也、日蓮ノ教ヲ奉ジテ日蓮ノ道ヲ守ラザルハ既ニ宗門性命ノ滅亡也、今ノ宗門ハ此ニ失ス、宗門ニ宗旨ナシ、

天下此妙宗ヲ忘レタル亦宜ベナラズヤ。

夫レ 聖祖ノ道法ヤ經營ヤ智ヤ德ヤ、洵ニ絶大無窮ニシテ凡下ノ能ク擬スベキ所ニ非ズ、然レドモ只一ノ清淨信アリテ、咸通孚應、妙ニ其智德道業ニ融達スルコトヲ得ベシ、『發心即到』ノ訓、『除諸菩薩衆信力堅固者』ノ誠、夫レ之ヲ謂フ也。

不惜身命ヲ以テ信ニ銘スルハ、法華ノ教詮ニシテ 聖祖ノ躬行身訓也、善ク法華ヲ學ベルモノニシテ始メテ其眞意ヲ領スベシ、不惜身命ナラザレバ法華ヲ信行スル能ハズ、亦 聖祖ヲ祖述スル能ハザル也。

今ニモアレ宗徒一タビ此純正ノ信ニ復ラバ、隻手ニ大千界ヲ把持シ、一呼シテ天地ヲ翻倒スルノ慨ヲクンバアラス、區々情弊及金錢ノ談果シテ何かアラン、叢爾タル宗團ノ改造、固ヨリ一茶飯事而已、若シ不惜身命ノ心地先ヅ決セザレバ、何等ノ立案モ施スニ由ナケン、況ヤ此大斷案ヲヤ、故ニ予ハ革新談ノ開端ニ於テ先ヅ不惜身命ノ大用意ヲ叫ブモノ也。

不惜身命、必ズ難事ニ非ズ、人ハ何事カノ爲ニ死セザルヲ得ザル也、戰ニ死セザレバ則チ政事ニ死シ、刃ニ死セザレバ則チ飲食ニ死シ、飲食ニ死セザレバ則チ壽命ニ

死シ、壽命ニ死セザレバ則チ業報ニ死ス、嗚々トシテ生レ出デ嘿々トシテ死シ去ルヲ以テ、無事息災ニ天壽ヲ終レルモノト誤信セルハ、何事カヲ意識シタル人間ノ最モ愧ヅベキ劣想也、今ソレ臭穢ノ一身ヲ獻ジテ 聖祖ノ芳躅ヲ紹ギ、天下國家ノ大利ヲ樹ツ、其果報ヤ佛天モ羨ミタマフベケン。

百千年ヲ隔テ、渝ラズ、百千邦ヲ隔テ、異ラズ、之ヲ凡聖ニ通ジテ別ナラズ、之ヲ智鈍ニ徴シテ失タズ、能ク其德ヲ一ニシテ其用ヲ侔フスルモノハ、純淨堅固ノ信心也、凡夫ノ智ヲ以テ聖人ヲ解セントスルモノハ愚ノ極也、聖人ノ信ヲ以テ聖人ヲ信ズルモノハ智ノ至也、夫レ能ク堯舜ヲ信ズルモノハ第二ノ堯舜也、不惜身命ノ正信一タビ爰ニ起ラバ、 聖祖ノ備ヘタマハンホドノ智德、不知不識ノ間、宛然トシテ吾身ニ光被影現シ來テ、第二ノ小日蓮爰ニ生ゼン、一宗勃然トシテコレニ萃ラバ、萬億ノ小日蓮現ゼン、若シ能ク一小日蓮ヲダモ今ノ吾邦ニ得バ、意氣嚴操天下ヲ壓シ、事業功用宇内ヲ經營センモ難カラズ、『日蓮先ガケシタリ若黨共ニ陣三陣トツマケ』ノ聖訓ハ耳膜ニ響カザルカ、眼底ニ入ラザルカ、何ゾ夫レ宗徒姑息ノ太甚シキヤ。

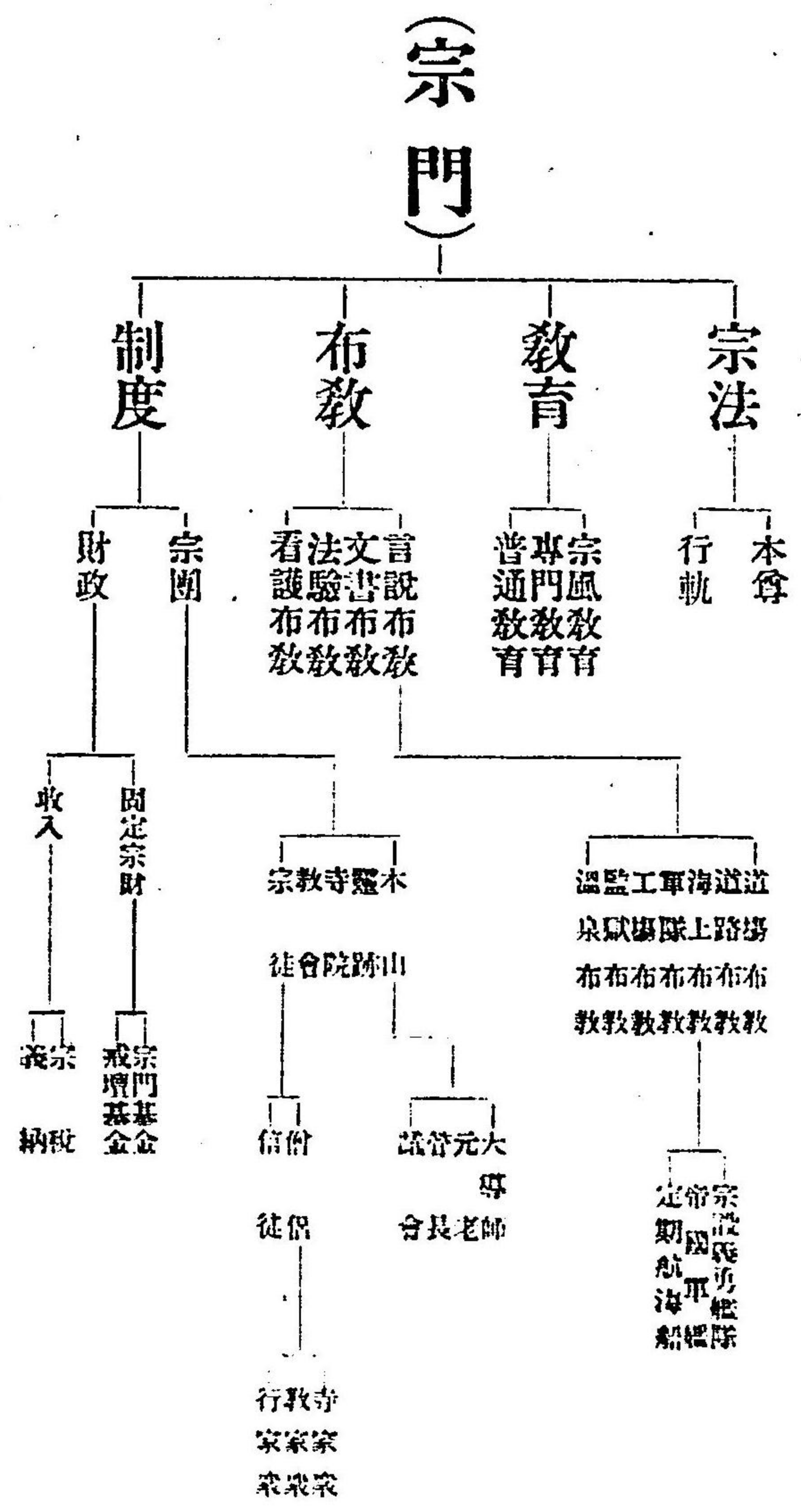
今ノ宗門ヲ以テ、宗祖ノ眞ヲ傳ヘテ誤ラズト爲スハ、是レ自ラ知ルノ明ナキ也、今ノ宗門制度ヲ以テ、瑕玼ナシト執スルハ、是レ時世ヲ知ラザル也、若シ日蓮宗門タルモノ、愚妄賤劣、果シテ斯ノ如キモノナラバ、予ハ吾國家ノ爲メニ、却テソノ勦滅ヲ祈ラザルヲ得ザル也。

咨乎、聖祖ノ遠孫ニヨリテ、此改革策ヲ擬セラレタル現宗門ハ、猶未ダ全キ滅亡ニ達セザリシ證徴ナルヲ賀セヨ、若シ仍昏睡ヨリ起ツクハ、ザレバ、本論ハ唯古來、聖祖ガ僞宗門ヨリ被レル巨冤ノ萬一ヲ雪ギ奉テ止マン耳。

別頭ノ三寶、高祖大聖主、哀愍昭覽ヲ垂レタマヒテ、今予ガ宗家及ビ國家ノ爲メ、立論獻策スル所ヲシテ、如法ノ道念ヨリ出デ、如法ノ道念ニヨリテ聽カレ、本化ノ妙宗コレニ由テ頓ニ四海ニ廣布シ、諸ノ邪教コ、ニ滅シ、靈的國家タル日本國ヲシテ、教法及ビ國家ノ統一ヲ閣浮提内ニ實行セシメタマヘ、立言若シ一點ノ私情我見アラバ、速ニ予ガ命ヲ召サセタマヘ、假リニモ佛祖ノ本意ニ副ヒ奉ル所アラナシ、諸人若シ輕侮シ怨嫉セバ、速ニ其人ノ邪見ヲ翻轉シテ、迷想ヨリ救ヒ出シタマヘ、若シ尙ソノ非ヲ固執セバ、速ニ十羅刹ニ仰セテ現證ノ責罰ヲ與ヘ、其心ヲ調伏歸正

セシメタマヘ、南無妙法蓮華經。

凡ソ予ガ論策ハ、原ト俗計世智ノ籌量ニ出デズ、但專ラ佛祖ノ正意ニ準據シテ立ツル所ノ活優婆提舍也、信念ノ聲也、血文字也、法門トシテ觀ジ、事行トシテ看取スルヲ要ス、本篇構案ノ概要左ノ如シ



○總論……………(正宗分ノ上)

十

序論ニ於テ、改革ヲ遂行スベキ靈的準備トシテ、先ヅ不惜身命ノ心地ヲ決セザルベカラザル旨ヲ説ケルハ、本論籌策ノ根原、全ク法義ノ活現ナルヲ以テ也、而シテ改革ノ件々ニ對シ、其個題ノ説明ヲ爲ス前、一タビ其綜合統一點ヨリ觀察シテ、以テ立案ノ總要ヲ釋カザルベカラズ。

△改革ノ判義

予ガ數十條ノ立案ヲ總概シテ、之ヲ判釋スル時、所判ニ於テハ「宗法」「制度」「教育」「布教」ノ四大綱アリ、能判ニ於テハ『侵略的』『復古的』『進歩的』ノ三大綱アリ、以テ許多ノ細目ヲ經緯羅織ス、而シテ「宗法」ノ上ニハ本尊、行軌ノ統一ヲ論ジ、「制度」ノ上ニハ本山、寺院、宗門ノ首領、僧侶、信徒、財政等ヲ分論シ、「教育」及ビ「布教」マタ數項ノ分目アリテ、各々其條下ニ詳悉スベシ、即チ方法ニ先チテ精神ヲ説ク也。要スルニ一切ノ立案、スベテ宗義法門ニ根據シテ、些ノ俗計私智ヲ交ヘズ、ソノ時

世ニ順應シタルガ如キハ、亦コレ法門ノ活現應用ニシテ、天晴地明末法唱導ノ妙用ヲ現實セルニ外ナラズト知ルベシ。

△改革ノ機運

宗教改革論ヲ叫ビテ世ニ立テルモノ、自他宗ソノ人エ乏シカラズ、彼ノ北畠道龍、水谷仁海等ハ、一時世人ノ注目ヲ惹ケルモノナリシモ、其論道スル所、虛華妄計、義據ナク實益ナキ幻想ニシテ、誠虔ヲ缺キ、良圖ヲ失スルヤ言ヲ待タズ、故ニ何等貢獻スル所アラズシテ、彼等ハ疾ク敗亡セリ、其外青年客氣者流ノ無算用ナル改革論ハ、今モ猶諸雜誌ノ餘白填充料トシテ、時々觸目スル所ナリ、而シテ予ガ改革意見ナルモノ、北畠、水谷ノ二叟ニ先ダチテ唱破シ、勸獎切々猶今日ニ至リテ、而シテ其節ヲ變ゼズト雖、一般世間ニ行渡ラザルハ、ソノ聲ヲ大ニセザリシ故ナリ、ソノ聲ヲ大ニセザリシハ、議論玄奧ニシテ實行多艱ナルガ故ニ、偏ヘニ時機ノ到來醇熟ヲ待ツガ故ナリ、若シ夫レ實踐躬行ハ、分ニ予ガ創立セル教會ニ於テ實行セリ、然レドモ之ヲ一宗ノ上ニ施行センハ、一宗ソノモノガ、真正ニ改造ノ已ムベカラザ

ルヲ自覺シ來ル時ナラザルベカラズ、渺ナクモ熱誠眞摯ノ態ヲ以テ、予ガ改新談ニ耳ヲ傾クベキ機縁ノ生ジタル時ナラザルベカラズ、予ハ今ヲ以テ正シキ其時機ナリトハ言ハザレドモ、衰極リ亂極レバ、一轉ノ原機ハ、確カニ其内面ニ蠢動シ來テ、面目ヲ一新スベキ潛勢ヲ孕養シツ、アル也、今ノ宗門ハ、教法ニ於テモ、修行ニ於テモ、教學ニ於テモ、弘通ニ於テモ、衰亂ノ極ニ達シタルモノ也、否極テ泰ヲ生ジ、亂極テ治ヲ出ス、是レ方ニ改革ノ運ヲ自覺スベキノ時也、然ラザレバ、一轉シテ死滅アラシムノミ、若シ宗法及ビ祖業ニ約セバ、時機後ル、コト既ニ六百二十年矣。

△復古ト進歩

改革ノ尤大ナルモノハ、宗法ニ關セル件々是也、凡ソ改革ナルモノハ、現前ノ弊ニ就テ要用ヲ生ズ、現在ノ弊古チ失シテ而シテ不可ナラバ、宜シク之ヲ復古セシムベシ、是レ『復古的改革』ナリ、現在ノ弊新ニ趨テ而シテ不可ナラバ、宜シク之ヲ改新セシムベシ、是レ『進歩的改革』ナリ、徒ラニ新ヲ趨フベカラズ、叨リニ古ニ泥ムベカラズ、古ニスベキハ之ヲ古ニシ、新ニスベキハ之ヲ新ニス、而シテ「宗法」ハ

新ナルベカラズ、「制度」ハ古ナルベカラズ。

今ヤ宗門ノ憂ハ新ト古トナ顛倒シテ其趣向ヲ誤レルニ在リ、凡ソ宗法ハ、千古不變ノ道ナラザルベカラズ、然ルニ 聖祖鶴林ノ后、門流相承ノ確執ハ、不幸ニシテ善趨路ヲ迪ラズシテ、惡趨路ヲ迪リ、爲メニ諸ノ異義紛解ヲ來シ、種々ノ新解釋ヲ以テ宗義ヲ翻搖シタル結果、宗法上今日ノ雜亂ヲ貽セリ、本尊勸請ノ雜多ナル、修行行軌ノ區々ナル、是レ咸ソノ淵源、法義相承解釋ノ區々ニシテ、統一ナカリシヨリ來ル、「六老守塔」ノ爭論ヲ首トシテ、「諸山ノ確執」、「眞間ノ法亂」、「三山ノ離合」、「天文ノ廢宗」、「天正ノ禁宗」、「慶長寛永ノ法亂」等、公私幾多ノ災厄紛議ヲ帶ビツ、層々ノ慘苦ニ肥立チカ子タル、此不幸ナル宗門ノ教團ハ、 聖祖ノ遺法及ビソノ智德品藻ノ古今ニ卓越獨歩セルニ似ズ、年々歳々退縮ノ情況ナリシコト、豈無限ノ憾ナラザラシヤ、詮スル所、度々ノ變災紛擾ハ、隨テ種々ノ異解ヲ生ミ、種々ノ異解ハ、宗義ノ一貫的法理ヲ沮害シ、又ソノ統一ヲモ破壞シタリ、降テ德川氏三百年ノ太平、コレ又一種ノ宗門沈衰史的變厄ニシテ、外學ノ凌辱、宗義ノ衰弊ヨリ、以テ維新ノ廢佛時代ニ及ビ、活氣内ニ消磨シ、世變外ヨリ侵シ、宗學一層ノ混沌トナリテ、遂ニ

今日ノ雜亂ヲ致ス、加之今ヤ思想界ノ歐化的潮流ハ、青年後進ノ腦海ニ洋溢シ、大瞻ニシテ僭妄ナル自由討究ヲ以テ、聖判靈智ノ鼎ヲ問ハンズル亂暴狼藉ノ時代トナリヌ、若シ之ヲ善導セザレバ、宗學ノ滅裂、底止スル所ナキニ至ラン、嗟乎、宗門ハ斯ノ如クニシテ、宗法ノ古色ヲ失ヘリ、新々ノ解釋ニヨリテ解化セラレタル、竄入的僞宗法ニ盲從シテ、非日蓮主義ノ安心ヲ昧守セシ也、宜矣宗風ノ振ハズ宗威ノ舉ガラザルコト、然ルニ制度ノ方面ハ、却テ宗法ノ轉新ニ似ズ、愚然トシテ駸々ノ時機ニ遲レツ、敢テ死セル舊風ヲ暗襲ス、像法的寺塔濫造ハ如何、小乘的回顧ハ如何、常說法教化ノ殿堂ハ、常ニ葬祭ニヨリテ賑ヘドモ、未ダ信徒ノ結婚式ヲ監修セルヲ聞カズ、末法的清淨殖産ノ宗財ヲ造リ得ズシテ、正像過時ノ「乞食主義」ニヨリテ腹ヲ肥ヤシツ、アルニアラズヤ、夫レ本宗制度ノ斷滅ハ、聖祖之ヲ未代ニ讓リタマフ、聖祖ノ親ヲ全力ヲ致シタマヘルハ、純ラ宗義建立ノ一事ニ在リ、是レ本化獨得ノ大權能大手腕ニ待ツモノニシテ、決シテ餘人ノ窺ヒ知ル所ニアラズ、若シ夫レ制度ノ如キハ、必シモ本化ノ大斷ヲ待タズ、要ハ時世ニ先鞭シ、國情ニ洞通シテ、弘通ノ大願ニ利シ、濟世度生ノ方便ヲ全フスルニ在リ、故ニ聖祖自ラ制度

儀律ノ上ニ何等ノ確案ヲ下シタマハズ、假リニ宜シキニ處シテ、時世ノ必然ニ委ヒタマヘリ、而シテ制度ノ大成ヲ後世ニ付囑シタマフノ主旨ハ、御臨終ノ御一言、及ビ諸御書ノ表裏ニホノ見ユ(詳クハ別ニ論ズベシ今ハ御眞意ヲ概言スルノミ)『制可隨時』ノ約束ナレバ、制度ニ於テハ、宗義ニ背馳セザル限りニ於テ、日ニ新ニシテ又日ニ新ナルヲ要ス、『道不可變』ノ約束ナレバ、宗法ニ於テハ一點片塵ノ新義竄入ヲ許スベカラズ、然ルニ今日ノ宗門ハ、ソノ新ナルベカラザルモノヲ新ニシ、ソノ古ナルベカラザルモノヲ古ニス、豈ニ顛倒惑亂ノ至ニアラズヤ、是レ『復古』ト『革新』ノ分野ヲ明カニスベキ要アリテ、先ソノ惑ヲ解カントスル所以也。予ノ改革論ノ大綱ハ、『宗法』ニ於テ『復古的態度』ヲ採リ、『制度』ニ於テ『進歩的態度』ヲ採リ、而シテ全體ニ於テ退嬰主義ヲ破シテ、『侵略的態度』ヲ採ラントスルモノ也。

△侵略的態度

何チカ『侵略的態度』ト謂フ、曰ク、宗教及ビ世間ノ諸ノ邪思惟邪建立ヲ破シテ、

本佛ノ妙道實智タル法華經能詮所詮ノ理教ヲ以テ、人類ノ思想ト目的トヲ統一スル『願業』コレ也。

人類ヲ一妙道ニ歸セシムルニハ、先ヅ一ノ大勢力ヲ事上ニ建立セザルベカラズ、吸收力ナカルベカラズ、打撃力ナカルベカラズ、緩撫力ナカルベカラズ、即チ真正着實ナル統一ノ機軸ナカルベカラザル也、『國家ヲ以テ道教ノ原動力トスルノ教旨』即チ是也、コレ 釋尊塔中付囑ノ元意、 聖祖出世立教ノ大義、亦コレ 天祖建國ノ要道ニシテ、壽量開顯ノ活修多羅也。

而カモ人類ヲ統一スルハ、聖的事業ノ尤モ大ナルモノ也、要スルニ其道法ハ、人類一切ノ想念及ビ作業ノ、無窮ナル方涯、無限ナル歴史ニ超脱シテ、古ナク新ナク、該チザルナク蓋ハザルナキ、唯一絶待ノ妙道至法ナラザルベカラズ、天帝ヲ以テスル勿レ、彼ハ世界ヲ造ルト曰フモ、ソノ自ラノ何ニ因リテ造ラレタルカヲ知ラザレバ也、阿彌陀ヲ以テスル勿レ、彼ハ十劫正覺未免無常ノ權佛ナレバ也、孔丘ヲ以テスル勿レ、彼ハ死ヲ知ラズ鬼ヲ知ラズ、性ト天道トヲ言フ能ハザレバ也、天台、眞言、乃至禪宗ヲ以テスル勿レ、權實本迹猶未ダ明カナラズ、詮理願業未究竟ノ小法

ナレバ也、老、莊、荀、孟、ソクラテス、プラトーン、トマス、ガリレオ、ボツブス、デカルト、カント、フイヒテ、ヘーゲル、ヘルバルト、平田篤胤、井上正鏡、福澤諭吉等ヲ以テスル勿レ、彼等ハ猶有漏智ノ原野ニ彷徨シテ、未ダ無漏聖智ノ山麓ヲダモ窺フ克ハザル蟬蛄的小見ナレバ也、眞中ノ眞、淨中ノ淨、大中ノ大ナラザレバ、則チ妙トスルニ足ラズ、純妙ノ大法ニアラザレバ、理ニ於テモ、力ニ於テモ、宇内ヲ靈的ニ統一スル能ハズ、宗教ノ五義、三大秘法ハ正シク其設ナリ、之ヲ唱導啓發シタル 聖祖ハ、正シク世界統一軍ノ大元帥也、大日本帝國ハ正シク其大本營也、日本國民ハ其天兵也、本化妙宗ノ學者教家ハ其將校士官也、事觀高妙ノ學見主張ハ其宣戰狀也、折伏立教ノ大節ハ、其作戰計畫也、信仰ハ氣節也、法門ハ軍糧也、斯ノ如クニシテ宇内萬邦靈的統一軍ノ組織ハ成畫セラレタリ、大兵將サニ動カントス、須ラク先ヅ内ニ軍規ヲ正サザルベカラズ、四大格言ハ軍規ノ振肅也、本化妙宗ノ日本國教奠定ハ、完クソノ出征準備也、日本國ハ正シク宇内ヲ靈的ニ統一スベキ天職ヲ有ス、法ハ日本ト日本ナラザルトナ問ハザレバ、教ハ特ニ日本ヲ認メザルベカラズ、日本ヲシテ宇内ヲ統一セシメザルベカラズ、日本ヲシテ終ニ永ク宇宙人類

ノ靈的巨鎮ヲラシメザルベカラザル也、开ハ宇内ノ廓清ノ爲ニ！、人類ヲ救ハンカ爲ニ！、而シテ世界萬邦ノ中、特ニ日本ヲ撰ンデ之ニ當ラシムルノ要アルハ、大ナル神秘的理由存ス矣、大ナル實際的の理由存ス矣、コレハ是レ整然タル大組織アル本化宗學ノ哲理的説明ト、兼テハ許多ノ科學的説明ヲ要ス、由テ之ヲ別論ニ讓リテ今ハ之ヲ略ス、尙世間叨リニ 聖祖ノ國家主義ナル名目ニ就テ、兒戲的評論ヲナスモノ見ユ、傳フルモノ、イカニ傳ヘ、疑フモノ、イカニ疑フカヲ審ニセザレバ、今俄カニ其評論ノ價值ヲ問フヲ得ザレドモ、要スルニ此等ノ大法門ハ、糟糠小智ノ窺ヒ測ルベキ所ニアラズト知ルベシ。

△内亂ノ鎮定

宇内統一軍ノ出征ニ先ダチテ、軍規振肅ノ爲ニ、教内ノ謗法邪見ヲ誅罰シテ、城中ノ一致同節ヲ計ルノ要アリ、諸ノ執權謗實的不逞不忠煽亂淆義ノ輩ヲ打擊シテ、以テ軍門ニ徇ヘザルベカラズ、是レ内亂鎮定ノ諸宗折伏軍ヲ興ス所以也、此小戰闘建長五年四月廿八日ヨリ始マリテ今ニ休マズ、一張一弛盛衰アリト雖、弘安已後天文

已前ハ、良將勇士ヨク戦ヒ、賊壘連リニ陥チテ、王師太ダ振ヒ、一時八萬有餘ケ寺ノ優勢ヲ占メタルモ、天文以來度々ノ廢禁ニ遭ヒ、法亂宗厄アル毎ニ、士氣屈シ軍威衰ヘテヨリ、魔軍援ヲ出シテ賊軍ヲ救ヒシカバ、賊勢次第ニ力ヲ得テ、今ヤ優降地ヲ換ヘ、王師孔ダ振ハズ、戦ニ敗レズシテ飢ニ敗レ、敵刃ニ殪レズシテ病ニ殪ル、城壘今ヤ僅ニ五千ヲ餘ス耳、頽勢コ、ニ至テ極ル矣、兩楠既ニ逝テ芳山花淋シ、誰カ七生鑿賊ノ慨ナカラン、噫、コレ實ニ鼓舞作興奮然トシテ軍規ヲ一振スベキノ秋ニ非ズヤ、宇内統一軍ノ大出征ヲ要スベキ時期頗ル促ル、軍規振肅ノ内戰、尤モ急ヲ要ス、而カモ今日ニ於テハ、凡夫軍、外道軍、小乘軍、邪教軍ハ、魔王ノ強援ヲ假テ、内外相通ジテソノ暴威ヲ恃ミ、王師ノ屏息ニ乘ジテ、日本ノ靈界ヲ侵シ、掠奪ヲ恣ニシテ兇虐厭クコトヲ知ラズ、殘忍憚惡ノ態、蠻行醜瀆ノ狀、觀ルニ堪フベカラズ、速カニ三軍ヲ振ヘテ、金剛ノ大戟ヲ加ヘズンバ、靈界ノ前途ソレ計ルベカラザル也、コレ内戰ナリト雖、尤モ要且急ナルモノ、乃チ亦宇内出征軍ニ於ケル振旅ノ第一歩也、『日蓮先ガケシタリ若黨共ニ陣三陣トツマケ』ノ梵音ハ、既ニ進軍ノ喇叭ニ入レリ、起テ應ゼザルハ、營中睡眠セルカ、抑亦全軍病ニ臥セルカ。

起々ザルヲ得ザル也、戰ハザルヲ得ザル也、三毒五欲ノ草寇アリ、外道俗見ノ海賊アリ、謗法邪見ノ賊軍ハ、魔援ヲ恃ンデ太ダ驕リ、將サニ草寇海賊ト相通ジテ、強大ノ聯合軍ヲ組織セントス、自由討究ノ土足ヲ以テ、三藏ノ太廟ヲ踏荒シ、世間文飭ノ泥杖ヲ以テ、雅思淵才ノ筵ヲ汚スハオロカ、賭博天下ニ充チ、賄賂朝野ニ盈ツ氣節地ヲ拂ヒ、輕佻風ヲ爲ス、詐僞ハ商工ノ骨ニ入り、淫靡ハ書生ノ血ヲ擾ス、滔々トシテ天下日ニ惡ニ趣キ、慣レテ性トナリ、毒筋肉ニ遍シテ、自ラ病アルヲ覺ラズ、衰世ノ極ト謂フベシ、淺膚ノ學之ヲ煽シ、邪曲ノ教之ヲ鼓ス、外道邪教揚々トシテ敢テ神聖ヲ僭ス、濁世ノ五亂、阿難ノ七夢、兇徵具サニ現ズ、起々ザルヲ得ザル也、戰ハザルヲ得ザル也。

戰ハイカナル場合ニ於テモ『侵略』也、戰ハ緩ナルベカラズ、疾キコト風ノ如クナルベシ、戰ハ輕躁ナルベカラズ、靜ナルコト林ノ如クナルベシ、戰ハ輕浮ナルベカラズ、泰キコト山ノ如クナルベシ、仁義ノ軍也、王者ノ師也、穆々タリ、堂々タリ、拔山ノ勇アリ、蓋世ノ氣アリテ、仁者無敵ノ量ナルベカラズ、ソノ惡ヲ懲シテソノ性ヲ害セズ、ソノ邪ヲ誅シテソノ智ヲ害セズ、其害ヲ除イテ其利ヲ沒セズ、其謬

チ匡シテ其迷ヲ拔ク、是レ本化ノ侵略也。

△法華折伏

「折伏」ハ假設的ニアラズ、法華經自爾ノ武德ナリ、ソノ固有ノ妙力ナリ、佛ノ光明ニ於ケルガ如ク、天ノ快樂ニ於ケルガ如シ、光明ナキ佛アルコトナク、快樂ナキ天アルコトナシ、「法華」ハ萬法ノ根元、萬善ノ太原ナルガ故ニ、一切ノ非法不善ニ對スレバ即チ衝突ス、既ニ衝突スレバ乃チ之ヲ征服セザレバ已マズ、無窮ノ慈念此經ニ乘如スレバ也、若シ折伏ヲ法華經ヨリ離サバ、音ヲ鼓ヨリ奪ヒ、味ヲ酒ヨリ去ルガ如シ、慈悲ヲ佛ヨリ除キ去ルノ時節アラバ「折伏」ト別ナルノ「法華經」ヲ見ルノ日モアルベシ、佛所護念ノ保險證ヲ有セル法華經ハ、終ニ折伏ヨリ離ル、能ハザル也、「攝受」モ亦折伏ト異曲同工也、本化ノ『安樂行品』ハ折伏也、迹化ノ『不輕品』ハ攝受也、『勸持品』、『涅槃經』モ亦然リ、謗法邪見ノ世ニアラシテ、恒沙ノ法門スベテ折伏也、邪見謗法ノ世ニ處シテ、一刹那頃モ非折伏ノ念生ゼバ、コレ死法華經也、コレ靈的國家ノ死沒也、若シ換フルニ「攝受」ヲ以テセントイフモノアラバ、コレ攝

受ノ既ニ母經ニ殉死シ了レルヲ知ラザル也、夫レ攝折ハ一體ノ二用、一用ノ兩作、即チ接化ノ表裏ニシテ、經力ノ隱顯ニ過ギズ、攝受モ亦戰也、但其戰ノ内面的侵略ニ屬スル耳、樽俎ニ折衝シテ未ダ戟ヲ執ルニ至ラザル耳、是レ法執見着ナキ無智惡國ニ對セル場合ノ統化法也、邪智熾ニ謗法大ナル時ハ、敵已ニ戟ヲ執テ我ヲ侵ス、是レ干戈ニ訴ヘテ戰ハザルヲ得ザルノ場合ナリ、戰ハ如何ナル場合ニ於テモ、必ズ侵略ナラザルベカラズ。

「法華折伏」ノ四字ハ、無期限ノ「宣戰詔勅」也、既ニコレヲ以テ宗ヲ立ツ、「侵略的宗是」ナラザルヲ得ズ、然ルニ天文ノ一頓挫ヨリ、内弛外侵、「宗是」爲ニ一たび動搖ヲ來シ、爾來種々ノ妄計踵テ起リ、硬派逐ハレ、軟派時ヲ得テ、宗風爰ニ萎頓シ、一轉シテ薄志弱行トナリ、二轉シテ腐敗遊惰トナリ、三轉シテ昏眠厥令ノ宗門トナリ了リテ今日ニ至レリ、今ニシテ日乾ヲ恨ミ、日堯ヲ訝リ、日透ヲ議スルモ、既ニ已ニ晩シ矣、既往ハ追フベカラズ、病ノ經過トアキラメン耳、今ヤ旺熱極騰シ竟テ纒ニ分離セントス、加攝宜シキヲ得バ、氣血調ヒ體力復スベキニ幾シ、或ハ意外ノ奏効ナキヲ保セズ、全軀久シク滋味ニ餒エタレバ也、嗟乎、不吉ナル「病的宗是」去

レ、而シテ健全清雍ナル「宗是」復セヨ、後人ノ竄入ニ聽ク勿レ、加水ノ乳ヲ服スル勿レ、爾チノ宗門ヲ生ミテ、恒久爾チノ爲メニ父タリ君タリ師タル、爾ノ祖師ニ聽ケ、爾チノ祖師ノ命ズル儘ニ行ヘ、別ノ才覺ヲ去レ、小情實ヲ撤セヨ、直チニ爾チノ祖師ヲ秉テ「宗是」トセヨ。

純ニシテ正シキ「宗是」ハ折伏主義ナラザルベカラズ、即チ「侵略的態度」ナラザルベカラズ、是レ本宗ノ先天的宗是也、故ニ一切ノ宗門的施設ハ、咸コノ方針ヨリ割出シタル組織ナラザレバ、宗門活動セザル也、教法ニ於ケル儀軌作法ハ論ナシ、學門教育モ此ニ於テシ、弘通傳道モ此ニ於テス、制度亦然リ、寺院ノ制、僧侶ノ制、信徒ノ規、財政ノ策、スベテ悉ク「侵略的」意義ニ組成セラレ、侵略的方面ニ行動スルヲ要ス。

寺院ノ門石ヲ見ズヤ、ソノ「一天四海皆歸妙法」「閻浮提内廣令流布」ノ文字ハ、日夕出入ノ縑素ニ「侵略」ヲ號令スル也、久遠寺、本門寺、本國寺、妙法華經寺、妙顯寺、コレ皆相對的對破ノ名ニアラズヤ、「略侵的」ノ徽號ナラズヤ、侵略的ニ信仰セヨ、侵略的ニ學ベヨ、侵略的ニ說ケヨ、侵略的ニ書ケヨ、朝々夕々造次顛沛モ侵

略的意氣ヲ充タセヨ、本山ヲ參謀府トセヨ、檀林ヲ練兵場トセヨ、一切スベテ侵略的理想ニ行動セヨ、『ユーラン平劍乎』ハ猶甚ダ緩弱也、須ラク『法華經ハ劍ナリ』ト曰ヘ、老嫗モ杖ヲ揮テ世界統一ヲ説ケ、幼童モ鼓ヲ鳴ラシテ『法皇進軍ノ曲』ヲ歌ヘヨ、利ノ爲メニ祈ル勿レ、身ノ爲メニ祈ル勿レ、父母ノ爲メニ祈ル勿レ、師ノ爲メニ祈ル勿レ、只侵略ノ爲メニ祈レヨ、侵略ノ爲メニ死セント祈レヨ、侵略ニ非ザレバ言フ勿レ、動ク勿レ、視ル勿レ、聽ク勿レ、侵略の意味ナラザル勸化ニ布施スル勿レ、侵略的態度ナラザル布教ニ奔走スル勿レ、侵略的氣節ナラザルモノハ速カニ宗門ヲ去レ、死セル萬人ヲ有スルヨリモ、生ケル一人アルニ如カズ、況ヤ七千ノ僧侶、三百萬ノ信徒、一タビ昏睡ヨリ起チ、警呼應同シテ、異體同心ノ大節ヲ復シ、一舉シテ侵略突貫ノ聲ヲ齊ウセバ、山岳震ヒ、湖海動クノ慨ナクンバアラジ、侵略ナル哉、侵略ナル哉。

△侵略ハ天地ノ公道ナリ

『侵略』ヲ以テ穢義トスル勿レ、萬物ハスベテ侵略也、動物ハ侵略ノ精ナリ、若シ

自ラ侵略セザレバ、則チ他ニ侵略セラル、猫ハ鼠ノ侵略者ニシテ犬ノ被侵略者也、人モ亦強弱ノ間、貧富ノ間、智愚ノ間ニ於テ交モ侵略的也、聖人モ、道德モ、法律モ、學問モ、皆ソノ反對物ニ對スル侵略的性質ヲ有ス、侵略ハ天地ノ公作用也、然レモ惡侵略アリ、善侵略アリ、有上のアリ、無上のアリ、凡的アリ聖的アリ、今所謂法華的侵略ハ、即是無上侵略也、善侵略也、聖侵略也、此侵略ニヨリテ心田潤ヒ善苗蘇スル也、毒的ニアラスシテ藥的也、ユレ天地ノ公道ナリ、教法ノ『大義』也、而シテソノ鮮明ナル旗色ハ、濟世度生ノ正シク清ク純ナル『名分』也。

△爾チノ祖師チ忘レタル乎

一日モ早ク天下ノ邪教ヲ撲滅シテ！、即チ迷界ノ民ヲソノ邪毒ヨリ救済シテ！、天下萬民諸乘一佛乘トナスニアラザレバ、吾ガ人界受生妙法受持ノ本分全カラザル也、願クハ吾一生涯ニ此大願ヲ達セン、若シ能ハズンバ子孫ヲシテユノ榮ヲ見ルヲ得セシメン、大日本國成佛セズンバ吾レ成佛スベカラズト念セヨ、皇室、憲法、議會、政府、乃至人民、スベテ悉ク發迹顯本シテ、唯一妙道ニ歸融セザレバ、死スル

トモ瞑スル勿レ、佛召ストモ起タザレ、天招クトモ行カザレ、
縦令ヒ王侯ノ位ヲ授ケテ誘フトモ此洪願ヲ捨テザレ、縦令ヒ父母ノ頸ヲ刎チント嚇ストモ、
此主張ヲ抛タザレ、萬艱一時ニ來ルトモ努々退クベカラズ、コレ日蓮門下ノ生命也、
日蓮主義ノ鍊槌ニヨリテ鍛ヘ上ゲタル、真正ノ日本の氣節也、日本の德操也、
此心一刻モ去ラバ、則チ「妙宗」モナク「日本」モナシト觀ゼヨ。

而シテ眼ヲ轉ジテ、今ノ日蓮宗ヲ見ヨ、ソノ學問ハ如何、ソノ布教ハ如何、宗規ハ如何、
財政ハ如何、一切ノ宗門動作ハ何チ票準トナシツ、アリヤ、其宗是トシテ執レル所ハ何ゾ、
寺院ヲ光飾セント勉ムルモノハアラン、書ヲ講ジ法ヲ説クニ勉ムルモノハアラン、
營造ヲ事トスルモノモアラン、慈善ヲ事トスルモノモアラン、設ヒ扶宗ノ良志ナルベカラシモ、
而カモ其大目的ノ正準ハ、一宗ノ公的宗是非ズシテ、局部的也、地方的也、個人的也、
器械的也、甚シキニ至リテハ名聞的射利的ナルモアリ、其尤モ眞面目ナルモノモ、亦タ一宗ノ動作トイフコトヲ自覺シテ起
タルニアラズ、ソノ安心ハ統一ナキ退嬰主義ニ在リ、ヨシヤ一山一寺ノ上ニ小効アリトセンモ、
一宗ノ上ニ幹部的營養トナラズ、假リニ爲宗ノ美事ト做サンモ、猶コ

レ小局部面ノ美ナリ、本根ニ培ハズシテソノ枝葉ニ漑グ、一時ノ潤澤ヲ裝フトモ須臾ニシテ枯渴セン、
嗟乎一宗ヲ持ツ、モ寺院也、一宗ヲ枯ラスモ亦寺院也、要ハ其處置ノ當チ得ルト否トニアリ、
而シテ其處置ハ究メテ「宗是」ノ奠定如何ニ存ス、寺ノ爲ニ宗門ヲ謀ラバ、宗門ノ精神死シ、
次イデ寺院モ孤立シテ終ニ夫レ倒レン、先ヅ寺ヲ捨テ、而シテ宗門ヲ謀ラバ、
則チ宗門活キ寺院榮エン、寺院ノ宗門ニアラズシテ宗門ノ寺院ナルコトヲ自覺セザレバ、
宗門ノ談ハスベテニ於テ盲聾タラン、苟モ祖師ノ前ニ稽首スル一點ノ良心存セバ、
僧侶ノ宗門ニ非ズシテ、祖師ノ宗門ナルコト、寺院ノ宗門ニアラズシテ、
宗門ノ寺院ナルコトノ曉了セラレザル管ナシ、苟モ此チ曉了セバ、
祖師ヲ本トシ宗門ヲ本トスルノ大安心ハ、立地ニ開發セラレザルベカラズ、
然ルニ宗門ノ現勢ハ、嚴格ナル意義ニ於テ宗門ノ滅亡ナルチイカンセン、
僧侶ハ在リ、寺院ハ在リ、然レドモ宗旨ハナシ、檀林ハ在リ、學者ハ在リ、
然レドモ宗旨ハナシ、布教ハ在リ、信徒ハ在リ、然レドモ宗旨ハナシ、
唯史の日蓮宗ノ故跡ガ諸國ニ散在シテ、
淋シキ史話ヲ薛苔ニ飾レルノ外、祖師ノ關リ知ラザル、非本化的ノ談論ト、
聞クモ苦々シキ愚妄賤劣極ル邪迷的信仰ノ聲トガ、俗臭滿々ノ金碧堂

裡ニ榮エツ、アルヲ見ル而已、コレヲ以テ宗門繁昌ト心得、廣宣流布ト誣フルニ至テハ、涙ノ外、何等ノ辯論モ要ナキニ似タリ、是ニ於テ予ハ絶叫シテ、宗門ノ天下ニ問ハシ、爾チノ祖師ヲ念フコト罔キヤ、爾チノ祖師ノ尊キヲ忘レタルコト無キヤト。然レドモ、是レ猶ソノ個人ニ出デタル罪ニ非ズシテ、『宗是』ニ歸嚮セザル罪也、否歸嚮スベキ『宗是』ナキノ罪也、否、否、正明確實ナル『大宗是』イマダ立タザルノ罪也。

△大義名分ノ祖猷

今ヤ將サニ衰亡ヨリ立タントスル日蓮宗ハ、第一ニ其旗色ヲ分明ニセザルベカラズ「大義名分論」ノ祖猷ヲ實行シテ、『侵畧的態度』ヲ固守スベク改メザルベカラズ、是レ宗門改革ノ第一用意也、『侵畧的宗門』ナルヲ忘却シテ、一日ノ安チモ貪ラントスルハ、宗門ノ精神ヲ死ロスノミナラズ、宗門ヲシテ天下無用ノ物タラシムル也、無用ニシテソノ存在ヲ苟モスルハ、祖師ノ罪人タルト共ニ、亦コレ社會國家ノ罪人ナリ、聖祖ガ一般ノ佛教家ト世間トニ教ヘタマヘルハ、純正的確ナル「大義名分論」ニアラズヤ、念佛無間論モ、眞言亡國論モ、立正安國ノ主義モ、觀心本尊ノ實

義モ咸ク、『本化的大義名分論』ノ能判ヨリ出タリ、大義明カナラズ、名分正シカラザレバ、佛法ハ闇也、世間モ闇也、佛モ土偶也、修行モ兒戲也、佛ヲ除イテハ、本化ノ外、言フ能ハザル所ノ法門是也、弘法、法然、慈覺、智證、善無畏、達磨、乃至内外一切ノ聖賢及ビ教法學說ニ對スル、聖祖ノ判定ハ、スベテ「大義名分の批評」ニアラザルハナシ、而シテ他ヲ制スルニハ之ヲ以テシ、自ラ規スルニハ之ヲ以テセズトイハズ、誰レカ之ヲ信ゼン、乃チ宗門自ラハ、必ズ先ヅ「大義名分論」ノ實行者ナラザルベカラズ、ソノ摸範者ナラザルベカラズ、是レ本宗ノ尤モ明カニスベキ所ノ旗色ナラズヤ、然ルニ今ノ日蓮宗ハ如何、本山ト宗門、寺院ト宗門、僧侶ト宗門、宗門ト信仰、布教、教育、ソレラノ總テニ於テ、『宗門ノ大義』イカ體ニ存在シ發揚セラレツ、アリヤ、『宗門ノ名分』イカ體ニ確立シ發揚セラレツ、アリヤ、『大義ノ前ニハ親ニ背イテモ君ニ就ケ』「タトヒ善キ義分ナリトモ先ヅ名ヲ忌ムベシ」トノ祖教ニ生ミ出サレタル宗門ガ、寺院アルヲ知テ、宗門アルヲ知ラズ、法類アルヲ知テ宗門アルヲ知ラズ、先師アルヲ知テ祖師アルヲ知ラズ、布教アルヲ知テ折伏立行アルヲ知ラズ、寺ニヨリ地方ニヨリ學派ニヨリ意樂ニヨリテ、各々本尊ノ

式ヲ異ニシ、又修行ノ軌ヲ異ニシ、淫祠ノ簇出ヲ縱マニシ、雜亂ノ修行ヲ恣マニシテ、秋毫モ怪シム心ナキハ如何、大日彌陀ノ無縁ヲ論ジ、權小杜撰ノ謗法ヲ訶シ、以テ一乘ノ經ト三界ノ獨尊トヲ奉ジテ、佛教ノ『大義名分』ヲ明ニシ、諸宗ノ法ヲ呼デ「非義非分」ト破シ、此邪ヲ用ウルガ故ニ、世間ノ綱紀紊レテ、君臣父子ノ義親淪滅シ、神辭シ聖去ルガ故、邪氣天下ニ充チテ此國危シト爲シ、萬難ヲ忍ビテ、此『大義』ヲ掲ゲ、『名分』ヲ明カニシテ、世ヲ救ヒ國ヲ助ケタマヘル、萬世不變天地ヲ貫ケル、廣大深遠ナル祖教ヲ傳持セル宗門トシテ、胡ゾ其洪範ニ違シ其玄謨ニ反スルノ甚シキヤ、天ニ二日ナク、國ニ二王ナシテフ、尤モ親易キ道理ニダモ符合セザル今日ノ宗門制度ハイカン、聖祖ヲ以テ眇タル一宗門祖ト爲スサハ甚シキ非分ナルニ、況シテ之ヲ妄信ノ對象ト爲シテ、種々ノ綽名ヲ附ケ奉リ、門牌戶牖ニ濫用スルニ至テハ、三界ノ大依師人天ノ眼目タル高祖ノ神聖ヲ汚シ、「末法大導師」ノ主位ヲ侮辱シ奉ルノ甚シキモノト謂フベシ、「並行」ヲ禁ジ、「錯亂」ヲ呵シタル聖判ニ違シテ、外護侍衛ノ神ヲ崇ムルコト、祖師ヨリモ尊ク、本尊ニ種々ノ新勸請ヲ杜撰妄列シ、誦經禮讚ニ重キヲ置キテ、唱題ヲ輕ンズルノ現象ハ如何、流テ衆ニ出

デ多ニ趨ルモノハ、亂ノ本也、誤ノ府也、歸シテ專ニ入り一ニ止ルハ、亂ヲ正シ誤ヲ繩ス所以也、一法ヲ主トシ、一佛ヲ主トス、是レ聖祖ガ爲シタマヘル佛教ノ究竟革命也、釋尊ハ之ヲ命ジ、上行ハ之ヲ聽キタル也、然ルヲ勸請ノ雜亂雜多、ソレ今日ノ如ク、修行ノ正助ヲ顛倒セル、ソレ今日ノ如ク、學問ノ精神ナキ、弘通ノ主義ナキ、ソレ今日ノ如クニシテ、何ヲ以テカ他門ニ對セン、何ヲ以テカ世間ニ臨マン、權邪頻リニ熾ニ、淫祠迷信頻リニ昌エツ、アル今ノ社會ハ、大公至正ノ妙道アリテ、之ヲ匡救スルニアラザレバ、綿延トシテ毒ヲ天下ニ流シ、日夜ニ群生ヲ火坑ニ誘ヒ行ク也、之ヲ匡救スルハ實ニ本宗ノ任務ニ屬ス、然ルニ其自ラノ態度ニシテ、雜亂滅裂カクノ如クンバ、彼ヲ救フ能ハザルハマダシモ、却テ世間ヨリハ邪教視セラレ淫祠視セラレ、迷信ノ府トセラレ、劣等ノ宗教ト侮ラル、モ、幾ンド言解クノ辭ナカラシ、否、世間ノ多クハ(多少ノ淺察アルニモセヨ)、殆ンド斯ノ如ク本宗ヲ賤シミツ、アル也、耻テ且切齒セザルベケンヤ。

予ハ斷々乎トシテ、今日ノ宗門ヲ以テ、祖教ニ睽ケルモノ多ク、時宜ニ後ル、モノ多キ、極メテ不整頓ニシテ無主義ナル病的教團ナリト絶叫セントス、是レ併シナガ

ラ確然タル「宗是」ナキニ基因ス、宗ヲ念ヒ法ヲ護ランノ誠意アルモノ、イカンゾ
 『宗門ノ維新』ヲ叫バザルヲ得ン。

上來既ニ改革ニ就テノ根本精神トシテ、「宗是」ノ必ズ『侵略的』ナラザルベカラザ
 ルヲ説ケリ、因テソノ改革ノ案件ニ關シテハ、之ヲ『復古的』ニスルト、『進歩的』
 ニスルトニ論ナク、一切ニ『侵略的意義』ヲ奉ジテ、之ヲ計畫シ成立シ施行セザル
 ベカラザル也、故ニ予ガ宗規改革ノ條々、一モコノ精神ヲ以テセザルハナシ、即チ
 根本的改革ナリ、根本的復古ナリ。

△祖師宗門重キ乎、先師法類重キ乎、

法教的問題ハ、絶待ニ復古センコトヲ要ス、新義竄入ノ分子ハ、一切ニ之ヲ排除スベ
 シ、若シ爾ラザレバ、开ハ後人ノ宗旨ニシテ祖師ノ宗旨ニアラザル也、歴代ノ先師、
 徳アリトモ學アリトモ、祖師ニハ換ヘガタカルベシ、況ンヤ先師ソノモノ、竄入
 トイハンヨリモ、後學轉謬ノ失意誤用ニ由ル者多々ナルヲヤ、若シ純ラニ祖師ニ依
 ラントイフヲ厭フノ先師アリトセバ、コレ既ニ宗門ノ先師ニアラザル也、斯ノ如キ

モノニ對シテハ、宗家ハソノ祭ヲ絶テ可也、畢竟、時代ノ推移ト共ニ、近キ情實ニ
 壓サレテ、漸々ソノ本根ニ薄ラギ行キタル結果、遂ニ「法類」「先師」アルヲ知テ、
 「祖師」「宗門」アルヲ忘ル、ニ至レルモノ也、今ノ宗門ハ法類ノ宗門也、先師ノ宗門
 也、故ニ動モスレバ、分裂ノ夢ヲ描キ、孤立ノ陋ニ陥ラントスル也、何ゾ其心ノ狹
 小ニシテ、其量ノ快濶公明ナラザルコト斯ノ如ク夫レ甚シキヤ、是レ自ラ爾デノ祖
 師ヲ信ズルコトノ深カラザルヨリ來ル所ノ元品ノ無明ナリ、自ラ吾ガ宗門ノ褊狹陋
 小ナランコトヲ樂ヒ求ムルノ愚ナルコトハ、敢テ予ガ所論ヲ待ツベキニ非ズ、而カモ今
 ニ及ブマデ、闔宗ノ諸大徳、曾テ心ヲコ、ニ致セルコト無キハ、抑モ何ゾヤ、由來宗
 門改革ノ聲ヲ聞ク、啻ニ一再ノミニアラズ、而シテ其要求多クハ區々寺稅宗費ノ
 外ヲ出デズ、近來教育及布教ノ事ナイフニ至レルモ、猶檀林ノ財政ヲ議シ、朝鮮臺
 灣ノ布教ヲ計リシ如キニ過ギズ、到底今ノ宗門ハ、自ラノ宗門ヲ意識セザル也、自
 ラノ宗門ヲ誤解セル也、故ニ其「本尊式ノ雜亂」ヲ見テモ、「弘通式ノ無統一」ヲ見
 テモ、將又學林教科ノ無統率無秩序ナルモ、信徒安心ノ衰頽亂雜セルモ、見テ以テ
 意トセズ、コレ一大事ナリトモ思ハズ、幾ンド他人ノ痛癢ノ如ク然ル也。

宗門ノ改革ニ於テハ、宗法教義ノ雜亂ヲ繩正スルハ、則チ本也、制度經濟ヲ計ルハ、則チ末也、本ヲ善クシテ、末始メテ理マルベシ、「宗法」ハ宗門アル所以ノ謂ナレバ、此ニ於テ一點ノ瀆レアラシムベカラズ、是レ予ガ主トシテ、之ガ『復古的改革』ヲ叫ブ所以也。

△須ラク文明最後ノ大美ヲ濟スベシ

「宗法」古ニ復セハ、之ヲシ之ヲ弘フスルニ、善良ナル「制度」ヲ以テセザルベカラズ、而カモ制度ハ、有形的ニ在テ無形的ノ宗法ヲ護持光揚スル所以ナレバ、内ハ宗法ニ遵據シテ外ハ時世ニ順應スル良工夫ヲ立テザルベカラズ、況ンヤ社會既ニ駸駸ノ文化ニ駕シ、學術技藝、政治法律、日ニ進ミ月ニ改マリ、人情風俗ノ遷移、日タメニ眴セントス、此時ニアタリテ、人天ノ眼目トナリ、社會ノ先導者タルベキ、殊ニ文明最後ノ大美ヲ濟サシムベキ、吾ガ本化ノ妙宗タルモノ、弘教ノ方便、件々宜シキヲ失シ、ソノ便ヲ捨テ、不便ヲ取り、ソノ美ヲ捨テ、醜ヲ取り、時世ニ後レ、世情ニ遠カリ、人材饒ラズ、資財給セズ、矇然トシテ手ヲ叉テ人後ニ落ち、他門ニ

嘲ラレ世間ニ侮ラレテ、周章自失スルノ陋態ヲ演ジテ可ナランヤ、故ニ予ハ制度ノ改革ニ於テハ、最モ進歩セル英斷ノ革新ナカルベカラズト爲シテ、『進歩的態度』ヲ叫ブモノ也。

△精神ノ復古、方式ノ進歩

「教育」ト「布教」トハ各々兩義ヲ兼マザルベカラズ、例之、「教育」ニ於テ、宗風教育(即チ精神教育)ノ方針ハ、斷ジテ『復古的』ナラザルベカラズ、ソノ教授啓發ノ方式ハ、則チ渾沌的古式ヲ捨テ、進歩セル方式ヲ取ラザルベカラズ、從ラニ古書ノ頁附ヲ知り、末書科文ノ煩紛ヲ通曉セリトモ、活ケル宗義ニ何等ノ貢獻モアルベカラズ、兼修旁通洽ク内外ノ學ニ涉リ、尤モ多ク世界日進ノ新智識ヲ吞了シ消化シテ、對機開導ノ資ヲ充實セシメザルベカラズ、故ニソノ骨組ニ於テ『復古』ヲ取り、ソノ運用ニ於テ『進歩』ヲ要ス、「布教」亦然リ、所説ノ法門ハ、純正宗義ナラザルベカラズ、ソノ鼓吹スベキ信仰ハ、醇乎トシテ醇ナル、本化的宗風ナラザルベカラズ、然レモ其方式ハ渾焉トシテ舊習ヲ墨守シ、説ニ活氣ナク、論ニ光明ヲキ固陋的説教

ヲ以テスベカラズ、寺堂ノ中ニ少數ノ自門信徒ヲ聚メ、不整束ナル法門話ヲ繰返シツ、アラバ、廣宜流布ノ洪願、何ノ日カ果スヲ得ン、故ニ多ク他門ニ向テ説キ、世間ニ向テ説イテ、此本化ノ妙道ヲ、一日モ早ク一般國民ノ理想界ニ植エ付ケザルベカラズ、公開ノ演説、及ビ道路演説、尤モ必要也、今ノ布教ニ於テ、宗風の感化ナク、却テ新ヲ趁ヒ古ヲ失スルノ弊ヲ青年者ノ演説ニ見、清新ノ意氣ナク、古弊ノ病アルヲ老年者ノ舊式説教ニ見ル、法門ハ新ナルベカラズ、説明ノ方式ハ古ナルベカラズ、「布教」ノ改革モ、亦「教育」ト同ジク、精神ニ於テ『復古』ヲ要シ、方法ニ於テ『進歩』ヲ要ス。

△進デ論究セヨ

予ガ宗門改造ノ意匠ハ、『復古』ト『進歩』トノ兩極ヲ調和シテ、之ヲ統ブルニ『侵略的宗是』ナル大精神ヲ以テスルコト、上ニ既ニ説クガ如シ、而シテソノ改革ノ所對タル要件ハ、「宗法」ト「制度」ト「教育」ト「布教」トノ四綱ナルコトモ、既ニ略論セリ、尙此ニ次デ語ルベキ總論中ノ一要義アリ、左ニ略言セン。

宗法ノ案件ハ、咸ク法門ヲ準的ト爲ス、故ニ亦許多ノ宗學的智識ヲ要ス、若シソノ當否ヲ議センニハ、慎重ナル討究論議ヲ經ザルベカラズ、由テ予ハ此總論ニ於テハ單ニ上來ノ大綱ニ止メ、直チニ別論ニ於テソノ意見ヲ陳ベ、別ニ一宗ノ碩學ニ向テ、一宗全軀ノ代表力アル委任ヲ帶ビ來リテ、予ト審議論究セラレンコトヲ希望シ置クベシ、又一宗ニ向テモ、爾カアラシメンコトヲ望ム者也、予不肖ナリト雖、ユノ改革ノ案件ハ、二十年來ノ蘊究ヲ累テ、且ツ實行ニ徴シテ、ソノ誤ラザルヲ確認スルガ故ニ、今之ヲ宗家ニ勸告スルハ、終生ノ責任ヲ以テソノ允當ナルヲ確認スル所也、予ハ何時ニテモ其責ヲ全フスベキヲ誓フ、又其日アランコト切ニ願フ也。

△僧侶ノ本山ヲ要セズ宗門ノ本山ヲ要ス

制度ノ改革ニ於テハ、夥多ノ條項ヲ有ス、而シテ其中ノ本末幹支ヲ釋テ、組織的ニ概論スレバ、「本山」「宗長」「寺院」「僧侶」「信徒」「宗政」ノ諸門ヲ明ニシテ、宗制大新ノ要義ヲ貫了スルコトヲ得ン、コレ制度革新ノ眼目也、宗風復活ノ大準備也、

由來宗風ノ振ハザルハ、首トシテ宗法ノ雜亂ニ基因スルハ論ナシト雖、種々ノ惡制

度之ヲ害シタル亦事實也、「本山制」ノ完全ナラザルガ如キ、實ニ其優等原因也、隨テ「宗長」定マラズ、「寺院」統率ヲ缺キ、「僧侶」歸嚮チ一ニセズ、「信徒」制裁ナク、「宗政」一途ニ出デザリシ也、然レモ古ハ今日ニ比シテ、信仰深ク道念篤キガ故ニ、甚シキ軀面ヲ損ズルニ至ラズト雖、此惡制度ニ育チタル宗門ガ、一旦道念缺乏、信仰衰減セル今日ニ逢着シテハ、ソノ惡制度ヨリ受クル所ノ弊害、更ラニ一層ノ甚シキヲ加ヘ、宗門ノ統一ナキヲ利用シテ、種々ノ愚作魔作ヲ長ジ、衰ニ衰ヲ加ヘ、惡ニ惡ヲ増シテ、一宗ノ風氣、瓦然トシテ墜落シ、妄想百出、醜態續露、幾ンド直視スルニ堪フベカラザルニ至レリ、故ニ設シ「宗制」ノ美ヲ舉ゲント欲セバ、第一ニ此根本ヲ正サザルベカラズ。

今ノ本山ハ宗門ノ本山ニアラズシテ、寺院ノ本山也、「信徒」ノ本山ニアラズシテ、僧侶ノ本山也、「管長」ハ一宗ノ首長ナリト雖、寺院ヲ左右スルノ權能ナシ、宗制ニヨリテ纔ニ課金ノ督促ヲ爲スニ過ギズ、寺院ハ依然トシテ本山ノ制裁ニ依ラザルヲ得ズ、「管長」ハ宗制ノ條項以外、絶待ニ本山ニ命令スベキ權能ナシ、又「本山」ナルモノハ、末寺ニ對シテ無上主權アリテ、一宗ニ對シテハ何等ノ權能モナク、管長亦

諸本山ノ主權ニ君臨スルヲ得ズ、本山ヲ舍テ直ニソノ末寺ニ君臨スルヲ得ズ、權能全カラズ、主宰力缺ケタル「管長」「本山」ヲ二重ニ戴キ、制裁鹵莽、統御薄弱ノ下ニ彷徨セル、一宗ノ寺院及ビ僧侶ハ、宗門的任務少クシテ(若クハ無クシテ)徒只寺院的任務アルノミ、稀レニ本山的用務アルモ、コレ事大的也、御役目的也、隨テ其思想ハ、ヤヤモスレバ陋狹ナル個人主義ニ流レ、猜忌排擠、牢然トシテ風ヲ爲シ、矮小孤立ニ安ンジ、毫モ遠大高邁ノ氣節ナク、退歩卻縮、日ニマス、衰ニ就クノ觀アリ、此惡風化ヲ被リテ、固有ノ美風ヲ破壞セラレツ、今ノ如ク亂離ノ民ト爲リ了レルハ、可憐ニシテ不幸ナル吾ガ全國ノ信徒也、ソノ一本誤テ衆末亂ル、今ノ宗門ハ數百年來、此惡本山制ノ惡風ニ沮害セラレ、廣宣流布ノ洪業ヲ却退セシメタリ、而モ一宗全滅ニ至ラザリシハ、全ク聖祖ノ威烈ニヨレリ。

宗門ノ主權分レテ四十有餘トナレル現日蓮宗ハ、名ニ於テ一宗ナレドモ、事實ニ於テ四十有餘派ノ聯邦制度ナリ、其淵原、全ク門流時代ノ確執對峙ヨリ出ヅ、而カモ古ハ法門相承ノ爲メニ、各自ノ主張アリテ一門流ヲ爲ス、亦已ヲ得ザル所ナキニアラズ、今ニ在テハ、諸山ノ法義的主張消亡シテ、門流相承ノ實ナシ、復タ一流骨張

ノ要アルヲ見ズ、然ルニ今ノ諸本山ナルモノ、但過去ノ歴史ヲ夢ミテ、末寺法類等ノ小情實ノ下ニ割據セル一種ノ情力耳、固ヨリ一宗ノ統一ヲ害シテマデモ、ソノ孤立ヲ持續スベキ必要、斷々トシテ之レナシ、宗門統一ノ實ヲ舉グルガ爲メニハ、須ラク歡ンデ之ヲ廢合スベキモノ也。

「身延」ハ總本山ノ稱アリテ、而カモ其實ナシ、『總ハ尊稱ノ謂ニシテ總轄ノ謂ヒニアラズ』トハ、日蓮宗會ガ嘗テ爲セル命名ノ宣告ナリキ、嗟、「名分主義」ノ宗門ニ於テ、斯ノ如キ非名分の宣言ヲ爲ス、顛倒モ亦甚シカラズヤ、總ノ名ヲ以テ尊稱ノ義ト爲ス、既ニ鑿也、總轄ノ實ヲキモノニ總ノ名ヲ附スル、既ニ僭也、名正シクシテ實コレニ順フ、名義ノ確立セザルハ、『宗是』ノ不健全ナル徵證也、予ハ靈地トシテ「身延」ヲ以テ、一宗ニ冠タルモノトコソスレ、「本山トシテノ身延」ハ單ニ列侯ノ一ニ過ギズト謂ハン、「池上」、「六條」、「中山」、「龍華」、亦ミナ然ラザルハナシ、況ヤソノ他ノ諸本山チヤ、過去ノ舊夢ヲ逐フ勿レ、眼前ノ情實ニ拘々タル勿レ、區々タル小規模ニ甘ンズル勿レ、須ラクソノ本山チ大ニセヨ、最高位地ニ進メテ主權ノ所在トセヨ、今ノ本山ハ、單ニ其一山ヲ以テシテハ、身延ヲ始メ、スベテ一宗ニ君臨スベキ資格ヲ具備セズ、尊嚴足レバ由緒足ラズ、由緒足レバ實力足ラズ、到底所轄末寺ノ本山ニシテ、一宗ノ本山タルニ足ラザル也、夫レ「身延」ノ總本山「龍華」ノ四海唱導、「六條」ノ正嫡付法、「比企」ノ根本道場、「中山」ノ本尊相承、コレヲ合セテ以テ始メテ一宗絶待ノ尊嚴ヲ生ズベシ、況ヤ四十本山ノ由緒特徴及ビソノ實力ヲ聚ムルチヤ、故ニ予ハ合末ヲ論ゼズシテ合本ヲ絶叫ス、名正シク義明カニシテ、實モ亦備ルヲ以テ也。

△本山ノ開麤顯妙

一山ヲ以テ他山ヲ併セントスルハ、史的情實ノ許サザル所、各山ノ由緒ハ、謂レナク他山ニ奪ヒ去ラルベキモノニ非ズトノ喬持ハ、必ズシモ不當ノ言トイフベカラズ、古者、身延ノ日叡、一たび三山ノ合一ヲ計リテ成ラズ、却テ諸山ノ感情ヲ害シテ、永ク比延ノ反目ヲ強メタリ、近時ノ「合末論」、亦タ其意ハ佳ナリシモ、名分未ダ美ナラズ、趣向甚ダ矯激ニ失セルガ爲メ、空シク諸山ノ割據心ヲ激シテ已ミヌ、予ハ之ニ先ダチテ、東京ニ於テ『合本論』ヲ主張ス、後京都ニ到リシ時、本山黨ノ巨鎮

ト謳ハレ 保守家ノ泰斗ト稱セル、彼ノ六條ノ老傑「釋日禎師」ニ面シ、説クニ予ガ『合本論』ヲ以テス、師案ヲ拍テ善哉ト稱シ、且ツ曰ク、『斯ノ如クニシテ宗門ノ統一ヲ實ニスルヲ得バ、予ハ悦デ本圀寺ヲ宗家ニ捧ゲン、諸山亦異議ナカルベシ』ト、此人ニシテ既ニ爾リ、誰レカ此論ニ抗スルモノアラン、但其斷行ノ遲速ハ、決心ノ如何ニ在リ、護法活眼ノ開否如何ニ在リ、由來本山ノ各立ガ、情實ヲ本トナシタルソレニ對シ、突如トシテ「合末論」ヲ唱ヘ、諸山ノ末寺ヲ身延ニ輒セヨト強ヒタルハ、宛カモ身延ノ榮ヲ計ルガ爲メニ、諸山ノ獨立ヲ奪ハントスルモノナリトノ、情實の解釋ヲ以テ迎ヘラレタル所以ニシテ、即チ併呑の態度ノ瑕瑾ナリ、『合本論』ハ則チ然ラズ、諸本山ヲ打テ一丸ト爲ス、ソノ歴史の由緒モ、ソノ傳來ノ尊嚴モ、歷代モ、墳墓モ、名義モ、情實モ、資産モ、貫主モ、一切ソノ儘ニシテ、毫モ資格ヲ損傷セズ、此沒彼現シテ、他ノ諸山ト共ニ、聖祖靈鑒ノ下ニ相合シテ一トナルモノ也、四十有餘山ノ化合結晶セル唯一絶待ノ眞本山現ジ來ル也、泯亡ニ非ズシテ、泯融也、合列ニ非ズシテ合一也、一ナレドモ諸山宛然トシテ具足ス、諸山亡セズト雖、別立セズ、即チ絶待開會ヲ以テ、諸山及ビ一宗ノ隔礙ヲ絶スルノ法門也、併呑

ニ非ズシテ歸本也、霸道ニ非ズシテ王道也、奇ニ非ズシテ正也、權ニ非ズシテ實也、蠱ニ非ズシテ妙也、合本ナル哉合本ナル哉。

△宗門ノ版圖、信徒ノ人籍

「唯一本山」成立シテ、始メテ一宗ノ事實的首長自ラ定ル、一宗コレニ由テ誠ノ統一ヲ計ルヲ得ベシ、寺院モ定リ、僧侶モ定リ、信徒モ定リ、宗政ノ美モ舉ルヲ得ン、一宗ノ首腦コ、ニ定マラバ、直チニ法義的性命ノ回復ヲ見ン、尋テ要ナルベキハ、寺院的宗門ヲ破シテ、法義的宗門ト爲シ、僧侶的宗門ヲ變ジテ、信徒的宗門ト爲スノ一事コレ也、今ノ宗門ハ、法義ヲ中心トセズ、寺院ヲ中心トシテ存在ス、法律亦寺院ヲ認メテ宗門ヲ認メズ、寺院ヲ護持スルノ僧アリテ、法義ヲ護持スルノ僧ナシ、寺院ニ臨メル管長アリテ、法義ヲ主ル管長ナシ、木像ノ祖師アリテ精神ノ祖師ナキ也、寺院ノ財産アリテ、宗門ノ財産ナキ也、僧侶ノ私財アリテ、祖師ノ財産ナキ也、否、名ニ於テハ有ルガ如クニシテ、實ニ於テハ全ク無キ也、又僧侶ニ臨ムノ宗制アリテ信徒ニ臨ムノ宗制ナシ、「管長」ハ僧侶ノ管長ニシテ、「信徒」ノ管長ニ非ズ、夫

レ一宗勢力ノ根原ハ信徒也、財力ノ根原モ信徒也、此點ニ於テハ、僧侶ハ末也、信徒ハ本也、「管長」「宗制」ハ、ソノ末ニ臨ミテ其本ニ臨マズ、寺院僧侶ヲ進退スルノ宗制アリテ、信徒ヲ主宰スベキ宗規ナキハ、宗門勢力ノ薄弱ヲ致ス所以也、故ニ予ハ一宗ノ制裁力ヲ信徒全般ニ及スベキ案件ノ最要ナルベキヲ認ム、而カモ此一事多大ノ深籌巧思ヲ要ス、詳細ハ他日ヲ期シ、今ソノ要ヲ言ハ、信徒ノ分限ヲ規定シテ「宗門戶籍」ヲ設クル是也。

信徒ヲ以テ民トシ、僧侶ヲ以テ官吏トシ、寺院ヲ以テ官衙トシ、本山ヲ以テ政府トシ、宗制ヲ以テ法律トシ、教法ヲ以テ憲法トシ、祖師ヲ以テ君主トシテ、宗門ノ國家ハ組織セラル、民ハ國力ノ本也、尤モ善ク之ヲ保護愛撫セザルベカラズ、宗門ノ布教ハ愛撫也、宗門ノ制裁ハ保護也、今ノ宗門ハ官吏ト役所トノミアリテ、君主ナク人民ナキ也、本山聯邦ノ貴族政治ニ由テ、信徒ハ御用金ノ侵略ヲ蒙ルノ外、何等ノ制裁保護アルコトナシ、版圖ノ實測ヲ經ズ、領海權ノ分域ヲ明ニセズ、不思議千萬ノ國家ト云フベシ、「宗籍ノ設定」ハ、此點ニ於テ、明カニ宗團ノ根本改造也、信徒檀徒ノ名ハ、寺院ノ所屬トシテ寺籍ニ附記セル耳、宗門ハ之ニ對シテ不問的也

管長ハ僧侶ニ臨ミテ威アレテ、信徒ヲ主宰スル權能ナシ、是レ「宗籍」ノ設ナキ混沌國ナレバ也、故ニ全國ノ檀信徒ニ對シ、一タビ宗籍奠定ノ事ヲ行ヒ、信徒タルノ分限ヲ定メ、「宗籍ノ登録」ヲ爲シ、「宗籍證」ヲ付與シ、宗徒タルノ服從規程ヲ置キ、其良ヲ賞シ、其不良ヲ罰シ、常ニ開導シ保護シテ、以テ信徒タルノ榮ヲ持タシムベシ、乃チ版圖實測ノ急且要ナル所以也。

而シテ其分限ヲ定ムルニハ、第一ニ本尊ヲ統一シテ、本山ヨリ付與スルモノ、外、崇用シ勸請スルヲ許サズ、修行ノ規範ヲ一定シテ、之ニ違フコトヲ許サズ、「宗稅」ヲ上納スルハ、家別及ビ人頭ノ二種トシ、「本尊拜受」「法號授與」「納骨」ノ三件ハ、信徒必ズ本山ノ允許ヲ受ケテ、其淨謝ヲ宗納セシムベク、以上ノ諸件ヲ具備セザルキハ、本宗信徒ノ分限ヲ失フコトヲ規約シテ、以テ全宗一貫ノ大統化ヲ施キ、一宗ヲ以テ一人トナシ、信徒ヲ躰トシ、宗法ヲ魂トシ、本山僧侶ヲ肝腦支官トシテ、始メテ法人ノ資格ヲ具備シ、其宗制ヲ社團トシ、其資産ヲ財團トシ、法律上社團及ビ財團ノ登記ヲ經テ、爰ニ始テ宗門ノ機能ト宗有權ノ所在ヲ明ニスベシ、之ヲ遂行スルニハ、本尊式ヲ一定シ、行軌ヲ一定シ、教育ノ主義ヲ一貫シ（宗風教

育) 弘通ヲ統一シ、及ビ信徒律ヲ定メ、土葬ヲ禁ジ、法號授與ノ主權ヲ本山ニ移シ、信徒タルモノハ、寺院ノ弟子ニアラズ、直ニ祖師ノ弟子トシテ、本山ノ直轄ニ屬シ、所在寺院ハ本山ノ代理トシテ、地方的任務ヲ負ウテ之ヲ分轄シ、「生誕」「結婚」「受法」「死亡」ノ四大節禮ヲ管督シ、常ニ宗命布教ノ法澤ニ浴セシメテ、「本山」ト「信徒」トノ氣脈貫通ヲ計ルテ、寺院住職第一ノ職責タラシムベシ。

△海上道場

今假リニ信徒ノ宗稅義資ヲ左ノ四項ト爲シ、其弱半ヲ以テ宗費トシ、其強半ヲ以テ國用ヲ資ケ、相待テ天下ヲ鼓舞スル法利ノイカニ大ナルカヲ見ヨ。

◎家別宗稅……………(法恩報謝トシテノ現行弘通外護、每家若干宗納)

◎人頭宗稅……………(國恩報謝トシテノ未來弘通外護、每人若干宗納)

◎本尊拜受義資……………(奉宗歸信ノ表意并ニ實費トシテ、每人若干宗納)

◎納骨請願義資……………(聖舍利寶殿侍安永久廟祭ノ實費、每人若干宗納)

已上四項ニ就テ、試ミニ其概勢ヲ算セヨ、五十萬家ノ檀信徒ヲ有セル妙宗トセバ、

毎家年納三圓六拾錢ニシテ、毎年百八十萬圓ヲ得、之ヲ以テ宗費ニ充ツ、教育及ビ傳道、ヤ、意ノ如クナルヲ得ベケン、又人頭三百萬ノ宗稅ハ、國威光揚、皇恩敬謝ノ宗門的事業トシテ、人別年資壹圓ヲ支出セシメ、ソノ三百萬圓ヲ以テ、年々武裝的商船三隻若クハ十隻ヲ建造セシメ、「妙法丸」又ハ「安國丸」等ノ名ヲ命ジ、平時ハ内外ノ定期航海ヲ爲シ、之ニ布教師若干員ヲ備ヘ、乘客ニ向テ、航海中毎日毎夜宗義的布教ヲ施シ、「信徒」ノ分限アルモノハ、貨物乗客トモ半額ト爲シ、本山登詣、靈場參拜ノ目的ヲ以テ乘船スルモノハ、其歸航ヲ無代價トナシ、以テ盛シニ海上傳道ニ、宗内ノ交通便利ヲ計リ、國家一朝有事ノ日ハ、ユノ法薰靈被セル幾百千隻ノ艦艦ヲ舉テ、快ク朝廷ノ用ニ供シ奉リ、號令一下ト共ニ、巍々乎トシテ武裝シ、法威國光ト共ニ輝テ、國ヲ護リ敵ヲ伏シ、義ヲ扶ケ仁ヲ爲ス、是レ日蓮主義ノ訓ヘタル慈善事業ナリ、彼ノ孤兒ヲ拾ヒ貧民ヲ賑ハシ、以テ善ヲ樂ム如キハ、社會的慈善ニシテ、宗教的慈善ニアラズ、人トシテ爲スベキモノニシテ、宗門トシテ爲スベキモノニアラズ、ソノ之ヲ爲スハ已ムニ勝ルノミ、國家ノ根本ヲ養ヒテ、邪ヲ摧キ、正ヲ護スルハ、即チ大乘ノ慈善也、軍艦ヲ造リテ佛事ヲ行ズルハ、安國論ノ密契、

涅槃經ノ洪範ナリ、慧愚ノ徒之ヲ知ラザルノミ、若シ能ク斯ノ如クニシテ、祖師ノ大慈願ト共ニ、層々宗力ヲ加長シテ年歳ヲ積ミ、一年十隻ノ準軍艦ヲ得、十年百隻百年千隻ヲ得バ、日本歸一ノ聖化、世界同救ノ聖識、蓋シ五百年ヲ出デザルベシ、尠クトモ日本國教ノ奠定、本門事ノ戒壇建鼎ノ詔命ヲ見ルハ、近ク百年ヲ出デザルベキヲ信ズ、本願寺何カアラン、ニコライ何カアラン、西比利亞鐵道何カアラン、彼得大帝ヲ地下ニ悔改セシメ、那勃翁ヲ九泉ニ嘲殺シ、意氣堂々、北斗ヲ吞ミ、一顧シテ星羅ノ萬邦ヲ歡喜合掌セシムルハ、妙宗徒ノ夢寐ニダモ忘ルベカラザル、先天ノ氣節ニアラズヤ、人若シ之ヲ聞テ、空談ト爲スモノアラバ、先ツ爾ヲ空人物ナルヲ憶ヘ、イカナル事モ行ハザルモノ、前ニハ、イツモ空談也、猫ニ貨弊ヲ談ズ是レ空談也、若シ之ヲ大ニ過ギタリト躑躅スルモノアラバ、是レ談ノ大ニハアラズシテ、爾ヲ小ナル也、螻蟻ハ牛ヲ知ラズ、是レ牛ノ大ナルニ非ズシテ、螻蟻ノ小ナルニ由レリ、幻想俗才秀吉ノ如キ、虛榮夢謀ヲボレオンノ如キ、猶ヨク匹夫ヨリ起テ、一タビ威ヲ内外ニ振ヒタルニアラズヤ、況ヤ久遠ノ本法ヲ奉ジ、無窮ノ大慈ヲ蓄ヘ、無外ノ大化ヲ垂レントスル、本化ノ遠謀深慮ヲ躡シ、經王ノ法威、神州ノ法門ハ是也』ノ聖判ヲ熟拜翫味セヨ。

△宗風の感化

而カモ猶屑々の怯弱ノ籌量ハ、ソノ「宗稅」ノ支出如何ヲ躊躇センズラン、然リ、今ノ日蓮宗ノ所謂信徒ナルモノハ、由來愚妄ノ宗教的動作ニ慣レテ、毫モ祖業宗風ノ何タルヲ知ラズ、太鼓ト御札ノ外、唯纔ニ庵々タル伽藍的信仰ノ小氣息アルノミ、是レ自ラ誤レルニアラズシテ、教ヘザリシ也、然レドモ信徒ハ依然トシテ信徒也、信仰歸依ノ名ヲ以テ、常ニ相應ノ報酬ヲ何物カニ向テ支拂ヒツ、アル也、一年三五圓ノ支出ハ、貧富ヲ通ジテコレヲ爲シ來レリ、只ソノ宗用ニ供セシカ、寺用ニ費ヤセシカ、僧ノ肚ヲ肥セシカ、學問傳道ニ使用セシカ、ピール牛肉ト變ゼシカニ在リ、尙或ハ無用ノ紛飭ヲ袈裟衣ニ加ヘ、無益ノ莊嚴ヲ僧房堂舎ニ施セル等ノ、宗用ニ遠キ(寧口無用ナリシ)事ニ向テモ、多大ノ御用金ヲ徵發セラレテ、唯々諾々タリシ恭

順溫柔ノ信徒ナリシ也、今之ヲ轉ジテ、局部ノ濫支出ヲ廢シ、非宗義的ノ布施ヲ禁ジテ、以テ統一セル宗財ノ下ニ輻湊セシムル耳、ソノ出ル所異ラズシテ、使フ所異ルノミ、死用セズシテ活用スル也、愚用セズシテ智用スル也、而モ尙是現下ノ信徒ニ就テ言フ、若シ夫レ宗門維新ノ大業コ、ニ定リ、宗脉一貫シ、宗風振肅シ來テ、宗門的活動ヲ自覺シタラン曉ハ、其ノ正シキ感化ヲ蒙ムリタル曉ハ、油然トシテ不惜身命ノ正信起リ、勃然トシテ廣宣流布ノ願芽發生センコト必セリ矣、既ニ不惜身命ノ誓アリテ、爭デカ區々三五圓ノ年費ヲ恪ムモノアラシヤ、國城妻子猶布施シテ厭ハズ、況ヤ金錢ヲヤ、一生ノ安心動作、徹頭徹尾、法ノ爲メ國ノ爲メトイフヲ以テ規矩トス、法ノ爲ニ生レ、法ノ爲ニ食ヒ、法ノ爲ニ婚シ、法ノ爲ニ兒ヲ舉ゲ、法ノ爲ニ財ヲ蓄ヘ、法ノ爲ニ財ヲ散ジ、法ノ爲ニ勞ヲ致シ、法ノ爲ニ活キ、法ノ爲ニ死ス、是レ當然ナル妙宗信徒ノ處世觀ニアラズヤ、如何ゾ生涯ノ富力ヲ捧ゲテ聖祖ノ御前ニ献ルヲ憚ビザララン、今ノ信徒ソノ意思ナシトイハバ、是レ妙宗ノ信徒ニアラザル也、信徒ナシテ妙宗的ナラシメ得ザリシハ、僧侶開導ノ至ラザリシ罪也、約言スレバ、宗門雜亂腐敗ノ反響也、若シ一日能ク之ヲ訓フレバ、猶一日ノ

宗風復ス、例セバ『立正安國會』ノ如シ、少數ノ信徒、貧ニシテ且ツ微、猶一寺院ノ檀力ニ超エジ、然レドモ予ガ宗風の感化ハ、着々功ヲ奏シ、處世觀ノ堅實、信行ノ正純ナルハ論ナシ、一文不通ノ媪嬢モ、猶能ク國家ヲ憂ヘテ正義ノ弘布ニ務ム、小估微職ノ輩モ、日々ノ業務ヲ了ヘテ、各々玄題旗ヲ手ニシ、或ハ辯士ト爲リ、或ハ護衛ト爲リ、公園通衢ニ在リテ、隨力演說ヲ爲スアリ、施本ヲ周施シテ廣宣流布ヲ計ルアリ、全會舉テ此心此業ヲ捨テズ、其他「龍口法難論事件」「元寇豫言論事件」「甲午献本祖教上奏」「正式國禱ノ嚴修」「清韓兩國從軍傳道」「恤兵慰問ノ寄贈」「妙宗大學設計奮迅講ノ創立」「大阪會堂ノ建造」「師子王文庫ノ發軔」「宗學創建ノ大編輯」「文書傳道ノ出版事業」「全國鐵道等ノ雜誌施本」「御靈場復興ノ大計畫」(第一若 聖祖鎌倉辻說法ノ舊跡等)「全國靈場及ヒ宗寶ノ寫眞編輯」等、一件オノノ巨多ノ勞力費用ヲ要シ、少キモ二千三千ノ金ヲ投ジ、多キハ萬金ヲ費ヤス、僅々十數年間ニ於ケル、吾黨ノ宗家及ヒ國家ニ致セル貢獻ハ、常恒布教ノ外、尙上件ノ如シ、加之、「宗教結婚ノ儀式」ヲ宗義的ニ冊定シテ、之ヲ實行シ創メタルハ、實ニ明治二十年ニ在リ、爾來恒ニ信徒ノ生誕結婚ノ諸禮ヲ宗式ト爲シテ、其處生ノ大安心ヲ監督セルハ、

恐ラク佛敎儀制上ノ一新面目ヲ創始シタルモノニシテ、ソノ權門他宗ニ先ダチタルハ、大ニ吾宗ノ光采ト爲スニ足レリト信ズ、其外「宗教音樂」ノ獨立、「宗史」ノ編纂事業等、既ニ着手シ、當サニ大成セントスル要件、亦少カラズ、是レ予ガ德器才幹ノ然ラシムルニ非ズ、又會員ノ富然ラシムルニ非ズ、唯全ク宗風の感化ノ功也、如法信仰ノ表現發展ナリ、柯ヲ伐リ柯ヲ伐ル其則遠カラズ、會員ノ貧ナル予ノ不肖ナル猶ヨク之ヲ爲セリ、若シ夫宗風一振、大化コ、ニ興ラバ、海内靡然トシテ、日蓮主義ノ洋溢ヲ見ン、ソノ然ラザルハ、能ハザルニ非ズ爲サバル也。

△敎家、行家、寺家

「主權」既ニ定リ、「宗藉」既ニ定マラバ、宗界ノ天下ソレニ歸セン、宗政ノ美始テ此ニ生ズベシ、宗門ノ大政ハ、僧侶寺院ノ處置ヲ急トス、僧侶ノ資格ヲ今ノ如ク曖昧妄浪ノ間ニ放在スルハ、宗門ノ活氣ヲ殺グ所以也、認ムルニ敎師ヲ以テシ、委スルニ寺門ノ煩紛ヲ以テス、人ノ子ヲ誤ル此ヨリ甚シキハナシ、元來敎師トシテ世ヲ導クハ、巨多ノ學識才辯ヲ要ス、尤モ專門的ナラザルベカラズ、然ルニ纔カニ檀林

ノ業ヲ了ヘ、宗學ノ素養未ダ全カラズ、世間ノ知識未ダ備ラズシテ、漫然「能化」ト稱シ、而カモ驅テ之ヲ寺院ノ番人ト成ス、其人ハ學問ノ道ヲ杜絶セラレ、寺院ハ書生的經濟ニ荒サレ、兩端各々害アリテ益ナキ、二途不攝ノ人物ヲ造リテ、布敎界ヲ寥殺シ、經濟界ヲ攪亂シ、學問ノ進路ヲ沮害シ、有爲ノ青年ヲ俗了ス、是レ尤モ寒心スベキ惡制度ニアラズヤ、是ニ於テカ僧別分班ノ必要起ル、布敎傳道ノ人ト寺院護持ノ人トヲ甄別シテ相混ゼシメズ、而モ兩者相待テ、一宗振起ノ功、ソレ全キヲ得ン、傳道ノ類ニ、「學敎」ノ人ト「行法」ノ人トヲ分班ス、各々專門ノ研鑽ヲ歷テ、終生ノ力ヲ此ニ致サシムベシ、而シテ寺院ノ維持ハ、是レ宗門經濟ノ筋脉也、尤モ忽セニスベカラズ、而モ其人ヲ學問界ニ求メズ、只專ラ敎會制度ノ熟練ト、寺門經營ノ修養トヲ詮トシ、布敎傳道ノ依地ト疏通トニ與リ、宗政施行ノ良吏タランモノヲ得テ足ル、ソノ教育ハ別ニ此種ノ人物ヲ養成スベキ「寺家學校」ヲ設ケテ、其修養ヲ與フベシ、今之ヲ論ズルニ就テ、尤モ必要ノ案件ハ、「世襲住職ノ法案」是也。

△今ノ所謂僧ハ古ノ所謂優婆塞ナリ

寺院ヲ整理スル唯一ノ方案ハ、住職者ノ責任ヲ重カラシムルニ在リ、責任ノ重キヲナスハ、責任ヲ長ク且ツ深カラシムルニ如カズ、戒躰道香清淨無染ノ古人ヲ以テ、今時ノ僧ヲ解釋セントスルハ、教機時國教法流布ノ前後ヲ辨ゼザル、尤モ癡呆ノ淺見也、末法ノ道德ハ、五戒十善ニアラズ、三綱五常ニアラズ、四諦六度ニアラズ、性氣ニ非ズ、倫理ニ非ズ、唯ダ一ノ信仰也、即チ本化下種ノ根本信也、不惜身命ノ心地也、護持正法ノ誓願也、コノ心、身ヲ持シ、家ヲ齊ヘ、國ヲ掩ヒ、世ヲ救フ、德教任運ニ存シ、綱紀自然ニ舉ガル、是レ本門ノ妙戒ナリ、一切世善人道ノ大本也、教行ノ進退ト時機ノ差排ニ惑ヘルモノハ、僧侶ノ行儀ヲ律スルニ、今日尙依然正像過時ノ廢案ヲ以テセントス、篤ク祖判ヲ學バザルノ罪也、又一類ノ論者アリ、末法無戒ニ托シ、經律ヲ曲會シテ、強テ僧侶ノ肉妻ヲ辯護セントス、是レ「末法ノ僧」ヲ知ラズシテ、妄リニ佛祖ヲ誣解スル也、其意或ハ俱ニ可ナランモ、其義趣ハ俱ニ非也、予曾テ三タビ公衆ノ前ニ之ヲ論ジ、尙明治二十年ノ頃、特ニ入藏シテ筆ヲ起シ、『佛教僧侶肉妻論』三卷十六章九十四節ノ稿ヲ構ヘ、大ニ此事ヲ論ジテ世ノ佛教家ニ問ハント志シタリ、(總目及ビ論稿載セテ明治二十四年ノ『師子王雜誌』ニアリ)、

然レモ許多ノ經論律儀ハ、決シテ出家僧侶ニ肉妻ヲ許サズ、肉ト媾トハ大小乘互ニ緩急アリト雖、イツレモ非梵行トシテ之ヲ賤シム、舞文迎合何等ノ強辯ヲ構フトモ、出家ニシテ肉妻ノ義終ニ成ゼズ、故ニ予ハ時代ノ方面ヨリ研究シテ、末法ニ於ケル僧ノ終ニ出家ナラザルヲ知レリ、族姓ヲ稱シ、官稅ヲ輒シ、徵兵ニ應ズ、所謂「兵奴之法」ニシテ、事實既ニ出家ノ資格ヲ失セルヲ論ナシ、是レ時世ノ然ラシムル所、即チ末法ノ末法タル所以也、縱令希レニ一二ノ出家的清僧アランモ、多クニ約シテ論ズルヲ能ハザレバ、亦少在屬無ノミ、大部分(寧ろ全部)ハ、出家ノ名ト形トニ於テ在家ノ實ヲ行ヘル也、所謂僧ノ稱ハ淡然トシテ宗教家タルノ意味ニ過ギズ、仍テ鍊案ヲ下シテ、一言ニ之ヲ決シ了ル、曰ク『今ノ所謂僧ハ古ノ所謂優婆塞ナリ』ト、既ニ優婆塞ト定マラバ、肉妻ノ苦論、スベテ龜毛兔角ナランノミ、予ハ是ニ於テ、妻帶制度ノ果シテ末法的ニシテ、亦妙宗的ナルヲ覺レリ、聖祖ノ常忍ニ訓ヘタマヘル御在世一門ノ多ク入道的ナル、身延中山ノ妻帶制度ナリシ等、聖意ノ在ル所、宗門上古ノ天真爛熳ナルヲ知レリ、是ニ由テ之ヲ看レバ、宗團僧風ノ發達鞏固ヲ計ルハ、「血族制度」ノ眞ニシテ且妙ナルニ若カザル也、門葉ノ繁殖、血統ノ傳持ハ、内

護堅クシテ扶植速カ也、ソノ血ノ榮ト共ニ宗門昌フ、遺傳ノ性ト愛族ノ心トハ、確
 カニ信仰氣節ノ上ニ、先天的美風ヲ持スルヲ得ン、乃チ妻帯制度ヲ主張スル所以也、
 妻帯ニヨリテ、始メテ子孫傳持ノ制興ル、乃チ『世襲住職論』ノ要アル所以也、是
 ノ門族護持ノ爲ニ！、寺院ノ良圖ノ爲ニ！、宗門ノ鞏固ノ爲ニ！、而シテ又宗有財
 産ノ主權及管督法整齊ノ爲ニ!!!

△財聚リテ害除カル

『世襲住職』トハ、子孫ヲシテ其寺ヲ永久ニ嗣ガシムルノ權利ヲ確ムル謂也、即チ
 古ニ所謂『寺家僧制度』ナリ、始メテ此權利ヲ其子孫ノ爲ニ獲得セントスルモノハ、
 世襲權獲得ノ報酬トシテ、必ズ左ノ諸件ノ義務ヲ負ハシム、

◎總ジテ宗制ヲ奉ジ別シテ寺院法ヲ確守スル事

◎中ニモ宗命布教ノ周旋疏通ヲ奉行シ、平時信徒ノ安心解行ヲ調養シテ宗政施
 行ノ牧民者タル事

◎寺院傳持ノ動産不動産ハ宗有財産ナルガ故ニ嚴重ニ管督保護シテ減損セシメ

ザル事

◎所轄信徒ノ宗稅義資ヲ介措轉納シテ、遲滯失算ナカラシムル事

◎其寺格ニ規定セラレタル課金上納ヲ怠ラザル事(此條或ハ除クベシ)

◎兒女ノ教育ヲ等閑ニセズ、男子ハ本山ノ相當學院ニ、女子ハ宗立優婆夷林ニ
 入學セシメ必ズ宗風教育ヲ受ケシメテ、法器宗材ヲ造ルベキ事

◎世襲住職ノ申請者ハ、其權利獲得ノ爲メ必ズ一千圓已上寺格相當ノ世襲料ヲ
 宗納セシムベシ

◎現住職ニシテ其權利ヲ獲ントスルモノハ、數回分納又ハ年賦(一定ノ年限)漸
 納ヲ許スベシ

◎已上ノ諸項中其一ヲモ違反セハ即時世襲權ヲ失フベシ

等ノ確實嚴密ナル規約ノ下ニ、一意宗門ノ弘通ニ忠實ナルベキ旨ノ堅誓ヲナサシメ、
 爰ニ始メテ其寺ノ爲メニ忠實ナル護持者ヲ得ルト同時ニ、宗門ニハ無數恒沙ノ未生
 豫約的宗民教族ヲ有スル事トナリ、又布教ノ敏活誠良ナル機關ヲ得、兼テ夥多ノ護
 法資金ヲ一舉ニ網收スル也、(一ヶ寺三千圓トスレバ約三千ノ寺院ヨリ九百萬圓ノ宗

有財産ヲ得、或人、予ガ此『世襲住職案』即チ寺院株ノ立論ヲ難ジテ、是レ寺院ノ賣買ニ類セズ耶トイフモノアリキ、予之ニ對ヘテ曰ク、『寺院ノ賣買ハ今已ニ行ハレツ、アリ、宗門之ヲ賣ルニアラズシテ、前住之ヲ後住ニ賣リ、當住モ亦後住ニ賣リ、轉々賣買シテ窃カニ僧衣ノ袂ヲ出入スルノミ、今之ヲ收メテ宗有ト爲サバ、宗門ノ用給リ、支出者ノ權利、亦永久ニ確認セラル、一舉兩得ノ活案ナラズヤ』ト、僧位ヲ賣リ、衣格ヲ賣リ、法牘神符ヲ賣ル、齊シク是レ賣ル也、豈ニ獨リ寺院株ヲ怪シマムヤ、而カモ猶彼レハ私事也、此ハ佛事也、彼ハ亂賣也、此ハ淨資也、彼ハ散ズ、此ハ聚ル、豈精妙公正ノ宗門經濟ニ非ズヤ。

一タビ此方針ニヨリテ、『經營面ノ宗是』ヲ成功セバ、宗資コ、ニ聚リ、淨財泉ノ如ク涌出シ、學教振起シ、人材續出シ、宗門ノ盛況、遂ニ國力ノ大部分ヲ占ムルニ至ランコト、實ニ數年ヲ出デザル也。

△本化活眼ノ經濟

財政ノ調理ハ別ニ多々ノ活案存ス、要スルニ勸化勸財ノ弊風ヲ打破シテ、僧侶ノ乞

食の動作ヲ根絶セザレバ、氣品高潔ヲ失シ、衆愆隨テ生ズベシ、是レ予ガ根本的ニ宗有財産ノ建立ヲ叫ブ所以也、又ソノ適當ナル運用法ニ至リテハ、巨多ノ増殖方案アリ、且ツ費ヤシ且ツ利シテ、混々トシテ盡キズ、穰々トシテ庫ニ盈チ、常ニ多千萬ノ布教家ニ支給シテ綽々タル理財案アリ、以テ宗界ノ財的獨立ヲ保持シテ、宗門ノ洪業ヲ翼賛スルニ餘リアラントス。

其他「本山鍊道」ハ、一種ノ布教鍊道トシテ宗財ヲ以テ之ヲ興シ、本山ヲ以テ中心トシテ、全國御靈場所在ノ地ニ貫通セシメ、財法ノ二利ヲ合セテ、兼テ國用ニ資スベク、又「海外宗教拓殖」ヲ開始シテ、「妙宗的殖民」ヲ以テ、海外傳道ノ基礎ト爲シ、他日一閻浮提雄飛ノ準備ヲ造ル等、平易ニシテ着實ナル、法利ニ敏ニシテ財益ニ利アル、種種ノ財的經綸、着々トシテ行ハレ、ソノ妙力駁々トシテ、宇内ノ開明ニ先驅スルヲ得バ、『天晴地明』ノ宗風、末法ノ天ニ無碍ナルヲ得ルニ庶幾カラズヤ。

○別論……………(正宗分ノ下)

別論ノ項目ハ、必シモ類別及順序ヲ嚴整セズ、而カモ其義趣ノ單ニ法義ニ止ルアリ、但制度ニ止ルアリ、法義ト制度トニ出入相渉スルアリ、而カモ式形ニ約スレバ法義モ亦制度也、精神ニ約スレバ制度モ亦法義也、條々制度ト看、條々法義ト觀ズルヲ妨ゲズ、混ズベカラズシテ融スベク、離スベカラズシテ別ツベキノミ。

第一 本尊ノ統一(本尊勸請ノ雜亂ヲ廢シテ寺院在家本尊ノ儀軌ヲ統一スル事)

「本尊」ノ雜亂ハ、明カニ宗旨傳持ノ不整束ヲ表示ス、之ヲ統一復古スルハ、毫モ異論ノ存セザル所、久シク雜亂ニ委シテ之ヲ顧ミザリシハ、方ニ宗門今日ノ衰頽ヲ招ケル所以也、宜シク一宗統一シテ此ノ異徹雜亂ナカラシムベシ。而シテ之ヲ一定スルハ、須ラク先ヅ本山ヨリ其模範ヲ垂ルベシ、模範ノ尤モ正シクシテ行ヒ易キモノハ、『文字圖顯ノ大曼陀羅』ニ若クハナシ、就中、其「本尊式」ハ、文永十年七月八日佐島始顯正式ノ御本尊ニ限ルベシ。

寺院及ビ在家スベテ純一同式タルベシ、唯之ヲ本山ヨリ受ケテ、決シテ自ラ造ルヲ許サズ、ソノ形ノ大小、莊嚴ノ詳略ハ、寺院ト在家ト、自ラ差ナカルベカラズ。本項ノ理由トシテ、何故ニ木畫ヲ取ラズシテ「文字曼陀羅」ヲ取ルヤノ義意、及ビ、何故ニ「佐島始顯ノ本尊式」ニ限ルヤノ法義的斷定ハ、宗學上尤モ嚴明周密ノ義分アリ、前キニ總論ニ於テ約セルガ如ク、本案公議ノ機至ラバ具サニ之ヲ説クベシ。

第二 勸請ノ整齊(宗門有緣神佛勸請ノ嚴規ヲ定メ宗法不遵ノ雜亂ヲ一時ニ滅却セシムベシ)

宗門有緣ノ神佛ハ、單ニ宗義的有緣ニ止ルベシ、經文ノ顯說ナリトモ、祖師ノ勸請ナリトモ、文上アリ、方便アリ、對機アリ、時宜アリ、概シテ一定不變ノ宗義ト爲スベカラズ、之ヲ識斷甄別スルハ、マタ如法嚴明ナル宗學眼ニ由ラザルベカラズ、要ハ其雜亂ヲ一廢シテ、宗義ノ眞ニ復シ、信行ノ亂離ヲ制スルニ在リ、正境立タズ信行ノ所對區々ナレバ、信行隨テ邪ナラザルヲ得ズ、迷信妄行ソレ今日ノ如キハ、全ク此雜亂ニ基ク、深ク戒シムベキ也。

尙本尊ノ外、別ニ 聖祖ノ尊影ヲ安置スルハ、全ク宗義的歸敬ノ對境ニ屬ス、是レ

一、同ノ宗式也、其他ノ佛神ハ、特ニ其由緒アル寺堂ノ外、之ヲ置カズシテ可也、是レ猶信仰歸敬ノ對象ニアラズシテ、崇敬ノ分域而已、在家ニ在リテハ、本尊及聖影ノ外一切之ヲ置カズシテ可也、歸信ノ票的ヲ誤ルノ虞アレバ也。

第三 修行ノ統一

(朝夕勤行及別時法要并ニ別願別行ノ嚴規ヲ定メ、宗内編案ノ修行區々ナラザラシムベシ)

宗義の大安心ノ修行ハ、宗門通同一定不變ノ儀軌ナラザルベカラズ、「別時法要」及ビ、「別願別行」ハ、只專ラ宗義發揮ノ旨ニ於テ、嚴ニ行規ヲ定メ、決シテ非宗義的ノ雜行(今ノ禮法華儀、施餓鬼會、放生會、法華懺法等ノ類)ヲ許スベカラズ。唱題、誦經、禮拜、讚歎、回向、供養、オノノ宗義的行軌ニヨリテ、一般宗徒ノ運想念持ヲ繩正スベシ。

前二項ニ關スル宗義的説明モ第一項ノ例ニ據ル。

以上三項ハ、純法義問題ニシテ、寺院僧侶ヨリ以テ一般信徒ニ及ボスベキモノ也、而シテ信徒多年ノ舊習ニ反シ、一時動搖ノ狀アランハ、免レ難キ所ナルベシト雖、是レ宗門ノ死活存亡ニ關スル一大事、徒ラニ信徒ノ俗論ニ辟易シテ躊躇スベキモノ

ニ非ズ、若シ之ヲ拒ムモノアラバ、斷々乎トシテ宗外ニ驅逐シテ、毫モ假借スベカラズ、然レドモ宗家ハ、此方針ノ確定ト共ニ、一宗ニ令シテ、年限ヲ期シテ之ヲ改メシムベシ、而シテ其間尤モ熱心ニシテ周到ナル、訓諭的大布教ヲ數々スベシ、能ク教ヘテ而シテ後ニ能ク斷ズ、誰レカソノ正ニ歸セザラン。

第四 宗學ノ組織

(宗學專攻ノ高等教育ヲ與シ古今宗義ノ異解ヲ處分シ系統條然タル組織的宗學ヲ建ツベシ)

妙宗ハ先ツ自ラ能ク妙宗ヲ知ラザルベカラズ、宗義專攻ノ高等學府ナカルベカラザル也、由來宗學ノ不振、古今異解ノ頻繁ナルニ因リ、又系統條然タル宗義學ノ大成ヒザルニ之レ由ル、今ニシテ之ヲ整立セズンバ、世界日進ノ學識ニ駕シ、卓然トシテ本化ノ妙教ヲ光揚スル能ハザラントス、尤モ省察考慮ヲ要スル所以也、右ニ關スル「組織的宗學」ノ大成ニハ、予亦多少ノ卑見及經驗ナキニアラズ、其機ヲ得テ語ランコトヲ樂フモノ也。

第五 布教ノ統一

(傳道講習所ヲ置キ布教開導ノ技術ヲ養成シ一定ノ布教方針ニ由リテ布教セシムベシ、但シ布教ノ方針ハ必ス純正折伏ノ正規ヲ奉セシムベシ)

傳道ノ寂寥荒廢セルハ、主トシテ宗學ノ衰頹、宗風ノ不振ニ因ルベシト雖、亦傳道ノ技術未熟ナルニモ縁レリ、「說術」ノ修養ハ、尤モ布道家ノ忽カセニスベカラザル所ナリトス、近古マデノ布教ニハ、彼ノ「說法者」ナル専門的技術家アリテ、多少ノ弊風ハアリシニモセヨ、不健全ナガラニモセヨ、宗風の感化ノ幾分ハ、一般信徒ニ賦與シ來レルガ故ニ、信徒モ今ノ如ク亂雜ナラズシテ、些ノ如法心ヲ存シタリ、今時ノ信徒ニ至リテハ、眞面目ノ信仰、既ニ地ヲ拂ヒテ無シト云フモ過言ニアラズ、是レ即チ教導ノ不整頓ニシテ、且ツ拙ナルニ基ク、「講習所」ナカルベカラザル所以也。而シテ其講習ノ方法ハ、「宗義ノ解釋方式」「祖傳ノ感化的講術」「問答伏疑ノ論式」「因緣譬喩ノ應用法」「氣節鼓舞ノ辯式」「勸信ノ辯式」「無常警世ノ辯式」「勸誠接化ノ談式」ヨリ、「音樂ノ應用」等ニ至ル迄、苟モ宗風ヲ宣揚スベキ傳道ノ方便ハ、必ズ整然タル學科ニ組織シテ之ヲ講習セシメ、以テ布教ノ實効ヲ舉グルノ路ヲ拓クベシ。而シテ其布教ノ方針ハ、純乎タル折伏ノ正規ニ據リテ、破邪顯正ノ大節ヲ完フスルニアラザレバ、廣布ノ大業、滿ズルノ時ナカルベシ。

末法時中邪智惡國ノ化導、折伏立行ノ祖躅ヲ紹グベキノ法義的斷案ハ、全ク宗學ノ

大節ニ屬ス、別ニ論ズベシ。

第六 宗團ノ統一

(現立憲大五山及ビ諸本山ヲ合一シテ一宗一本山ト爲シ一宗ヲ法人トシテ宗有權ヲ確定スベシ)

諸本山ヲ合シテ、一宗唯一ノ本山ヲ定ル時ハ、一宗始メテ一躰トシテノ活動ヲ得ベシ、乃チ其有形ノ本山ヲ以テ無形ノ宗法ヲ代表シ、始メテ法律上主權ノ實在ヲ認メラレ、「宗團」ヲ法人ト爲スコトヲ得ベシ、隨テ其區々散在ノ割據的財産ハ、轉ジテ聖祖ノ御物トシテノ、神聖ナル宗有權下ニ聚リテ、巍然タル「財團」ヲ現出シ、入テハ宗力ノ無盡藏ト爲リ、出テハ國家ノ一大勢力トナランコト必セリ、詳シクハ前キニ説クガ如シ。

第七 靈地ノ整理

(從來ノ本山寺院ハ身延ヲ始メ總テ御靈ノ場トシテ一宗ノ公力ヲ以テ保護スベシ)

從來ノ本山ニハ、確カニ二個ノ異類ナル性質ヲ含有ス、曰ク本山トシテノ尊嚴、曰ク靈地トシテノ尊嚴コレ也、而シテ本山トシテノ尊嚴ハ、自山ノ末寺ニ臨ミテノミノ尊嚴ニシテ、末寺已外ニハ何等ノ威光ヲモ有セズ、獨リ靈地トシテノ威嚴ハ、一

宗全軀ニ臨ミテ、尊嚴餘リアル也、而カモ靈地ハ信仰的也、本山ハ政事的也、今諸山ノ政事的權能ヲ併セテ、唯一本山ニ吸收シ去ラバ、餘ス所ハ其靈地ノミ、是ニ於テ靈地ハ政事的本山ノ手ヲ離レテ、イヨク其尊嚴ヲ増スベシ、猶國家ノ神宮大社及御陵墓ノ如シ、之ヲ一宗ノ公力ニ出リテ保持スルハ、經營ノ當ヲ得ルノミナラズ、亦尊榮ヲ傷ハザルノ利アラシ。

靈地聖跡ハ、必ズ宗義及祖蹟ニ鑑ミテ、其等級ヲ攷査シ、厚ク保護光飭ノ途ヲ講ズベシ、ソノ祖蹟ナラザルモノハ、靈地ニ編入セズ、別ニ宗史的舊跡トシテ、相當ノ保護ヲ加フベシ、例之、「身延」、「比企」、「池上」、「中山」、「龍口」、「佐渡」、「小湊」、「旭森」、「伊東」、「小松原」等ハ一等靈地トシ、其他因縁ノ厚薄ヲ序デテ、保護ノ程度ヲ定ムベシ、其保護ノ方法ハ後ニ論ゼン。

第八 宗權ノ歸一

(唯一本山ハ一宗ノ首腦トシテ法令教權スベシ、テ此ヨリ出テ百般ノ機能ヲ此ニ備フベシ)

一宗勢力ノ集中ヲ計ルハ、宗風ノ強大ヲ持スル上ニ於テモ、人材涵養ノ上ニ於テモ、教育ノ統一ヲ計ル上ニ於テモ、尊嚴莊嚴ヲ増ス上ニ於テモ、財政節約ノ上ニ於テモ、

尤モ必要ノ政策ナリ、既ニ唯一本山ヲ以テ宗門ノ首腦トスレバ、之ヲ強ニシ大ニスルハ、即チ宗門ヲ強大ニスル也、之ヲ莊嚴スルハ、即チ宗門ヲ莊嚴スル也、極力コレヲ大ニシ美ニスベシ、唯機能萬備セザレバ、法令教權ノ健全或ハ保シ難シ、尙後ニ論ズベシ。

第九 宗長ノ革正

(一宗ヲ靈的ニ代表スベキ首長ヲ置キ大導師ト稱シ、現制ノ管長以上ニ尊敬シ唯一本山ノ主トスベシ)

宗門ノ第一内容ハ法也、其靈原ハ祖師也、制度ハ之ヲ擴張スル所以ノ方便也、宗政ノ執務者ヲ以テ、一宗ノ首長ト爲スハ既ニ宗門ノ尊嚴ヲ自棄シタルモノ也、眇タル俗大臣俗局長ノ前ニ叩頭シテ制ヲ仰グ身ヲ以テ、帝師國寶ノ尊貴ヲ包テ、人天ノ眼目タリ三界ノ導師タル、一宗ノ代表者、祖師ノ代官トハ爲シ難キモノト知ルベシ、故ニ宗家ハ宗家ノ自治力ヲ以テ現行制度ノ管長已上ニ、靈的代表ノ宗長ヲ置テ、一宗尊嚴ノ中心ト定ムベシ、之ヲ「大導師」ト稱スルハ、單ニ一宗團ノ長ニ止ラズ、正シク國家社會ノ救濟者タルノ意ヲ寓ス、而シテ其所作ハ晝夜不斷常行唱題ノ行者タルベシ、イカナル人物タリトモ、一タビ此位ニ登リテ此行ヲ親ラスル時ハ、法德靈

被シ、戒香薰ジ、光明昭耀、須臾モ仰視スル能ハザルニ至ラン、學問才能品行等ノ層々タル小器用ハ此點ニ於テ殆ンド用ナシ。

第十 諸山ノ轉合(唯一本山ノ稱號ハ現在各山ノ合議ニヨリテ定メ當時ノ各山主ヲ唯一本山ノ歴代ニ加フベシ)

唯一本山ノ建鼎ハ、假ニ祖師滅後今日迄ノ歴史ヲ捨テ、明治啓運ノ今日ニ於テ直ニ聖祖ヨリ此宗門ヲ拜受相續シタルモノトシテ之ヲ成立スベキモノ也、故ニ此一大斷奠ニハ、諸山ノ合一チイフモ、諸山ノ間ニハ其能合所合ヲ論ズベカラズ、「身延」靈ナリト雖、「池上」「六條」大ナリト雖、「龍華」「中山」貴シト雖、他山微ナリト雖現下主權ノ分領ハ則チ相同ジ、故ニ融合ノ前ニハ、一タビ諸山ノ實在ヲ泯スベク、融合ノ後ニハ、諸山ノ現在スベテ唯一本山ノ要素タルベシ、而后之ヲ身延ノ山ニ置カンモ可也、池上又ハ六條ニ定メンモ可也、要ハ地勝義便ノ共許スル所ヲ取ルベシ、或ハ東京ノ中央寸金ノ市街ニ、巍然タル法城ヲ築カンモ亦可也、而カモ其名稱ハ必ズ現在諸山ノ合議ヲ以テ之ヲ建ツベシ、現在諸山主ハ、其人物ノ何如ニ拘ラズ、大統本山奠定ノ殊勳者ニシテ祖師滅後第一ノ事功ヲ全フシタルモノナレバ、茲ニ唯「老」ト爲スベシ。

第十一 本山ノ統政(唯一本山ハ一宗ヨリ公擢シタル大導師ヲ主位トシ先住ヲ以テ元老トスベシ)

本山ノ統政機關ハ、「大導師」ノ尊嚴ト、「元老」ノ參畫トニ由リテ組織スベシ、「大導師」ハ一宗ノ公撰ニヨリテ進位シ、任期ヲ定メテ在職シ、退職ノ後ニハ「元老」トシテ「耆德殿」ニ移リ、一宗ノ樞機ニ參畫シ、立法及ビ司直ノ原機トナリテ、「議會」及ビ「管長」ノ任務執行ヲ監察スベシ。「大導師」ノ選出法、及ビ「元老會議」ノ方法ハ別ニ詳論スベシ。

第十二 宗政ノ組織(大導師ハ靈的宗務ノ外ヲ執ラズ管長ハ法務ヲ執ルニ關セズ元老會議ハ雙方ニ參加スベシ)

「大導師」ハ常行題目ノ行者ニシテ、其主位ハ神聖ニシテ侵スベカラズ、宗政ノ上ニ於テハ、最高宗務タル、「本尊授與」「法號授與」「度牒」及「僧位」ノ授與「本尊及ビ聖影」ノ開眼「帝室及ビ國家ニ關スル別時ノ祈禱」等、靈的執務ノ外、一切事務ノ責ヲ負

ハズ、宗政ノ國政ニ相渉スル部面、及ビ純法務教務ノ外ニ屬スベキ宗務ハ、「管長」
（ユレ姑ク現行ノ名ニ由ル實ハ宗務管長ト稱スベシ）テシテ一宗ヲ代表セシメ、「元老
會議」ハ、「大導師」ト「管長」トノ間ニアリテ、宗門憲法ノ擁護者トシテ輔弼參畫、各
々ソノ所ヲ得セシムベシ。

第十三 教育ノ統一

（大小諸檀林ヲ廢シテ唯一本山内ニ大會會ヲ
置キ分科シテ高等尋常宗門兼修ヲ分ツベシ）

本山機關ノ分子中、重要ノモノハ、宗風の感化人材涵養ノ府タル學費コレ也、學校
ノ任務ヲ以テ、單ニ書ヲ講ジ聞ヲ博ムルモノト考ヘタルハ、抑モ現時宗門ノ教育ヲ
誤解セル元品ノ無名也、學校ハ人ヲ造ル處ニシテ、人ヲ害フ處ニ非ズ、精神教育ヲ
度外シテ、秩序モナク目的モナク、雜多ノ知識ヲ注人シテ惡化セル時代見綱ノ中ニ
彷徨セシムルハ、宗門教育ノ最モ危險ナル方趨ト謂フベシ。
宗學ノ能判力ヲ以テ消化液トシ、台家、諸宗、乃至一切ノ外學ヲ食物トシテ、消化
分滓、ソノ營養ヲ誤ラザルキハ、ソノ學得セル識能ハ、即チ破邪顯正ノ良材トナリ
テ、完全ナル爲宗的人物ヲ造ルヲ得ン、而シテ其機關ノ原動タルベキハ、宗風の薰

淘ノ精神教育コレ也、而カモ其原動トシテノ火力ハ、宗力集中の大氣ノ中ニ、大多
ノ衆合力ヲ燃料トセザルベカラズ、人多ケレバ意氣盈チテ勢生ズ、人少ケレバ意氣
零消シテ氣勢擧ラズ、少壯ノ人ヲ寂寥荒寒ノ中ニ放テ、淋シキ經過ヲ與フルハ、有
爲ノ氣ヲ害シ、褊狹不平ノ情ヲ蓄ヘシムル所以ニシテ、壯大ノ人材ヲ造ルノ道ニ非
ズ、由來宗門人物ノ落寞タルハ、多ク此失策ニ因レリ、三五十ノ少人員ガ、悄々ト
シテ寒林廢堂ノ椽ヲ踏鳴ラシツ、往來スル音ノイカニ淋シク、寮窓ノ下ニ教師ヲ品
シ食膳ヲ議スル風情ノ、イカニ無聊煩悶ナルカヲ見ヨ、斯ノ如クニシテ、年々多數
ノ意氣銷沈者ヲ造リ出スハ、啻ニ人ヲ損ジ財ヲ耗スルノミナラズ、宗門ノ活氣ヲ寥
殺スルノ甚シキモノ也、若シ之チ一大學費ノ下ニ聚ムルキハ、學問以外、最モ貴ブ
ベキ宗門ノ大活氣ニ浴シテ、不知不識ノ間ソノ靈化ヲ被ル、氣ヲ壯ニシ人ヲ大ニス
ル所以也。

本山學府ノ外、地方的學院ハ一切ニ之ヲ廢スベシ、區々無統一ナル、放縱無精神ノ
教育ヲ各地ニ存セシムルハ、有害無益ニシテ、一宗學教ノ統一ヲ紊ス所以也。
學科ハ一切ヲ網羅シ、只分類ヲ明カニシテ、學等科別ヲ相混ゼズ、完全ナル布教師

ヲ大成スルヲ詮トス。

學科ノ分類ハ別ニ本山組織ノ條下ニ略示スベシ。(第三十四、參看)

第十四 僧侶ノ妻帯

(僧侶ノ妻帯ヲ公許シ優婆夷林ヲ置キ寺院ノ妻女タルベキ婦女ヲ養成スベシ)

「僧侶妻帯」ノ制度ハ、寺院保護ノ必要、族勢扶植ノ必要、僧侶處世ノ廓清ヲ保ツベキ必要等ノ外、尙妻女ノ扶教力ヲ利用シテ、信徒誘發ノ功ヲ家庭ノ間ニ成立セシムルニ在リ、今僧侶ノ事實的妻帯ハ、宗制ノ認メザル隱私的家庭ナルガ故ニ、毫モ宗用ヲ爲サズシテ、三寶物ヲ減蝕スルノミ、若シ之ヲ以テ宗用的公人ト爲スナ得バ、其利舉テ算スベカラズ、而シテ此「寺家妻女」タルベキ資格ヲ具備セシムルニハ、扶教内助ノ技能ヲ養フベキ、相當ノ教育ヲ加ヘザルベカラズ、是レ「妙宗優婆夷林」ノ必要アル所以也、其學科ハ簡易ニ從ヒ、「信行安心ノ要義」「宗學ノ大綱」「祖傳宗史ノ大要」「寺院的家政學」「看護學」等ノ外、婦女必須ノ普通學科ヲ授クベシ。「寺家僧」以外ノ布道家ハ、妻帯、寡居、各任意ナラシメ、其妻帯ナルモノハ、妻女ヲシテ「優婆夷林」ニ入ラシメ、布教師ノ妻女トシテ、社會ノ一勢力タルベキ諸資

格ヲ養ハシム、又「高等看護科」ヲ練修セシメ、「看護布教隊」ヲ造リ、博愛慈善ノ世善ヲ兼テテ、瞻病救護聞法結縁ノ法利ヲ布キ、或ハ國家有事ノ日ハ、振テ「從軍看護」ニ從事スル等ノ準備ヲ爲スベシ。

寺家及教法ハ、「妙宗優婆夷林」卒業ノ女子ニアラザレバ、妻ト爲スヲ得ズ。行法専門ノ僧ハ、肉妻ヲ嚴禁スベキガ如シ、尙熟考ヲ要ス。

第十五 寺院ノ世襲

(一宗寺院ノ有體財產及ヒ年分ノ確定收入ヲ登錄シ世襲住職ノ制度ヲ立ツベシ)

「世襲住職」ノ必要ナルコトハ、前キニ既ニ詳論セリ、而カモ此一案件ハ、尤モ「宗力擴張」「寺門經營」ノ重大事ナレバ、嚴密周到些ノ遺憾ナキ例法ヲ編成シテ、其美ヲ濟サミルベカラズ、倫シ此點ニ於テ失算アラバ、其禍勝テ計フベカラザルニ至ラシ、故ニ該法律ノ細案ハ別論ニ讓ル。

第十六 僧侶ノ分班

(僧侶ノ分類ヲ「寺院職」「宗學職」「行法職」ノ三品ニ分チ各々階位ヲ置クベシ)

僧侶ヲシテ活氣ヲク職守ヲカラシメタルハ、由來ソノ職務ノ分類ヲ明カニセズシテ、

寺務ト教務、經營ト學問ト相混ジ、兩ナガラ不具ナラシメタルニ因ス、故ニ此弊ヲ除テ、宗門擴張ノ實蹟ヲ擧ゲシメンニハ、其力ヲ專門的ニ發達セシメザルベカラズ、乃チ部面ノ分擔ヲ叙デ、「**敎家**」「**行家**」「**寺家**」ノ三品ニ分班スル所以也、「**敎家**」ハ能ク學ビ能ク弘ムルヲ職トシ、本山ニ住屬シ、宗規ノ定ムル所ニ從テ常ニ布教ニ從事ス、即チ入テハ學ビ出テハ敎フル人タルベシ、「**行家**」ハ所謂修**法家**ニシテ、法要禮讚ノ外、如法正式ノ祈禱ヲ司リ、法力顯揚ノ分ニ於テ、廣宣流布ノ洪業ヲ翼賛ス、即チ祈禱ニ於ケル非宗義的雜亂ノ弊風ヲ除去シテ、眞正純潔ナル勇健精進ノ修法ヲ練養シ、兼テ醫學ヲ修メ、以テ色心雙慰ノ慈教ヲ布キ、起信聞法ノ素ヲ成サシムルヲ職トス、「**寺家**」ハ專ラ寺院ノ經營、宗政ノ通利、布教ノ幹旋、信徒ノ接化等、教會的任務ニ服從シテ、宗政ノ地方官タルベシ、而シテ各班ニソノ階位ヲ置キテ臘等ヲ序ス。時ニ或ハ一人ニシテ相兼ヌルモ妨ゲナカルベシ。

第十七 宗門ノ基金 (世襲住職ノ出願者ハ一定ノ誓約ニ遊ヒ一時又ハ數回ニ一ケ、寺平均壹千圓已上ノ世襲料ヲ唯一本山ニ上納セシムベシ)

「世襲料」ノ宗納ハ、想フニ每寺三千圓ノ平均ヲ保ツヲ得ベシ、其最低ナルモ壹千圓ヲ下ルベカラズ、若シ最下ノ貧梵ハ、他ノ新敎田ニ移シテ、名義ト資産トヲ併セバ、イカナル場合ト雖、壹千圓ヲ下ラザル「世襲權」ノ價ヲ有スルヲ必セリ、三千圓トスレバ三千ヶ寺ニシテ九百萬圓、壹千圓トスルモ尙三百萬圓ヲ宗家ノ基本資金ニ備フルヲ得ベシ、尙本山整理ノ結果トシテ、一時ニ巨大ノ宗有財産ヲ生ズルガ故ニ、基金九百萬圓ヲ得ルコトハ必シモ難事ニ非ズ、而シテ其基本金ハ、別ニ宗立ノ機關銀行ナシテ、之ガ保護増殖ニ當ラシムベシ。

第十八 宗儀ノ勵行 (全國寺院并ニ信徒ノ分限アルモノハ悉ク新ニ唯一本山ヨリ正式本尊ヲ受ケシムベシ)

コレ本尊儀軌ノ統一ヲ勵行シ、宗門主權ノ尊嚴ヲ認メシムル所以ノ要儀ニシテ、亦信徒信行ノ歸嚮ヲ一ニシ盛ニスルノ根原ナレバ、尤モ等閑ニ付スベカラザル要件也、尙寺院ニ頒ツ分ニ對シテハ宗費ト寺費トニテ之ヲ分擔シ、信徒ハ必ズ相當ノ實費ヲ上納セシムベシ、授與ノ程度ハ每家一尊ニシテ、此授與ト共ニ『宗籍』ノ正式登錄ヲ爲シ、信徒タルノ分限ヲ公認スベシ、而シテ信徒ハ此分限ノ獲得ト同時ニ、「宗稅」ノ義務ヲ生ズ。

第十九 宗税ノ公課

(寺院ノ等級ニ應ジ信徒ノ戸別及ヒ人別ニ必ズ年分若干ノ宗税ヲ唯一本山ニ上納セシムベシ)

寺院ノ課金ハ現行ノ納額ヨリ數倍セシムルモ、寺院經濟ノ痛苦ヲ感ゼザルニ至ルベシ、其故ハ宗風ノ振起ト共ニ、信仰ノ程度高昂シ、淨財涌出シ來レバ也、或ハ「宗籍」奠定ノ後、信徒宗税ノ途確定スルヲ待テ、寺院ノ課金ハ、之ヲ全廢スルモ可也、又信徒ノ戸税及人税(戸別ト人別ト)兩税ヲ分チタルハ議論アリ別ニ詳論スベシ)是レ法恩ト國恩トニ報ズベキ、徳本道業ノ表示ニシテ、人タル所以、國民タルノ所以、宗徒タルノ所以ヲ、宗門的動作ニヨリテ光揚スル爲ナレバ必ズ相應ノ年額ヲ定メ、國土嚴淨ノ實ヲ舉グルノ淨資ト爲スベキ事、總論ノ中ニ言フガ如シ。

第二十 宗財ノ機關

(寺院及信徒ニ課シテ宗門機關ノ一大銀行ヲ興シ寺院ノ資金並ニ有志信徒ノ護法資金ヲ預ルベシ)

財政ノ機關トシテ、宗門並ニ寺院ノ公財、僧侶及信徒ノ出資ヲ以テ、初メ五百萬圓以上ノ『宗立大銀行』ヲ興シ、宗門財團ノ保護並ニ宗徒金融ノ流通ヲ計リ、又宗費ノ支出、宗税ノ徵集等、一切金錢ニ關セル任務ヲ執ラシムベシ。

宗力優勢ノ地ニハ支店代理店ヲ置キ、本店ヲ始メ、行務ニハ全國信徒中篤實堪能ノ者ヲ舉テ之ニ當ラシムベシ。

第廿一 戒壇ノ準備

(凡ソ本宗信徒ノ分限アルモノハ相當年齡ニ達シ必ズ相應ノ終身保險ヲ附シ最後ノ供養トシテ宗納セシメ之ヲ累積シテ異日日本門戒壇成立ノ資トスベシ)

本門戒壇ノ事的成立ハ、コレ 聖祖出現ノ大目的ニシテ、本門事業ノ中堅ナリ、苟モ之ヲ寶渚トシテ進ムニ非ザレバ、皆歸妙法ノ抱負モ畢竟戲論ニ墮セン、國教奠定ノ本期即チコレ也、依テ信徒タルモノハ、每人此念ヲ離レズ、世業ヲ冀登シ奉ルベキモノ也、然レモ事末來ニ屬スルガ故、遠大ノ規模ニヨリテ之ヲ替襲セザルベカラズ、乃チ各人最後ノ供養ヲ 聖祖ニ奉リ、年歲ト共ニ累繁展殖シテ、以テ世界ヲ買例センホドノ實力ヲ存養スベシ、終身保險一回掛捨ノ微財ハ臨終ト共ニ、ソノ保險金一タビ 聖祖ノ御物トナリ、宗門ノ寶庫ニ入りテ、嚴重ノ保護利殖ヲ加ヘラルベシ、而カモ男女十二歳ニシテ始メテ保險申込ヲ爲ス迄ニハ、生誕ト同時ニ其準備ヲ爲スモノトシテ、一苗一卵ノ用意、漸ク自然澎大シテ、成童掛金ノ料トナルベク、義務簡易ニシテ成効偉大ナルハ實ニ此一舉ニアリ、年々ノ増殖ト共ニ、宗徒ノ理想

ヲ清カラシメ大ナラシメ、彌積彌大、以テ宗風ノ擴大ニ資スルヲ得ン、假リニ宗門信徒ノ成童壹百萬、人每人壹百圓ノ保險トシテ、平均五十年ノ壽ヲ終へ、一代最後ノ供養ヲ暢ブルモノトスレバ、五十年ニシテ宗門ハ壹億萬圓ノ富力ヲ有ス（後ノ未來年表ニハ累年積算ニヨル、就見）、斯ノ如クニシテ二代三代ノ未來ニ至ラバ、吾人ノ曾孫支孫ハ、此元利増殖ノ淨資、幾千萬億ノ多ニ上リ、宇内ノ富ヲ吸收シテ、戒壇成立ノ實力ヲ蓄へ、側面ヨリ社會國家ヲ左右シテ、以テ唯一正法ノ弘布力ヲ助長シ、本門三大秘法ノ實行大成ヲ見ルコトヲ得ベシ、快ナル哉、壯ナル哉、應サニ知ルベシ理想ハ實行ノ帥也、誓願ハ成道ノ動機也、勉メヨヤ、勉メヨヤ、自ラ小ニスル勿レ、自ラ卑ウスル勿レ。

第廿二 宗寶ノ保護

（各山各寺ニ藏スル所ノ聖蹟御眞筆ニ宗史上重
要ノ寶物什器ハスベテ唯一本山ノ寶庫ニ遷スベシ）

御眞筆ハ但御手澤トシテ尊貴ナルノミナラズ、亦宗學ノ根本トシテ之ヲ珍襲嚴護セザルベカラズ、然ルニ年歲ノ久シキ天災人禍屢々累テ爲シテ、火亡水没、漸ク其數ヲ減ゼントス、近年身延ノ火災等コレ也、豈ニ寒心恐懼セザランヤ、依テ本山ノ統合ト共ニ、御眞筆已下宗寶ノ資格アルモノ、各地ニ藏セルヲ蒐集シ、其眞偽ヲ嚴查シ眞ヲ取り偽ヲ去リ、之ヲ本山ノ『寶藏殿』ニ遷座スベシ、而シテソノ保存法ハ贅裝ヲ撤シテ金庫ニ收メ、堅固ノ寶藏ハ學理的建築ニヨリテ、充分ニ火盜風濕ヲ防ギ、允請警官四員ヲ置テ、之ヲ衛ラシムベシ、又閱覽風入等ノ嚴規ヲ定メ、別ニ寫眞摸本ヲ造リテ一宗ニ配布スベシ。

第廿三 宗典ノ公閱

（唯一本山内ニ妙宗大菩薩館ヲ置キ各山各
寺ノ藏書ヲ收メテ公開閱覽セシムベシ）

書籍ハ學問ノ餌料也、博涉ハ學問ノ營養也、宗門ノ古書ハソノ衰學ト共ニ頻リニ滅亡シテ、將サニ子遺ナカラントス、歎ズベキノ至リナラズヤ、宜シク其保存ヲ嚴シ、且ツソノ散在ヲ聚メテ、閱覽ノ用ヲ廣フスベシ、而シテ之ヲ『妙宗大學』ノ所管ニ屬シ、學徒及ビ公衆ヲ利スベシ。

第廿四 宗門ノ義園

（宗門ノ見込ナキ靈場所在ノ建物ハ漸次ニ縮小シ清淨ノ園林ト爲シ必
ズ靈場紀念ノ銅石碑ヲ建テ永久ノ溼滅ヲ防ギ宗寶ノ節取ニ備フベシ）

無用ノ堂宇ニ財ヲ費ヤシテ、宗家經濟ノ惱ヲ爲シタルハ、從來ノ割據的惡習ガ宗門

ニ貽シタル巨殃ナリ、堂宇ニ費ヤスベキ錢ヲ轉ジテ法ヲ弘ムル人ヲ造ラザルベカラズ、區々ノ裝飾ヲ撤シテ唯一本山ヲ大ニシ美ニセザルベカラズ、蓋シソノ散多ヲ舍テ、聚一ニ漑グ也、而シテ靈場ヲ光顯スルハ、神聖ヲ保チ韻致ヲ尙ブニ在リ、乃チ殿宇ヲ以テセズシテ、園林貞砥ヲ以テス、致高ク趣妙ニシテ威嚴加ハリ神韻存ス、況ヤソノ雨漏風倒ノ憂ヲ減ズルチヤ、宗費節減ノ上ニ於テモ、確カニ經濟ノ良趣ヲ得タルモノト謂フベシ、但保管ノ爲メニ多少ノ建物ヲ要スルハ格別、所在若シ布教ノ要衝ニ屬セザルハ、其伽覽ヲ唯一本山ニ輒シテ、必要建造物ノ料ト爲シ、其敷地ハ必要ノ地積ヲ除キ、他ハ之ヲ賣却シテ宗用ニ充ツベシ、人材ノ養成ハ靈場保存ヨリモ、猶一層ノ重大事ナルヲ忘ルベカラズ。

第廿五 教城ノ配置

(各地所在ノ寺院ハ地方ノ宜シキニ依リ漸次寺院乏少ノ地ニ遷シ有無相益シテ布教ニ便ナラシムベシ)

今ノ寺院ハ、一宗的布教ノ必要ヨリ生ジタルモノニ非ズシテ、個人的開教ノ遺賜トシテ存セルモノ也、古者德化ノ聚ル所、自然寺觀ヲ爲シ、毫モ地宜安排ノ考察ヲ經ルコトナクシテ、無秩序ニ建テラレタルモノナレバ、今ニシテ之ヲ見ル、甚ダ偏多偏少ノ觀ヲキ能ハズ、一町一村數寺相接スル所アリ、全郡一寺ナク、一國僅ニ數寺ナルアリ、布教周到ノ實ヲ失スル此ヨリ甚シキハナシ、依テ其多ヲ移シテ少ヲ補ヒ、有テ轉ジテ無ニ輸スル時ハ、一宗ノ大勢上、全國教城ノ平均ヲ得テ、廣布一層ノ速ヲ致スヤ必セリ、而シテソノ安排ハ、大抵東京都大阪等ハ、二ヶ寺已上十ヶ寺已下、其他ハ市町村毎ニ凡ソ一ヶ寺ノ教鎮ヲ以テスレバ可也。

第廿六 文書ノ傳道

(布教機關ノ日刊新聞ヲ發行シ全國寺院井ニ信徒其他ノ團體ニ供フベシ)

機關新聞ノ獨立ハ、即チ宗政ノ獨立ヲ爲ス所以也、純然タル布教新聞ハ、宗風鼓吹ノ幹部的動作トシテ、確カニ數千人ノ巡回布教ニ勝ルノ實アリ、以テ氣脈ヲ貫通セバ、一ハ宗内ノ輿情ヲ洞通シ、一ハ道場布教ト相呼應シテ、教益宗用兼チ達スルヲ得ン、而シテ恰當ナル布教新聞ノ意匠及ビ發行方法ハ、予別ニ案アリ

第廿七 海陸ノ道場

(布教師ハ大部會ニ於テハ道路演說ヲ爲スベシ取極及定) 期航海船ニハ布教師ヲ派シテ海上演說ヲ爲サシムベシ)

本化宗風ノ尤モ發揚シ易キハ、道路演說ニ如クハナシ、而カモコレ人群肩摩ノ地ニ

適ス、宜シク東京京都大坂等ニアリテハ、多ク道路演説ニヨリテ、此妙義ヲ普及スベシ、聖祖乃徃親ラ之ヲ爲シタマヒ、以テ不輕行化ノ芳躅ヲ垂レ給フ、末弟コレヲ襲フ、尤モ其所ヲ得タルモノ也、但シ道路演説ニハ、未熟ノ教師ヲシテ當ラシムベカラズ、威嚴清肅、勢望堂々トシテ、手ニ玄題旗ヲ持シ、公園九達ニ在リテ、靜カニ道法ヲ談ジ、諸ノ權邪ヲ論シテ、本因、本果、本國土ノ妙益ヲ布クベシ、圍繞隨從ノ大衆ハ、各々傳道用ノ文書ヲ携帶シテ、之ヲ雲集傾聽ノ衆ニ施與スベシ、教効ノ顯著ナルハ予ガ十數年來ノ實驗ニ徴シテ明カ也、就中、東京ハ尤モ道路演説ニ適ス。

宗設義勇艦隊ヲ始メトシ、尙帝國軍艦及定期航海船ニハ常ニ宗費ヲ以テ每航一人ノ布教師ヲ配置シテ盛ニ船中布教ヲ行フベシ、其他陸軍諸隊、各工場、鑛山、感化院、監獄等、亦各適當ノ布教ヲ實施スベシ。

第廿八 恒化ノ中心(東京ニハ十ヶ所大坂ハ四ヶ所京都ハ二ヶ所名古屋横濱神戸及同格ノ市區ニハ每一ヶ所恒化ノ道場ヲ開始シテ晝夜交代ニ宗費ヲ設カシムベシ)

大都會ハ、啻ニ其都市ノ人ノミナラズ、内外輻湊ノ地ナレバ、常恒說法ナカルベカ

ラズ、但教師ハ常ニ交代シテ、一人數月ノ久シキニ亘ラシムベカラズ、此各道場ニハ管督傳道師ヲ置キ、全國巡教者ノ交代來場ヲ待テ、其布教的技能ヲ試驗セシムベシ。

第廿九 全國ノ巡教(布教師ハ約五人一隊ニシテ凡百餘ノ村ヲ廻リテ全國ニ展轉巡教セシムルニ於テ皆代遊化ヲ布クベシ)

布教ハ布教ニシテ勸財ニ非ズ、勸財ニ命ズルニ布教ノ名ヲ以テスルハ、法ヲ以テ錢ニ換フル也、其目的、法ニ非ズシテ錢ニ在リ、活ケル信仰ノ生ゼザルモ宜ベナリ、宗力擴張ハ純乎タル眞ノ布教ニ因ラザレバ能ハズ、布教ノ人材整ハ、直ニ常恒巡教ノ制ヲ布カザルベカラズ、其方法ハ約五人チ一隊トナシ、常ニ全國ヲ巡回セシム、其内一人ノ行家衆ヲ編入シテ、到處病者安慰法力光顯ノ慈行ヲ布キテ、大ニ教勢ヲ張ルベシ(或ハ行家ノ布教隊ヲ別ニスルモ可也、此場合ニ於テハ行家數人ノ中、必ず醫學兼修ノ人ヲ其主行ト爲シ、法力醫効雙馳ヒテ瞻病慰安懺悔歸正ノ教効ヲ舉ゲ、聞法安心ノ大事ハ、之ヲ教家衆ノ布教ニ待ツベカラシム、每隊ノ駐教ハ、每寺月一回、其他ハ臨時開教、或ハ請ニ赴キ、或ハ教田開拓、或ハ問答法戰、或ハ幻燈、或

ハ説教、定期ノ外ハ各隊ソノ宜シキニ從ヒ、各教區ヲ展轉巡教スベシ、「巡周布教」毎隊一年中、約百八十日トシ、「休養攝化」ハ約九十日（熱海、伊香保、鎌倉、大磯、箱根、有馬、城崎、道後等、温泉又ハ海水浴場ニシテ優勢ノ攝生地ニハ、豫メ「宗立休養所」ヲ建造シ、兼テ傳道用ニ供スベク装置シ、巡教ニ疲レタル布教師ノ休養ニ備ヘ、傍ラ浴客ノ爲ニ適宜ノ誘化傳道ヲ爲サシム）、「本山歸休」ハ約九十日（教家衆ノ本居ハ本山ノ坊寮ニシテ、妻子ハ其不在中、半バ勤學シ半バ別部傳道即チ「看護傳道」等ニ從事ス、本人ハ歸休一夏ノ間勤學セシム）トシテ年勤ヲ全フスベシ、ソノ布教方針ハ休養攝化中ノ或ル場合ヲ除クノ外、スベテ折伏逆化ノ正規ニ從フ、「法戰」ハ別ニ定ムル『宗論條例』ノ旨ニヨリテ行フ、此場合ニハ各隊聯絡シ、又ハ本山ヨリ應急ノ處分ヲ爲ス等、各々時宜ニ從フ。

第三十 教職ノ常俸

（布教師及行僧ノ俸給并ニ實費ハ位階ニ應ジテ宗費ヨリ厚ク支給シテモ不足ナカクシムベシ）

「寺家」ハ寺院ノ收入ヲ領スレヒ、「教家」「行家」ハ收入ノ途ナキ故ニ、宗費ヨリ之ヲ支給セザルベカラズ、而シテ専門修養ノ人ヲ遇スルニ菲薄ナルハ、其人品ヲ害シ技

能ヲ沮スル所以ニシテ、化實ノ舉ラザル基也、故ニ俸給ハ尤モ厚キヲ要トス、例之「教家」ハ十二級ニ分チ、「教學寮」及「傳道學科」卒業ノモノヲ第十二級ニ舉ゲ、年臘昇進ノ制ヲ定メ、累臘ト共ニ自然ニ上科ヲ卒業セシム、而シテ其入位已後「人躰祿」ノ俸給ハ、左ノ程度ヨリ卑カルベカラズ。

- 權少講義(第十二級)年俸 金參 百 圓 ○權少教正(第六級)年俸 金七 百 圓
- 少 講義(第十一級)全 金參百五拾圓 ○少 教正(第五級)全 金八百五拾圓
- 權中講義(第十級)全 金四 百 圓 ○權中教正(第四級)全 金 千 圓
- 中 講義(第九級)全 金四百五拾圓 ○中 教正(第三級)全 金千二百圓
- 權大講義(第八級)全 金五百廿五圓 ○權大教正(第二級)全 金千五百圓
- 大 講義(第七級)全 金六 百 圓 ○大 教正(第一級)全 金二千圓

（行家衆ノ俸給ハ醫術兼修ノモノハ之ニ準ジ然ラザルモノハ概チ半額トス）

以上ハ現時ノ生活程度ヲ票準トシテ之ニ擬ス、又給額モ尤節約ニ從フ、實ハ宗力澎張ト共ニ、二倍三倍成シ得ル限り厚ク支給センヲ望ムモノ也。

第三十一 財施ノ轉納

(布教師及行僧ハ信徒ヨリ直接施物ヲ受ケシムベシ、
ヲズニ總テ臨時宗納トシテ唯一本山ニ轉納スベシ)

宗門ノ弊害中、教師ノ意氣屈シ、時ニ或ハ操行ヲ汚スノ憂アルハ、信施貪求ノ點ヨリスルモノ多シ、是レ僧侶自活ノ清計ナキ爲メ也、今宗費ヨリ其「人舩祿」ヲ給養スルノ制立ツトキハ、此弊自ラ熄ムベシ、尙信徒ソノ教恩ニ酬非ントスルモノアラバ、之ニ諭シテスベテ「臨時宗納」タラシムベシ、而シテ本山ハソノ取次者ニ對シテ、納額ノ幾分ヲ學資トシテ支給スベシ。

第三十二 儀裝ノ統一

(宗徒ノ服制ナ一定シ其班等別
分ヲ定スベシカクノシムベシ)

僧侶ノ服制ハ、常時用ノ分ハ、尤モ簡便清楚ノ一様式ニ從ヒ、式典ニ關スルモノハ莊重嚴肅ノ式服ヲ制定シ、學生用ハスベテ洋服タルベシ、只ソノ職階位班及等類ニ付テノ區別ハ、服ノ一部ニ簡明ナル票式ヲ施スベシ、ソノ概要ハ

△式服 從來ノ法衣ニシテ多少ノ廣略ヲ存ス

△宗衣 素絹ニ多少ノ新意匠ヲ加ヘ清楚ニシテ威嚴アル舩裁ヲ具備シ「五條衣」

ノ小形ナルヲ用井テ諸僧通同ノ常服トス

△布教服 日本古代ノ服裝ニ多少ノ改良ヲ加ヘ快活簡便ニシテ威品ヲ備ヘ實用ニ

堪ヘ舟車乘馬等ノ旅裝ニ差支ヘザル新式ノ意匠ニヨリテ制出ス、但シ冠袍共ニ絨質ヲ用フ

△學服 綿麻絨絹ソノ品等ニ應ジ多少ノ改善ヲ施シタル洋服ニシテ乘馬運動兵式舩操ニ堪フベク製出シ帽章徽鈕ヲ以テ類等ヲ分ツ

△居士式衣 信徒ニシテ宗門ノ儀式ニ參列スル場合ニハ一定ノ式衣ヲ用フ其製ハ典雅高尚ノ致ヲ具備セル服冠トス例セバ「立正安國會」ノ式服ノ如シ

△優婆夷服 學林ニアリテハ「窄袖式」(即チ「半古式」ノ如キモノ)典禮用ハ「袿衣式」ニシテ、イヅレモ袴ヲ用フ

各々位階職別ニヨリテ、色ヲ異ニシ又ハ徽號ヲ別ニシ、一見ソノ品等ヲ混ゼザラシムベシ、尙通ジテ實用ヲ主トシ、耐久ヲ計リ、不必要ナル贅裝ヲ省クベシ。

宗内一般ノ製服ハ、本山内ニ「宗衣局」ヲ置キ、地質色合等一切俗世間ノ製品ヲ取ラズ、必ズ宗章織出シノ地質ヲ以テ、所屬工人ヲシテ常ニ之ヲ調製セシメ、實費ヲ

以テ之ヲ下付スベシ、(甚ダ小事ナレモ宗門僧侶ノ年々法衣商ニ支拂フ金額猶數萬圓ニ下ラズトイフ、實費ヲ以テ本山ヨリ受クルヲ得バ、色質、寸法ノ整フノミナラズ、亦贅費ヲ節スルヲ得ベシ、試ミニ多少ノ潤利ヲ收ムルモノト爲サバ其所得額猶今ノ宗門ノ歲入ニ超勝スベシ、若シ現時宗徒ノ器宇、到底現宗門ノ如キ劣等規模ヲ超脱スル能ハズンバ、セメテハ「宗衣局」ノ一案ヲ斷行シテ興學ノ費用ヲ造ラバ如何、僧階、神符、法牘等ヲ賣ルニ勝ルコト萬々、倘シ夫レ一二萬ノ少金ヲ獲ンハ五六ノ職工ニシテ足ル、復タ宗會五十ノ議員ヲ要セザル也)

第三十三 宗門ノ音樂 (一宗獨立ノ音樂ヲ大成シ到ル處ニ宗風宣揚ノ補助ヲラシムベシ)

音樂ノ獨立ハ、即チ國家ノ獨立ナルガ如ク、亦宗門ノ獨立也、宗門獨立ノ音樂ナキハ、即チ宗門ノ聲ナキ也、儀式典禮ニ於テモ、布教傳道ニ於テモ、家庭ニ於テモ、行歩ニ於テモ、乃至行住坐臥ノ間、妙宗的氣節ヲ諷詠鼓舞スベキ音樂ヲ要ス、是レ宗樂創建ノ止ムベカラザル所以也、而シテ其種類ハ、「儀禮的音樂」「布教的音樂」「家庭的音樂」「教育用音樂」等ニシテ、樂式ハ雅樂洋樂等各々佳ナルモノヲ採リテ、宗

風發揚ノ意匠ヲ音譜ニ表現シ、或ハ雄大壯烈、「如說修行抄」「開目抄」ノ氣調ヲ寓シ、或ハ暢達明快、「身延抄」ノ意ヲ諷シ、或ハ嚴肅堂々、「撰時抄」ノ旨ヲ諳ヒ、或ハ波瀾層々、「御振舞抄」ニ、或ハ情致溫綿、「乙御前抄」ニ、妙照妙寂無窮ノ祖德ヲ光發シ「宗風美」ノ感化ヲ洽クスルハ、氣節鼓舞ノ方便トシテ、又文明的ノ莊嚴トシテ、尤モ缺クベカラザルモノ也、乃チ專門堪能ノ士ヲ舉テ之ヲ大成セシムベシ。

第三十四 本山ノ内容 [唯一本山所在ノ地ニハ必ズ左ノ諸機關ヲ具備セシムベシ]

△閻浮第一本尊寶殿 [國立戒壇奠定ノ時此御本尊ヲ奉遷ス]

一宗模範正式本尊タル佐島始顯大曼荼羅ノ御正筆ヲ奉安シ、一宗ノ全力ヲ竭クシテ尊崇敬鎮シ奉リ、日本國教乃至閻浮同歸ノ戒壇本尊トスベシ。

△本化大聖聖影寶殿 [國立戒壇奠定ノ時此御聖影ヲ奉安ス]

日法上人作「御尊影」ヲ奉安シ、日本ノ巨鎮閻浮ノ正師一乘同歸ノ戒師ト仰ギ

奉ルベシ。

△聖廟寶殿

聖祖ノ御本廟ハ即チ宗門ノ太廟ニシテ、神聖侵スベカラザルモノ、須ラク七寶莊嚴ノ殿宇ヲ以テ之ヲ保護シ奉ルベシ。

△聖舍利寶殿

御眞骨御肉齒等ノ御遺形ヲ奉安シ、珍寶妙物ヲ以テ供養崇敬シ奉ルベシ。

△本眷屬廟

『聖舍利寶殿』ヲ圍繞シテ建造シ、相當ノ莊嚴ヲ盡シ、一宗緇素ノ遺骨ヲ安シ、聖體近侍ノ意ヲ寓シ、宗徒各自ノ墳廟ト爲スベシ、但シ本宗信徒タルモノハ、一切土葬ヲ全廢シ、スベテ本山ニ納骨シテ、之ヲ歷代ノ家廟ト爲シ、年々登詣ヲ怠ラズ、本山ヲ以テ家ト爲シ、父母ノ墓ト爲シ、崇敬情誼トモニ篤カラシムベシ、然ル時ハ、無用ノ墳墓、漸次各地ニ減ジ、廟祭ハ永久不滅ニシテ、國家ハ地上ノ生産力ヲ殺ガレズ、一舉シテ兩得ノ益ヲ得ベシ。

△寶藏殿

御眞筆類其他貴重ノ宗寶ヲ安置ス、建築ハ尤モ堅固ニシテ、學理的構造ヲ以テ、火盜風濕ヲ防ギ、且ツ允請警官四員已上ヲ以テ、晝夜嚴重ニ保護スベシ。

△宗典書籍館

祖判ヲ始メ本宗ノ典籍一切ヲ藏シ、保護ヲ嚴ニシ、展閱ヲ便ニス。

△唱導殿

『大導師』ノ座所ニシテ、近侍ノ淨員若干ト共ニ、晝夜關斷ナク、常行唱題ノ聲ヲ斷タズ、以テ一宗靈威尊嚴ノ府タルベシ。

△耆德殿

「元老」ノ詰所ニシテ、一宗教制樞機ノ由テ出ル所、其尊嚴、「大導師」ニ亞グベカラシム。

△奉行院

本尊寶殿已下ノ淨務ニ服シ、「大導師」并ニ「元老」ノ公用ヲ司ル。

△宗務總督院

「宗務管長」ノ詰所ニシテ、院内ニ左ノ諸局ヲ備ヘ宗務職員ヲシテ各分擔執務セシム

- 總務局(宗務ノ庶用ヲ受付「宗籍」及宗用各簿ヲ管ス)
- 制法局(諸法制ノ施行及調査監督)
- 財務局(「宗立銀行」其他財務ノ監督)
- 任用局(登用、派遣、昇級、責罰等)
- 外事局(政府、社交、他宗ニ關スル諸件)
- 議事局(宗門議會ノ用務)
- 宗會堂(議事堂)
- 用度院(本山ノ諸經濟ヲ安排シ收支ヲ決シ用度ノ通利ヲ司ル)
- 衛生院(一山ノ衛生及醫療ヲ司ル)
- 音樂院(音樂ノ調査及演奏)
- 交通院(宗立鐵道及宗有船舶ノ建造管轄作業等)
- 鑄造局(聖祖御尊影ノ鑄造發行ヲ司ル)
- 說明別論)
- 出版局(新聞雜誌及諸文書ノ印刷發行)
- 宗衣局(宗門制服ノ織縫發行)

△學務總督院

- 勸學局(督學及試験)
 - 編輯局(教書ノ編纂及訂正)
 - 史傳局(宗史、傳紀、諸記錄)
 - 裁決局(法義異解ノ調査及裁決)
 - 圖書局(宗典及藏書ノ管轄并蒐集)
- △傳道總督院
- 傳道講習所(傳道方式ノ講究)
 - 問答局(内外法論ノ管轄)
 - 教務局(布教一般ノ用務)

△行法總督院

- 修法講習所(修法方式ノ講究及加行)
- 行法管轄局(行家衆修法ノ管轄)

△妙宗大學

宗學專攻ノ最高教育ヲ與フ、ソノ學科ハ渾テ本宗獨立ノ科目ニ就キ專攻研究セシム、分科如左

- 妙宗教相學科(當家獨立ノ教相) ○妙宗法相學科(當家獨立ノ法相) ○妙宗觀心學科(當家事觀ノ哲理及行相) ○妙宗對天台學科(台當違目及其相涉點)
- 妙宗對頓密學科(華嚴及眞言對破研究) ○妙宗對權乘學科(法相、三論、淨土、禪宗等新古ノ諸權宗ニ對スル妙宗的對破ノ研究) ○妙宗對小乘學科(俱舍及成實對破研究) ○妙宗對外道學科(印度外道哲學、支那哲學、西洋哲學、外教、諸家ノ哲學及宗教的見地ノ淺深ヲ講ジ、妙宗教理ノ對判ヲ加ヘテ研究セシム)
- 妙宗神道學科(所謂日蓮所立神道) ○宗教政法科(一般宗教古今ノ法律制度) ○妙宗文學科(古德文篇、歷史、美術等、妙宗的文學ノ專門研究)

△妙宗高等學寮

高等學寮ハ、宗學專門ノ研究所ニシテ、分科如左

- 妙宗教觀學科(全科) ○祖典講究科(祖書全篇ノ通解) ○本經講究科(御註『御義』ニ由リ研究ス) ○妙宗史料(通史及諸記傳) ○應用台學科(玄義『止觀』妙疏『淨名疏』六妙門『章安』諸篇『荆溪』諸篇、山家『諸篇』ニ就キ、スベテ妙宗教義ノ成立ニ關スル義門ヲ研究ス) ○助證經論科(大涅槃經、大智度論) ○旁通餘乘科(華嚴、法相、三論、成實、俱舍、眞言、淨土、禪、律、其他古今興廢ノ諸宗大意) ○參考科(東洋哲學、西洋哲學)

△妙宗教學寮

宗學專門尋常學科トシテ、一般僧侶ノ「宗門的教育」ヲ受クベキ所ニシテ、分科如左

- 妙宗教觀學大意(講義、筆受) ○一代大意抄(聽講) ○守護國家論(通篇輪

- 講) ○觀心本尊抄 (全上) ○開目抄 (全上) ○如說修行抄 (全上) ○當躰義抄 (全上) ○四信五品抄 (全上) ○種々御振舞抄 (全上) ○立正觀抄 (全上)
- 祖書通篇解題 (聽講) ○法華經大意 (全上) ○註無量義經 (會讀輪講) ○四個格言 (聽講、討論、作文) ○古今宗論全集 (交讀互聽) ○台荆山家各大意 (聽講筆受) ○佛教各宗派綱要 (聽講筆受) ○參考諸科 (東西哲學及宗教學、選科寮へ參聽) ○妙宗音樂 (演奏、歌謠)

△妙宗初心學寮

教學寮ノ豫備門ニシテ、分科如左

- 妙經一部通讀 (眞讀、訓讀) ○妙宗大意 (聽講) ○如說修行抄 (全上) ○開目抄 (全上) ○成佛用心抄 (全上) ○弘經用心記 (聽講、會讀) ○四宗要文 (暗誦解義) ○妙經貫頌 (全上) ○祖書貫頌 (全上) ○妙宗史要 (暗誦、聽講)
- 妙宗禮讚式 (聽講及實修) ○妙宗音樂 (演奏、歌謠)

△選科學寮

乘外諸科ノ講談所ニシテ、當該專門ノ博士學士等ヲ講師トシテ、諸學寮ノ參考來聽ニ備フ、其分科如左

- 台學門 (台荆山家及四明山外等) ○和漢諸宗門 (眞言、淨土ヲ除キ古今ノ佛教諸宗學) ○眞言門 (弘法、慈覺、智證、覺鑿一等ノ諸家) ○淨土門 (法然、親鸞、一遍、良忍、眞盛) 等ノ諸家) ○外教門 (外道諸宗教)
- 國文學 (高等乃至大學程度) ○支那文學 (全上) 西洋文學 (全上) 東西哲學 (全上) ○外國語學 (英、獨、佛、露、清、韓) ○萬國歷史 (日本、支那、西洋諸國)

△寺家學寮

寺家學寮ハ、寺家衆ノ養成所ニシテ、分科如左

- 信行法規 (聽講、覆講) ○教會制度學 (聽講、筆受) ○宗教經濟學 (全上)
- 妙宗式典 (聽講、實修) ○妙宗寺院興廢史 (聽講、筆受) ○萬國教會史 (全上)

△妙宗優婆夷林

本宗婦人教育ノ模範校ニシテ、「寺家」及「敎家」ノ妻女タルベキモノヲ養成シ、兼テ一般信徒ノ婦女子ヲモ教育ス、凡ソ左ノ課目ヲ備フ

- 妙經一部通讀 (眞訓兩讀) ○法華安心錄 (聽講) ○妙宗大意 (聽講筆受)
- 祖書要文 (暗誦聽講) ○聖祖御一代事蹟 (聽講作文) ○妙經大意 (聽講)
- 提婆品 (全上) ○女人成佛論 (聽講、覆講) ○妙宗史要 (聽講筆受) ○妙宗賢女傳 (聽講)
- 衛生及育兒 (聽講、實修) ○看護學 (全上) ○家政學 (全上)
- 裁縫 (全上) ○料理 (全上) ○點茶及立花 (全上) ○音樂 (演奏、歌謠、教授方實修)

△本山附屬中學 (認可中學)

△本山附屬小學 (高等、尋常、附屬幼稚園)

右兩校ハ世間通途ノ組織ニシテ、「初心學寮」入學前ニ修業セシム。

以上諸學寮ノ修業年限ハ、「中學」卒業ノ上初メテ「初心學寮」ニ入り、一年ニシテ之ヲ卒ヘ、「敎學寮」五年「高等」四年ニシテ「妙宗大學」ニ入り五年ニシテ亦之ヲ卒フ。

「敎學寮」卒業ハ權少講義ニ「高等學寮」卒業ハ權大講義ニ「大學」卒業ハ權少敎正ニ叙ス 「寺家學寮」ハ初心學寮卒業ノモノヲシテ入學セシム、此校及優婆夷林ノ學年ハ迫テ考フベシ。

學科修業ノ時間ハ「選科」聽講ノ課目アルモノハ、五ニ相障礙セザル範圍ニ於テ定ムベシ。

體育運動ハ、兵式體操ノ外、必ズ男女トモ乘馬、擊劍、園藝、造林ヲ、相當ノ期日時間ニ於テ嚴課スベシ。

敎師ハ宗學及佛學ノ外、外典ハ專門ノ博士及學士ヲ各課ニ備ヘ、兵技武術及ビ園藝ハ專門ノ技師ヲ置テ之ヲ訓練セシム。

△根本大道場

コレ本山ノ大拜殿ニシテ式典舉行及聽法參拜ノ大堂也。

△大宿院

全國信徒登山詰所ニシテ、參籠寄宿ノ便ニ備フ。

△諸坊寮

敎家衆、行家衆ノ居所ニシテ、人員ノ増加ニ從ヒ、其數ヲ増ス、一寮凡ソ十坪、庭除十五坪、數室ヲ備ヘ、妻子家族ヲ住居セシム。

△宗立大銀行

本山城内ニ本店ヲ置キ、全國ノ要地ニ支店代理店ヲ置キ、一宗ノ財的任務ニ與ル。

此外尙樞要ノ機關トシテ、諸種ノ設備アリト雖、姑ラク概略ニ從フ、(設備ノ委細ハ後ノ圖ニ在リ)而シテ其管轄法ハ、局部ニ就テハ其當該職長之ヲ勾當シ、大體ニ就テハ、本山内事ハ『奉行院』之ヲ管督シ、『宗務管長』之ヲ總理ス。

第三十五 宗門ノ議會

(宗門議會ハ僧侶及信徒ノ選任ヲ學ケテ組織ス)

宗門議會ハ一院制ニシテ、諸種ノ分子ヲ總合シ、醇良ナル輿論ヲ詮衡シテ立法ノ責ニ任ゼシム。

- △敎家衆ノ代表選出議員……………全議員百分ノ二十
- △行家衆ノ代表選出議員……………全 百分ノ八
- △寺家衆ノ代表選出議員……………全 百分ノ二十
- △全國信徒ノ代表選出議員……………全 百分ノ二十
- △元老會議ノ推薦議員……………全 百分ノ八
- △宗務管長ノ推薦議員……………全 百分ノ八
- △大學長ノ推薦議員……………全 百分ノ八
- △議會ノ推薦議員……………全 百分ノ八

△宗務管長、奉行院長、學務總督院長、行法總督院長、及宗務諸職員ハ員外トシテ討議ニ參スルヲ得、但シ決議ノ數ニ入ルヲ得ズ。

議會ノ總規ハ『宗門議會法』ヲ以テ之ヲ定メ、尙代表選出ニ係ル議員ノ選出法ハ、別ニ『選舉法』ヲ備フベシ。

第三十六 宗長ノ公選 (大導師ハ一宗僧俗ノ公選トスベシ)

『大導師』ノ選舉ハ、イカナル複雑チモ避ケズ、一宗緇素ノ公選ヲ以テ之ヲ決スベシ、即チ全宗門ヲ以テ能選者トシ、全僧侶ヲ以テ候補者トス、投票ハ「郵便カキ」ヲ用井、必ズ一々自筆署名シテ實印ヲ押捺スベシ、當事者ハ一々『宗籍原簿』ニ照合シ、郵便局ノ消印ヲ證トシテ、出所、日附、筆跡、印影等ノ符合セルモノヲ有効票トシ、最多數ヲ以テ當選者トシ、一宗推戴ノ式ヲ以テ登位ノ典ヲ行フ。

第三十七 宗職ノ選舉 (管長已下ハ宗門議會之ヲ選舉スベシ)

『宗務管長』ハ『元老』ノ内ヨリ、『奉行院長』『大學長』『行法總督院長』各次職ハ、上座已上ノ内ヨリ、議會之ヲ選舉スベシ、其他ハ管長ノ任命スル所トス。

第三十八 僧職ノ位班 (本宗僧侶各班ノ階位分類ハ凡ソ左ノ如クナルベシ)

僧階ハ「寺家衆」學位ハ「教家衆」、行位ハ「行家衆」、各々位階ヲ別置シ、通ジテ十二級

ニシテ、五段ノ班等ニ分ツ、其名稱及ビ級班ハ左ノ如シ

級等	行位	學位	僧階	化主班	能化班	上座班	中老班	少老班
第一等	大滿行位	大教正	大僧正	大僧正	正僧	都僧	老中	老少
第二等	權大滿行位	權大教正	權大僧正	權大僧正	權正僧	權都僧	權中	權少
第三等	中滿行位	中教正	中僧正	中僧正	中僧	中僧	中	中
第四等	權中滿行位	權中教正	權中僧正	權中僧正	權中僧	權中	權中	權中
第五等	滿行位	少教正	少僧正	少僧正	少僧	少僧	少	少
第六等	準滿行位	權少教正	權少僧正	權少僧正	權少僧	權少	權少	權少
第七等	大加行位	大講義	大講義	大講義	大講義	大講義	大講義	大講義
第八等	權大加行位	權大講義	權大講義	權大講義	權大講義	權大講義	權大講義	權大講義
第九等	中加行位	中講義	中講義	中講義	中講義	中講義	中講義	中講義
第十等	權中加行位	權中講義	權中講義	權中講義	權中講義	權中講義	權中講義	權中講義
第十一等	加行位	少講義	少講義	少講義	少講義	少講義	少講義	少講義
第十二等	準加行位	權少講義	權少講義	權少講義	權少講義	權少講義	權少講義	權少講義

此中、「學位」ノ稱號ハ、更ラニ雅淳ナルモノヲ擇ブノ要アレド、今姑ラク假リニ舊教部省ノ教職名ヲ用フ、「行位」ハ古來適稱アルヲ聞カズ、今通途ノ名目ヲ擇ブ之ニ擬ス、班等ノ制ハ、宗門ノ古制ヲ參酌シテ之ヲ定ム。人材登用ハ各部面ノ修學ニ由リテ、各相應ノ班等ニ叙セラルベシト雖、亦緇素ヲ論ビズ、試験ヲ以テ相當位班ヲ與フルコトアルベシ。〔以上各項目ノ略説竟ル〕

附記 (本案ヲ實施スベキ順序)

上來列叙ノ諸項、綱目相涉リ詳略宜シキヲ得ズト雖、唯改革ノ理想ヲ發表シテ、宗門改造ノ意匠ヲ示スニ過ギズ、仍實行問題トシテノ立案組織ヲ要セン日ハ、必ズ更ラニ多少ノ本支系統ヲ修正加除セザルベカラザルヲ認ム。

若シ此改革意見ヲ取テ、實施斷行セントセバ、『ソノ着手ノ順序ハ如何』コレ誠意アル同情者ノ必ズ當サニ問ハルベキ、本篇精讀后劈頭第一ノ問ナルベシト想像セラル、故ニ今ソノ實行着手ノ順序ヲ附記シテ、參考ニ備フベシ。

- (一).....先ヅ本案ノ全部、一宗是認ノ上實行スベシト決セバ
- (二).....次ニ改革全權委員ヲ定メ、之ニ實施ノ權宜ヲ一任シ
- (三).....次ニ改革唱導實行獎勵ノ部署ヲ分擔スベキ當事者ヲ定メ
- (四).....次ニ改革上奏大法要、如意實行ノ大祈禱會ヲ開キ
- (五).....次ニ本山統合ヲ決行シ、假リニ唯一本山事務所ヲ置キ
- (六).....次ニ門末大會議ヲ開キ、諸山歷代合祀式ヲ舉行シ

(七).....次ニ一宗誘化大舉傳道ヲ開始シ、同時ニ日刊布教新聞ヲ興シテ宗門維新ノ大謨ヲ一宗信徒ニ鼓吹シ

(八).....次ニ『世襲住職法』ヲ發布シテ五年間ニ登録ヲ了ヘ

(九).....次ニ一宗信徒ノ『宗籍』ヲ調査登録シテ分限ヲ確定シ

(十).....次ニ本尊式修行式ノ統一ヲ確定實施シ

(十一).....次ニ『機關銀行』ヲ興シテ財政ノ通利ヲ開キ

(十二).....次ニ宗風教育ノ學校ヲ本山内ニ置キ

(十三).....終ニ宗力ノ充實擴大ニ件フテ、漸次他ノ設備ヲ實施スベシ之ヲ要スルニ、「主權」ト、「宗籍ノ設定」ト、「財政ノ確立」トハ、本案施行ノ骨子ナレバ、實行ノ順序ハ、其易クシテ要ナル者ヲ先ニスベシ、骨子スデニ定マラバ、全部ノ實行、任運ニ成セン、只「教法的事件」ハ、誠意開導、至信以テ至信ヲ感起スルノ外ナシ、次ニ本案ニ件フベキ諸法例ハ凡ソ左ノ如シ

△宗憲 (國家ノ憲法ノ如シ)

△寺院法

△布教條例

△宗論條例

△妙宗學則

- △宗門議會法 △修法條例 △元老會議法 △本山奉行法
- △宗務規程 △本山用度法 △世襲住職法 △靈跡保護法
- △議員選舉法 △其他各部則

結 要 約 言

『宗門ノ維新』之ヲ言フモ信也、之ヲ行フモ信也、宗風トイヒ、教育トイヒ、學問トイヒ、財政トイフ、悉ク皆信也、信仰純ニ歸シ正ニ復スルニ非ザレバ、何等ノ立言モスベテ空論妄案ニ了ルベシ、況ヤ此前代未聞ノ大改革ヲヤ、正信純信大信深信ナラバ、至誠天地ヲ動シ、銳氣六合ヲ蔽フ、何事カ成ラザラン、若シ夫レ法廣ク義深クシテ到リ能ハズンバ、尤モ著明ニシテ確實ナル、爾チノ祖師ヲ信セヨ、ソノ信ノ純ニ正ニ深ク大ナルヲ信セヨ、而シテ自ラノ信ヲ純正深大ナラシメヨ、爾チノ祖師ノ大ナルヲ知ラン時、此案ノ驚クニ足ラザルヲ知ラン矣哉。

南無妙法蓮華經。

- △宗門議會法
- △修法條例
- △元老會議法
- △本山奉行法
- △宗務規程
- △本山用度法
- △世襲住職法
- △靈跡保護法
- △議員選舉法
- △其他各部則

結 要 約 言

『宗門ノ維新』之ヲ言フモ信也、之ヲ行フモ信也、宗風トイヒ、教育トイヒ、學問トイヒ、財政トイフ、悉ク皆信也、信仰純ニ歸シ正ニ復スルニ非ザレバ、何等ノ立言モスベテ空論妄案ニ了ルベシ、況ヤ此前代未聞ノ大改革ヲヤ、正信純信大信深信ナラバ、至誠天地ヲ動シ、銳氣六合ヲ蔽フ、何事カ成ラザラン、若シ夫レ法廣ク義深クシテ到リ能ハズンバ、尤モ著明ニシテ確實ナル、爾チノ祖師ヲ信ゼヨ、ソノ信ノ純ニ正ニ深ク大ナルヲ信ゼヨ、而シテ自ラノ信ヲ純正深大ナラシメヨ、爾チノ祖師ノ大ナルヲ知ラン時、此案ノ驚クニ足ラザルヲ知ラン矣哉。

南無妙法蓮華經。

宗門之維新附錄……(流通分)

妙宗未來年表

宗門維新 妙宗 未來年表

○緒言

『宗門ノ維新』ニ説ク所ハ、スミテ實行シ得ベキ老實平明ノ策案ナレド、宗徒失意ノ甚シキ、或ハ見テ以テ空想空談ト爲スモノアラン、是レ其ノ自ラ實驗ノ識ナク、敢爲ノ勇ナキニ因ルベシト雖、亦或ハ數字の構想統計的斷案ヲ缺クルノ致ス所ナラザルヲ保セズ、依テ更ニ『未來年表』ヲ製シテ、着實簡明些ノ空計ナキヲ曉ラシメントス。

此『未來年表』ハ、本篇宗門維新ヲ思ノ儘ニ實行シ了リテ、予ガ理想的宗門ノ事實ニ成立セル上ノ宗勢ヲ概測シタルモノ也、即チ改革大成後ノ第一年ヨリ始マリテ五年ヲ一期トシ、期毎ニ宗勢ノ増大ニ伴ヘル小準ヲ更加シ、第五十年マデヲ通計シテ止ム。

宗勢ノ基本トシテ認メタルハ、「人物」ト「資財」トノ二ニシテ、其中「信徒」ト「基金」ヲ中心ト爲ス、本表第一年ニ於テ信徒ヲ三百萬ト爲シタルハ、從來ノ檀徒及信徒ヲ惣概シテ世間ニ宗徒三百萬ト稱シ來レルニ據ル、其實ハ多少ノ過減ナキヲ保セズト雖、「宗籍」未定ノ今日ニ在リテハ假リニ傳説ニ據ルノ外ナシ（檀徒ト稱スルハ寺々ノ臺帳ニ明記シアルモ、信徒ト稱シ來レル一類ハ、現ニ他宗徒ニシテ熱心ニ本宗ヲ信仰シツ、アルモノ各地方トモニ夥多キ數ナリ、是レ名ニ於テハ他宗寺院ノ檀徒ニシテ實ニ於テハ本宗ノ教徒ナリ）次ニ「基金」ハ即チ『世襲料』ノ完納額ヲ中心トシ、諸本山統合ノ結果、當然宗有ニ歸スベキ都テノ財産ヨリ、多少ノ急須費額ヲ除

キタル餘財等ヲ合シテ假リニ九百萬圓ト爲ス、各寺世襲料ノ納額ハ、轉地合權等幾分ノ方便ヲ加ヘテ、寺福ノ整齊ヲ計ラバ、一寺平均三千圓ヲ下ラザルノ成算ヲ有ス、加之、本山統合ヨリ生ズル宗有財産、是猶未ダ精算ヲ經ザレドモ、亦夥多ノ資財ナルヲ疑ハズ、縱令ヒ「世襲料」ヲシテ豫算ノ如クナル能ハザラシメンモ、其款坎ヲ補フテ餘リアルベキヲ信ズ、即チ「基金」ノ存立ヲ金九百萬圓ト認定スル所以也。

「信徒三百萬」、「基金九百萬」、コレ改革整齊以後ニ於ケル吾宗門ノ新世帯ナリ、是レヨリ年歲ト共ニ費スベキハ之ヲ費シ、積ムベキハ之ヲ積ミ、層々ト進ミ行ク宗勢ノイカナルカヲ試ミンガ爲ニ、此表ハ出デタリ。

若シ新世帯ノ第一歩ニ於テ、「信徒」及ヒ「基金」ノ數ニ減過スル所アラバ、則チ宗勢ノ進運マタ幾干ノ延促アルコト、知ルベシ、然レ且設ヒ最初ノ宗勢ヲシテ十ガ一ナラシムルモ、一タビ改革ヲ斷行セル宗門ハ、本表ノ宗勢ヲシテ十倍マデニ遲鈍ナラシムルコトナキヲ確信ス。

此年表ノ「五十年」ニ止リシハ、第五十年ノ宗力、既ニ日本國ヲ掩蓋シ、餘波亦全世界ニ普及シテ、統化ノ大勢既ニ定マルガ故ナリ。

此年表ニ示ス所ノ宗門勢力ナルモノガ、人物ト資財トノ二ヲ本トセルニ就キ、「人物」ノ宗勢ニ於ケル要素トシテハ、信仰、學問、事業力等ナルハ論ナシト雖、「資財」ノ宗勢ニ於ケルハ、要マタ人物ニ讓ラズ、信仰ノ一事ヲ除クノ外、スベテ資財ノカヲ待タザルヲ得ズ、資財饒リテ始メテ意ノ如キ教育ヲモ爲シ、種々ノ宗門的經營ヲモ完フスルコトヲ得ベケン、夫レ金錢ノ事タル、世間出世間ニ涉リテ、事業ノ根元タルハ言ヲ待タザレドモ、由來局ニ當ルモノ、往々金錢已下ノ人物ナルガ爲メ、諸ノ煩惱的因縁ニ牽レテ、人心ヲ腐敗シ、事業ヲ惡化セシムルニ至ル、是レ原機ノ第一動ニ於テ其目的ノ劣等ナルニ由レリ、今コ、ニ金錢ヲ以テ宗門勢力ノ一要素ト爲シタルハ、單ニ普通經濟眼ノ差排ノミニアラズシテ、確カニ本化妙宗ノ宗義ニ淵源スル所アリテ然ル也、抑

モ人及國家トシテノ「作業ノ實力」ハスベテ金錢ヲ以テ表彰セラル、金錢ハ即チ人ノ勞力也、智力也、藝術也、意思也、若シ夫ヲシテ惡作用ニ出入セシメ惡因縁ニ使用セシメバ、是レ人及國家ヲ學テ惡果ヲ結バシムル也、之ヲ金錢ノ煩惱化ト云フ、金錢ノ煩惱化ハ、ヤガテ人及國家ノ煩惱化也、若シ之ヲシテ渾テ善根良因ノ用タラシムルハ、是レ金錢ノ菩提化也、金錢ノ菩提化ハ、ヤガテ人及國家ノ菩提化也。

本化妙宗ノ教理ハ、理觀ヲ斥テ事觀ヲ立ツ、聖祖ノ唱導スル處ハ惡平等ノ社會觀ヲ排シ、惡差別ノ國家觀ヲ否認シ、而シテ一切世間人及國家ノ權迹ヲ開廢シテ以テ實本ノ世間ヲ建立スル也、是レ本化妙宗開運顯本ノ國家觀ニシテ、所謂本門事觀ノ深義是也、西方淨土ト言ハズシテ此土ト曰ヒ、坐禪ト言ハズシテ信仰氣節ト曰ヒ、戒律ト言ハズシテ護法ト曰ヒ、大日ト言ハズシテ釋迦ト曰ヒ、理性ト言ハズシテ大義名分ト曰ヒ、道德ト言ハズシテ献身ト曰ヒ、倫理ト言ハズシテ國家ト曰ヒ、慈善ト言ハズシテ軍艦ト曰ヒ、伽藍ト言ハズシテ主義ト曰ヒ、觀慧ト謂ハズシテ事行ト曰フ、法門ノ事表ハ人ナリ、人ノ事表ハ國家也、國家ノ事表ハ金錢即チ國力也、善ク國力ノ根元ヲ助長シテ之ヲ左右スルハ、即チ國家ヲ左右スル所以也、本化妙宗ニシテ國家ヲ左右スルノ實

力アラシカ、一辯一筆ヲ勞セズシテ、國家ヲ擧テ菩提化セシメ、以テ眞淨公明聖人ノ國タルヲ得セシムベシ、吾日本國ニシテ一タビ茲強大ノ聖國タルヲ得バ、亦能ク一論一兵ヲ要セズシテ全世界ヲ菩提化シ、以テ諸ノ邪見妄情ヲ轉シテ究竟ノ泰平ヲ宇内ニ及ボスコトヲ得ン、之ヲ事觀事行ノ妙法ト曰フ。

世間ノ金錢ヲ宗門ニ集中スルハ、亦當ニ宗門的經濟ノ必要ニ供スルノミニ非ズ、願クハ一切世間ノ金錢ヲシテ、一タビ聖祖大慈願ノ持筵ヲ歷テ、其強菩提力ノ靈化ヲ帶バシメ、而シテ世間ノ用ニ展轉流通シテ、間接ニモ

其靈氣ニ觸レ來テ、任運ニ諸ノ惡因緣ヲ消却セシメント也。

○年表ノ項目

「年表ノ項目」ハ前ニ論セル如ク、「信徒」ト「基金」ヲ宗門勢力ノ基礎ト定メ、此ニ準シテ學事及布教ノ進歩ヲ詮攷シ、年度ノ收支ヲ算定ス、項目ノ種別ハ尤モ要ナルモノヲ舉ゲテ、其内容ノ細計ヲ略ス、尙表ニ臨テ左ノ綱要ヲ記憶センコトヲ要ス。

△信徒

最初現數三百萬人ト假定シ、第六年ヨリ布教力ノ擴張ニ伴テ漸次相當ノ増加ヲ爲ス、信徒ノ増加ハ直ニ「宗稅」ノ増加ヲ來タシ隨テ「歳入」ヲシテ饒多ナラシム、歳入漸ク饒カナルニ伴フテ教育布教亦擴張セラレ、布教ノ擴張ハ亦信徒ノ倍増トナリ、相長ヲ相増シテ年表ノ如キ多數ニ至ル

△基金

宗門基本金九百萬圓ハ、他ノ宗稅等ノ歳入ト共ニ宗門事業ノ經濟的保證トナリ、宗門作業ヲシテ後顧ノ患ナカラシム、然レモ其使用ノ制限ハ只利金ニ止テ元金ヲ減ズルコトナシ、使用亦徐ロニ諸般ノ實効ヲ期シ、突飛ノ濫用ヲ避ケ、其「剩餘」ハ歳入ノ剩餘ト共ニ次年ノ「基金」ト爲スノ方法ナルガ故、第二年已後ハ年々「基金」ノ増大ヲ見ルモノトス

△歳入

「宗稅」其他ノ收入ヲ惣稱ス、其目左ノ如シ

○宗稅……………(家別宗稅年納三圓六十錢、人別宗稅年納一圓)

○基金利子……………(銀行其他ノ實業ニ放資スルモ年利五朱トス)

○雜收入……………(全國信徒ノ本尊上納金及納骨料等其他一切)

但シ本表ニ於テハ計算ノ煩ヲ避ケンガ爲メ「家別宗稅」及「人別宗稅」ヲ合算シ人準ヲ取リテ每一人年納金壹圓六十錢ト爲シ概略内六十錢ヲ「宗費」ニ壹圓ヲ「宗設義勇艦隊増建費」トシテ計算ス

△歳出

「歳出」ハ宗勢ノ増進ニ伴ヒ、漸次諸項目ヲ増シ、又其支出ヲ遞加シ、内効外用雙ヒ舉テ、滋マス宗門事業ノ光輝ヲ放ツニ便ス、而ツテ其種目ハ

○本山費……………(本山諸用度、宗政費、雜支出等年額金十萬圓ヨリ増シテ金六千萬圓ニ至ル)

○學費……………(學生一人ニ付歳費金百五十圓平均支出年額金十二萬圓ヨリ増シテ金二百九十八萬五千圓ニ至ル)

○布教費……………(布教師一人ニ付年俸旅費合計金五百圓平均支出年額金二十五萬圓ヨリ増シテ金九百六十五萬圓ニ至ル)

○文書傳道費……………(教書出版、日刊布教新聞、諸雜誌類年額十二萬圓ヨリ増シテ二百三十萬圓ニ至ル)

○造船費……………(武裝商船大小建造費一噸ニ付二百圓已上年額三百萬圓ヨリ増シテ六千一百萬圓ニ至ル)

○海外傳道費……………(第二十年ヨリ着手シテ宗教殖民ヲ兼ヌ年額百萬圓ヨリ増額五千四百萬圓ニ至ル)

○帝室獻納金……………(第二十六年ヨリ開始シテ學事 敎獎ノ御用度ト爲ス毎年獻納額百萬圓ヨリ増額千三百

○赤十字社義助金 (第二十六年ヨリ始メ病院船増設及ヒ平時海上防疫ノ施療ヲ興ス、支出額全上)
 ○慈善救濟費 (第二十六年ヨリ始メ教育、救療、授産等ノ世善ヲ幫助ス、支出額全上)

△學徒

「學徒」ハ初心學寮生已上、大學生及海外留學生等ヲ總稱スト雖、此表ノ標準ハ多ク、教學寮ニ在リ、第一
 年ニ於テ八百人ヲ取リタルハ、現今ノ學生ト、改革已後ノ情況トヲ斟酌セル所ナリ、而シテ五年間ハ専ラ修養
 時代ト見做シ、第六年ヨリ相當ノ増加ヲ爲シ、第五十年ニ至テ一萬九千九百人ヲ得ベカラシム

△布教師

「布教師」ハ「教家」「行家」ノ兩衆中、正シク巡教傳道ニ從事スルモノヲ指スト雖、重ニ教家衆ヲ標準トシテ
 構案ス、第一年ニ於テ五百人ヲ取リタルハ、全ク現今ノ僧俗中法器相當ノ人ヲ擧テ之ニ補スルノ意也、第六年
 已後年々新教育ヲ加ヘタル卒業者ヲ以テ増充遞加シ、第五十年ニ至テ一萬九千二百人ヲ得ベカラシム

△宗設義勇艦隊

「宗設義勇艦隊」ハ、武裝シ得ベキ商艦ニシテ、毎年大小ヲ通シ約十隻已上ヲ建造シ、資力ノ増大ヲ待テ漸次巨
 艦ヲ造ル、常ニ内外ノ航海ニ供シテ、宗用及國用ノ利便ニ備ヘ、國家一朝有事ノ日ハ、全艦隊ヲ擧ゲ、無料使
 用ノ條件ヲ以テ、朝家ノ用ニ捧ク、其ノ平時ノ用途ハ左ノ如シ

- 航路…ハ内國諸港及ヒ本山並ニ各御靈地ノ往來、其他海外諸航路ノ往復
- 船業…ハ定期及臨時ノ航海ヲ以テ、貨物積載、乘客登載、其他一般ノ船業ニ從テ、賃金ヲ世間一般ノ價ニ

リモ低減シテ以テ國力ノ發達ヲ助ケ、尙「宗徒」ニ對シテハ貨物乘客共其半價ト爲シ、且ツ本山及靈地登
 詣ノ者ニハ、其歸航ヲ無料ト爲スノ特典ヲ與フ

○副業…トシテハ每船必ズ「布教師」及ヒ「醫術兼修」行家衆「若干員」ヲ置キ、船中ニ於テ毎日修行及演説ヲ以
 テ法益ヲ布キ、又圖書閱覽室ニハ、經典、祖判、布教用ノ新聞雜誌ヲ備フ、其他内地巡教ノ各隊、海外
 留學、海外傳道、海外宗教殖民ノ宗用搭載ニ供ス

以上ノ目的用途ニ適スル爲メ、每船本館室及講堂ヲ備ヘ、實馬力、速度、排水量、容積量等ノ諸裝置ハ、平時
 及戰時ノ兩用ニ適應スベク製出ス、名稱ハ宗門的佳號ヲ撰ビ、船色ヲ一定シ、宗門徽章ヲ船旗ト爲ス

△戒壇基金

「戒壇基金」ハ、本門戒壇奠定ノ準備淨財ニシテ、日本國教創立ノ祖猷ヲ遂行スベキ本宗徒ノ子孫繼續事業トス、
 其方法ハ信徒總數ノ四分ノ一ヲ以テ、約金百圓ノ終身保險者ト爲シ、本山ヲ以テ保險金受領者ト爲ス、是則チ
 命終ト共ニ最後ノ供養ヲ國家ト、聖祖トニ捧クルノ趣向ニシテ、其掛込ハ信徒每人生涯ト同時ニ全國ノ宗有山
 林ニ相當ノ樹苗ヲ植付ケ、又ハ養鷄養蜂等ノ副産ヲ以テ、相當年齡(約滿十二歲)ニ達シ、終身分ヲ一回ニ拂込
 ミ得ベク準備セシム、而シテ其死歿統計ハ一年度千分ノ二十(帝國統計年鑑ニヨル)ニシテ、年々宗納ヲ積累
 シ、更ニ之ヲ利殖シテ別部ノ保管ニ屬シ、未來ノ無限勢力ヲ蓄養シテ以テ三大秘法ノ事現圓成ヲ期ス、乃チ
 第一年ニ於テ百五十萬圓ヲ得、已後元利滾累シテ、第五十年ニハ十一億九千十五萬千五百四十一圓ノ巨資ヲ有
 スルニ至ル

以上各項ヲ經緯シテ、五十年間ノ宗勢ヲ概想スルコト、左表ノ如シ

宗門革正後五十年間宗勢概計表

第一期 (自第一年至第五年)

此期ニ於テハ、革新後日猶淺キノ故ヲ以テ、『學生』、『信徒』、『布教師』等ハ、第一年ノ儘ニシテ増加セズ、唯『基金』及其他ノ項ハ累年増加ヲ示ス。

●『歳入』ノ内此期ノ「雜收入」ハ毎年二十萬圓●『歳出』ノ内「文書傳道費」ハ毎年十二萬圓、「本山費」ハ毎年十萬圓

年度	種目	學徒	教師	信徒	基金	歳入	歳出	剩餘	艦隊	戒壇基金
第一年		100	50	1,000,000	10,000,000	11,500,000	12,000,000	1,000,000	1	1,000,000
第二年		100	50	1,000,000	10,000,000	11,500,000	12,000,000	1,000,000	1	1,000,000
第三年		100	50	1,000,000	10,000,000	11,500,000	12,000,000	1,000,000	1	1,000,000
第四年		100	50	1,000,000	10,000,000	11,500,000	12,000,000	1,000,000	1	1,000,000
第五年		100	50	1,000,000	10,000,000	11,500,000	12,000,000	1,000,000	1	1,000,000

第二期 (自第六年至第十年)

●此期ニ於テハ『學徒』及『布教師』ハ年々前數ノ二割ヲ増加シ、『信徒』ハ布教師壹人ニ付毎年五十人ヲ教化入實セシムルノ増數例トス●『歳入』ノ内「雜收入」ハ每年前數ハ二割増加●『歳出』ノ内「本山費」、「文書傳道費」ハ各毎年二割ヲ累増シ更ニ毎年一百萬圓ヲ「製艦費」ニ増加シテ年々十五隻ヲ造ル●其他ハ前期ノ例

●本期末第十年ニ於ケル宗勢ハ『學徒』千九百九十人、『布教師』二百二十四人、『信徒』三百二十二萬餘人、『基金』二千三百九十四萬餘圓、『宗設艦隊』百二十五隻ヲ有シ『歳入』三百三十四萬餘圓ニ達シ外ニ「戒壇基金」二千八百五十七萬餘圓ヲ得、『宗財』合計四千二百五十一萬餘圓ニ至ル

年度	種目	學徒	教師	信徒	基金	歳入	歳出	剩餘	艦隊	戒壇基金
第六年		120	60	1,200,000	12,000,000	13,200,000	13,800,000	1,200,000	2	1,200,000
第七年		140	70	1,400,000	14,000,000	15,400,000	16,000,000	1,400,000	3	1,400,000
第八年		160	80	1,600,000	16,000,000	17,600,000	18,200,000	1,600,000	4	1,600,000
第九年		180	90	1,800,000	18,000,000	19,800,000	20,400,000	1,800,000	5	1,800,000
第十年		200	100	2,000,000	20,000,000	22,000,000	22,600,000	2,000,000	6	2,000,000

第五期 (自第二十五年 至第三十年 五ヶ年間)

●此期ニ於テハ「學徒」及「布教師」ハ各毎年三百人累増●信徒ハ布教師一人ニ對シ毎年二百人ノ増數
 例●歳出ノ内「文書傳道費」及「本山費」ヲ増額シテ毎年各三十萬圓ノ支出トシ「製艦費」ヲ増シテ年額
 六百萬圓ノ支出トシ年々二十五隻ヲ建造シ、又新タニ「海外傳道費」毎年一百万圓ヲ支出ス●其他ハ前期
 ノ例

●本期末第廿五年ニ於ケル宗勢ハ、「學徒」四千九百人、「布教師」四千二百人、信徒「九百二十九萬餘人」、「基
 金」六千六百七十九萬餘圓、「宗設艦隊」四百五十隻ヲ有シ、「歳入」一千九百二十四萬餘圓ニ達シ、外ニ
 『戒壇基金』九千三百四十八萬餘圓ヲ得、「宗財」合計一億六千〇二千八萬餘圓ニ至ル

年度	種目	學徒	教師	信徒	基金	歳入	歳出	剩餘	艦隊	戒壇基金
第二十一年		3,000	3,000	6,268,350	45,857,710	13,077,870	9,667,000	2,511,870	3,350,000	3,350,000
第二十二年		3,000	3,000	6,688,350	49,777,710	13,282,810	9,872,000	2,511,870	3,350,000	3,350,000
第二十二年		3,000	3,000	7,108,350	53,697,710	13,487,750	10,077,000	2,511,870	3,350,000	3,350,000
第二十四年		3,000	3,000	8,528,350	57,617,710	13,692,790	10,282,000	2,511,870	3,350,000	3,350,000
第二十五年		3,000	3,000	9,948,350	61,537,710	13,897,830	10,487,000	2,511,870	3,350,000	3,350,000

第六期 (自第二十六年 至第三十年 五ヶ年間)

●此期ニ於テハ、「學徒」及「布教師」ハ各毎年四百人累増●信徒ハ布教師一人ニ對シ毎年二百五十人ノ
 増數例●「歳出」ノ内「文書傳道費」及「本山費」ヲ増額シテ毎年各四十萬圓ノ支出トシ「制艦費」ヲ増シテ
 年額七百萬圓ノ支出トシ年々三十隻ヲ建造シ「海外傳道費」ヲ増シテ毎年二百萬圓ヲ支出シ、又新ニ「帝
 室獻金」「赤十字社寄附金」「慈善費」各毎年百萬圓ヲ支出ス●其他ハ前期ノ例

●本期末第三十年ニ於ケル宗勢ハ、「學徒」六千九百人、「布教師」六千二百人、「信徒」一千六百〇四萬餘人、「基
 金」一億二千二百三十萬餘圓、「宗設艦隊」六百隻ヲ有シ、「歳入」三千二百九十八萬餘圓ニ達シ、外ニ「戒壇
 基金」一億五千四百七十六萬餘圓ヲ得、「宗財」合計二億六千七百〇六萬餘圓ニ至ル

年度	種目	學徒	教師	信徒	基金	歳入	歳出	剩餘	艦隊	戒壇基金
第二十六年		4,000	4,000	10,368,350	55,457,710	14,102,870	10,692,000	2,511,870	4,200,000	4,200,000
第二十七年		4,000	4,000	11,788,350	59,377,710	14,307,810	10,897,000	2,511,870	4,200,000	4,200,000
第二十八年		4,000	4,000	13,208,350	63,297,710	14,512,750	11,102,000	2,511,870	4,200,000	4,200,000
第二十九年		4,000	4,000	14,628,350	67,217,710	14,717,790	11,307,000	2,511,870	4,200,000	4,200,000
第三十年		4,000	4,000	16,048,350	71,137,710	14,922,830	11,512,000	2,511,870	4,200,000	4,200,000

第七期 (自第三十一年至第三十五年五ヶ年間)

●此期ニ於テハ、『學徒』及『布教師』ハ各毎年五百人累増●『信徒』ハ布教師一人ニ對シ毎年三百人ノ増數例●『歳出』ノ内『文書傳道費』及『本山費』ハ三十一年度ニ於テ年費各四十萬圓ヲ支出シ已後毎年各十萬圓ヲ累増シ『製艦費』ヲ増シテ年額九百萬圓トシ毎年四十隻ヲ建造シ『海外傳道費』ヲ増シテ毎年三百萬圓ヲ支出シ『帝室獻金』『赤十字社寄附金』『慈善費』ハ各毎年二百萬圓ヲ支出ス●其他ハ前期ノ例
●本期末第三十五年ニ於ケル宗勢ハ、『學徒』九千四百人、『布教師』八千七百人、『信徒』二千七百五十九萬餘人、『基金』二億千〇〇六萬餘圓、『宗設艦隊』八百隻ヲ有シ、『歳入』五千七百四十八萬餘圓ニ達シ、外ニ『戒壇基金』二億五千九百五十三萬餘圓ヲ得、『宗財』合計四億六千九百五十九萬餘圓ニ至ル

年度	種目	學徒	教師	信徒	基金	歳入	歳出	剩餘	艦隊	戒壇基金
第三十一年		500	500	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000	0	0	1,500,000
第三十二年		500	500	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000	0	0	1,500,000
第三十三年		500	500	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000	0	0	1,500,000
第三十四年		500	500	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000	0	0	1,500,000
第三十五年		500	500	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000	0	0	1,500,000

第八期 (自第三十六年至第四十年五ヶ年間)

●此期ニ於テハ、『學徒』及『布教師』ハ各毎年六百人累増●『信徒』ハ布教師一人ニ對シ毎年三百五十人ノ増數例●『歳出』ノ内『文書傳道費』及『本山費』ハ三十六年度ニ於テ年費各九十萬圓ヲ支出シ已後毎年各十萬圓ヲ累増シ『製艦費』ヲ増シテ年額一千一百萬圓トシ毎年五十隻ヲ建造シ、『海外傳道費』ヲ増シテ毎年四百萬圓ヲ支出シ『帝室獻金』『赤十字社寄附金』『慈善費』ハ各毎年三百萬圓ヲ支出ス●其他ハ前期ノ例

●本期末第四十年ニ於ケル宗勢ハ、『學徒』一萬二千四百人、『布教師』一萬一千七百人、『信徒』四千五百八十三萬餘人、『基金』四億千七百二十九萬餘圓、『宗設艦隊』一千〇五十隻ヲ有シ、『歳入』九千八百九十二萬餘圓ニ達シ、外ニ『戒壇基金』四億三千五百六十九萬餘圓ヲ得、『宗財』合計八億五千二百九十九萬餘圓ニ至ル

年度	種目	學徒	教師	信徒	基金	歳入	歳出	剩餘	艦隊	戒壇基金
第三十六年		600	600	1,800,000	1,800,000	1,800,000	1,800,000	0	0	1,800,000
第三十七年		600	600	1,800,000	1,800,000	1,800,000	1,800,000	0	0	1,800,000
第三十八年		600	600	1,800,000	1,800,000	1,800,000	1,800,000	0	0	1,800,000
第三十九年		600	600	1,800,000	1,800,000	1,800,000	1,800,000	0	0	1,800,000
第四十年		600	600	1,800,000	1,800,000	1,800,000	1,800,000	0	0	1,800,000

第九期 (自第四十一年至第四十五年)

●此期ニ於テハ、學徒及布教師ハ各毎年七百八人累増●信徒ハ布教師一人ニ對シ毎年四百人ノ増數例●歳出ノ内「文書傳道費」ハ四十一年度ニ於テ百四十萬圓ヲ支出シ已後毎年十萬圓ヲ累増シ「本山費」ハ四十一年度ニ於テ六百萬圓ヲ支出シ已後毎年六百萬圓ヲ累増シ「製艦費」ハ四十一年度ニ於テ壹千六百萬圓ヲ支出シ已後毎年五百萬圓ヲ累増シ、「帝室獻金」「赤十字社寄附金」「慈善費」ハ四十一年度ニ於テ各四百萬圓ヲ支出シ已後毎年各百萬圓ヲ累増ス●其他ハ前期ノ例

●本期末第四十五年ニ於ケル宗勢ハ「學徒」一萬五千九百人、「布教師」一萬五千二百人、信徒七千三百四十三萬餘人、「基金」六億六千八百三十萬餘圓、「宗設艦隊」一千六百六十五隻ヲ有シ、「歳入」一億五千八百七十三萬餘圓ニ達シ、別ニ「戒壇基金」七億二千五百三十八萬餘圓ヲ得、「宗財」合計十三億九千三百六十八萬餘圓ニ至ル

年度	種目	學徒	教	師	信	徒	基	金	歳	入	歳	出	剩	餘	艦	隊	戒壇基金
第四十一年		13,100		13,200	80,724	2,200	110,403,114	23,224,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000
第四十二年		13,200		13,300	81,000	2,200	111,000,000	23,300,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000
第四十三年		13,300		13,400	81,600	2,200	111,600,000	23,400,000	11,200,000	11,200,000	11,200,000	11,200,000	11,200,000	11,200,000	11,200,000	11,200,000	11,200,000
第四十四年		13,400		13,500	82,200	2,200	112,200,000	23,500,000	11,300,000	11,300,000	11,300,000	11,300,000	11,300,000	11,300,000	11,300,000	11,300,000	11,300,000
第四十五年		13,500		13,600	82,800	2,200	112,800,000	23,600,000	11,400,000	11,400,000	11,400,000	11,400,000	11,400,000	11,400,000	11,400,000	11,400,000	11,400,000

第十期 (自第四十六年至第五十年)

●此期ニ於テハ、「學徒」及「布教師」ハ各毎年八百八人累増●信徒ハ布教師一人ニ對シ毎年四百五十人ノ増數例●歳出ノ内四十六年度ニ於テ「文書傳道費」ハ百九十萬圓、「本山費」ハ三千六百萬圓、「製艦費」ハ四千一百萬圓、「海外傳道費」ハ三千四百萬圓、「帝室獻金」「赤十字社寄附金」「慈善費」ハ各九百萬圓ヲ支出シ已后各項毎年支出累増ノ割前期ノ例ニ據ル●其他ハ前期ノ例

●本期末終即チ第五十年ニ於ケル宗勢ハ「學徒」一萬九千九百人、「布教師」一萬九千二百人、信徒一億一千三百〇三萬餘人、「基金」七億五千二百七十四萬餘圓、「宗設艦隊」二千九百十五隻ヲ有シ、「歳入」二億三千百十三萬餘圓ニ達シ、外ニ「戒壇基金」十一億九千九十五萬餘圓ヲ得、「宗財」合計十九億四千二百八十九萬餘圓ニ至ル

●是ヨリ以後ハ、毎年期ノ擴大力ト進程ノ度トハ俱ニ相加ハリ、一躍シテ萬國ヲ化盡シ一搏シテ宇内ヲ統一セント堂ヲ反スガ如カラシム

年度	種目	學徒	教	師	信	徒	基	金	歳	入	歳	出	剩	餘	艦	隊	戒壇基金
第四十六年		13,600		13,700	83,400	2,200	113,400,000	23,700,000	11,500,000	11,500,000	11,500,000	11,500,000	11,500,000	11,500,000	11,500,000	11,500,000	11,500,000
第四十七年		13,700		13,800	84,000	2,200	114,000,000	23,800,000	11,600,000	11,600,000	11,600,000	11,600,000	11,600,000	11,600,000	11,600,000	11,600,000	11,600,000
第四十八年		13,800		13,900	84,600	2,200	114,600,000	23,900,000	11,700,000	11,700,000	11,700,000	11,700,000	11,700,000	11,700,000	11,700,000	11,700,000	11,700,000
第四十九年		13,900		14,000	85,200	2,200	115,200,000	24,000,000	11,800,000	11,800,000	11,800,000	11,800,000	11,800,000	11,800,000	11,800,000	11,800,000	11,800,000
第五十年		14,000		14,100	85,800	2,200	115,800,000	24,100,000	11,900,000	11,900,000	11,900,000	11,900,000	11,900,000	11,900,000	11,900,000	11,900,000	11,900,000

○革正セル宗門ノ新タナル諸効力

宗門ノ革正、一タヒ斷行セラレテ後、其實力ノ快進光發、洵ニ測ルベカラザルモノナランハ、予ノ信ヲ疑ハザル所、而シテ其宗勢發展ノ次第ハ

△第一……新式布教ノ効力 全國ヲ周遊シテ、道路、殿堂、遊浴場、其他ニ於ケル常恒教化ノ効ハ、其最低ナルモ現時ノ布教力ニ十三萬五千倍ノ實効ヲ有ス、況ヤ宗勢増大ノ日ニ於テヤ

△第二……新式修法ノ効力 「法力」「醫術」兼備ノ「救療隊」若干ハ、常ニ全國ヲ周遊シテ、病者安慰拔苦與樂ノ行益ヲ普及シ、先ツ其罪根ヲ拔テ懺悔歸正ノ信素ヲ造ル、而シテ「行家」百ヲハ一金ヲモ受クズ、専ラ博愛悲愍ノ聖業ヲ翼賛スルニ對シ、願フニ世間ハ吾宗門ノ洪慈ニ服シ、改宗歸真スルモノ續々至ラン

△第三……看護布教ノ効力 「救家衆ノ妻女」及有志婦人ヨリ成ル所ノ看護隊ハ、東京其他適宜ノ地ニ部隊ヲ置キ、無報酬ヲ以テ赴請看護ヲ爲シ、賤病ノ餘暇、唱念誦持シテ病者ノ爲ニ罪障消除ヲ祈リ、時宜ヲ察テ宗教的安慰ヲ與ヘ、循々ノ化ヲ以テ身心ノ痛苦ヲ拔キ、法喜世善ノ兩益ヲ兼テ布教ノ一助ト爲ス

△第四……文書傳道ノ効力 布教用ノ教書ハ、スベテ言文一致、且以テ編輯シ、本山ヲ始メ所在寺院及ヒ巡教隊等ニ於テ絶エズ施本シ、別ニ宗設ノ日刊新聞ヲ發行シ、純布教ノ材料ヲ備ヘ、年分三千萬部已上漸次増加シテ、毎年四億八千萬部ヲ施本スルニ至ル、海陸市邑凡ソ人間ノ往來止住スル處、妙宗の文字アラザルナキニ及ヒテ、晨昏起臥ノ間、常ニ斯文教ニ浴シ、彼所在「道場布教」ト相待テ、宗教利喜ノ洪化ヲ相資ク

△第五……艦隊布教ノ効力 宗設船舶ノ乗客ハ、航海中ノ異變ヲ除クノ外、航行碇泊共ニ日夜布教ニ接シ、乃チ一隻ノ船舶ハ常ニ一個ノ道場タリ、千百艘ノ多キニ至リテ、内外航路常說法ノ聲アルハ、乃チ妙法ノ梵音、内外國ノ天ニ響震スルモノ也、其感化力洵ニ測ルベカラザルニ至ラン

△第六……教團殖民ノ効力 本邦及諸外國ノ適當地ヲ撰ビ、宗徒ノ一團ヲ以テ宗教的殖民地ヲ造リ、農工商各種ノ實業ヲ非勵シテ、宗勢及國力ノ發達ヲ計ル、其數ハ宗資ノ増大ト共ニ漸次増加ス、但シ外國殖民地ニ在リテハ必ス海外傳道ヲ兼テシム

△第七……宗資ノ増大ニ伴フ社會的勢力 宗門ノ淨資ハ常ニ遠大ノ正計ニヨリテ各種ノ事業ニ放流セラレ、世間經濟界ノ一大勢力トナルハ言ヲ待タズ、彼ノ宗設義勇艦隊ノ如キ、幾千隻ノ船舶、恒ニ内外海路ヲ潤歩シ交通運輸ノ利便ヲ國家ニ與ヘ、又宗徒ノ分限アルモノニ對シテハ、特ニ其船費ヲ半減スルカ故ニ、宗徒ノ産業ハ無窮ノ發達ヲ爲シ、國用ヲ周給スルト共ニ宗徒及國家ノ富力ヲ増シ、暴利ノ念ハ跡ナ絶チ、敦厚ノ風ハ世ヲ掩フニ至ラン、乃至第五十年ニ於ケル宗門ノ「歲入」及「歲出」ハ明治三十年度帝國ノ歲出入ニ伯仲スルニ至リ、其固定宗財の總計は實ニ十九億四千二百八十九萬餘圓ノ巨額ニ達スレシ宗税及金利ノ増殖ニヨリテ獲ル所、本邦ノ富力ヲ統有シテ尙餘アリ、理マサニ外國ノ財ヲ吸收セザルベカラズ、必ズヤ熱信精勇ナル吾信徒ノ實業力ト、靈光アル宗門財產ノ利殖力トヲ經テ、海外有縁ノ資力ヲ吾邦ニ吸收シ、爲ニ宗力ヲ助長シ、爲ニ國力ヲ達養スルコトヲ得ン、蓋シ宗門ノ理財ヲ以テ吾國經濟ノ咽喉ヲ扼スルハ前キニ説ケル妙宗事觀ノ微意ニ出テ、國家ノ正義心ヲ擔保シ、人間生活ノ死命ヲ制スル所以ニシテ、政治、法律、社會、民衆、風俗、道義、ノ一切ニ對シ、宗門勢力ノ強壓力ヲ加被シテ、區々陰險

ノ妄情邪曲ヲ對治シ、國論民情ヲシテ任運ニ正義公道ニ歸入セシムル、本化別頭、世界悉檀ノ法門也、政黨モ合掌シテ宗門ニ聽キ宰官モ恭敬シテ宗門ニ聽キ經濟界モ實業界モ、學者モ論客モ、四海咸ク宗門ニ聽クニ非ザレバ、國政モ理財モ疏通スル能ハズ、和戰ノ政算ヲモ決スル能ハザルニ至ラン、是ニ於テカ宗門ハ天下ヲシテ志ニ善ヲ行ハシメ義ニ仗ラシムルノ實權ヲ有ス、斯ノ大勢力ノ全部ヲ舉テ、以テ萬世一系宇内靈原ノ皇室ヲ輔翼シ奉リ、王法佛法ノ冥合統一ヲ實現シ、一天四海皆歸妙法ノ樂邦ヲ嚴淨スルハ即チ本化別頭「第一義悉檀」ノ法門也、世界萬邦吾國威ヲ仰テ、風加艸假シ、義ニ服シ正ニ歸シテ、以テ禽獸的鬭爭ヲ弭メ、合掌シテ南無日本國ト唱エンハ本化ノ「對治悉檀」也、宇内ノ人類、遠ク吾皇澤ニ浴シ、蘭芳麻直ノ隆化、勃然トシテ仁ニ服シ善ニ歸シテ、始メテ忠孝ノ正道ヲ知り、合掌シテ南無日本國ト唱エンハ、本化ノ「爲人悉檀」也、本門事觀「四悉檀」ノ利益ヲ以テ群生ヲ度ス、「天晴スレバ地明カナリ法華ヲ識ルモノハ世法ヲ得ベキカ」トノ祖訓コレ也。

以上ノ所説ハ姑ク「未來年表」ノ第五十年以内ニ於テ構想ス、茲直接間接ノ教効ヲ總概シテ、宗勢發展ノ如何ヲ豫フレバ、蓋シ思ヒ半ニ過グルモノアラン、若シ夫レ金力ノ一事、必ズ萬事ヲ成ストノミ執セバ本願寺ノ財力ハ現時ニ於テ既ニ諸宗第一也、假リニ彼宗ニ智者アリテ、予ノ策案ヲ竊ミ用フトセンカ、所謂上述七箇ノ教効ヲ具備シテ、國教ノ王冠ソレ彼レニ歸センヤ否、否ズ、彼宗徒中、多少ノ俗智者流アリテ常ニ經營ニ奔走シツランモ、教法既ニ 佛陀ノ本懷ヲ失シ、邪曲ノ宗解、時機ヲ誣ヒ、民情ヲ毒ス、其ノ教旨ハ究テ厭世放逸自屈ヲ甘ンシ、墮落ニ慣ル、消極的安心ニシテ敢爲ノ教ニ非ラズ、破壞的安心ニシテ建立ノ教ニ非ズ、此土ノ教主ヲ捨テ、他土ノ佛ヲ奉ズ、秩序ノ教ニ非ル也、佛教ノ權實ヲ辨ゼズシテ、漫ニ縱橫ノ私議ヲ立ツ大義名分ノ教ニ非ズト知ルベシ。

○本表五十年以内ニ於ケル宗門諸經營ノ成功

五十年間ニ於テ、宗門ノ施設スベキ事業ハ、固ヨリ多種多面ニシテ經營容易ナラズト雖、差排宜キヲ得バ、若ク成功、毫モ痛苦ヲ感ゼザルニ至ラン、尤モ急ヲ要スベクシテ施設ノ大ナラザルモノヲ先ニシ、大經綸ニ屬スルモノハ、累年増資ノ后ヲ待チ、若シクハ永期繼續ノ事業ト爲スベシ、然レル大抵五十年間ヲ期シテ、全部ノ完成ヲ爲スヲ要ス、其概略ハ凡ソ左ノ如シ

○唯一本山 ハ地域及建造等一切ノ完成ヲ、二十年以上五十年以内ノ繼續事業トシ、先ツ第一年ニ於テハ本山ノ地境ヲ選定シ、「内域上壇」八萬四千坪、「内域下壇」十三萬四千四百坪、「外域周林」六萬四千坪、「外域敷地」約二十二萬八千坪(内域ノ四周各巾百間)ノ地割ヲ爲シ、版築土工ニ着手シ、「水道」及「電氣鐵道」ノ布設、樹木ノ植付ヲ終リ、尋テ「中央三殿」ノ正式建築、及ヒ其他必要建物ノ假建築ニ着手スベシ

(第一圖參看)其他ハ緩急宜キニ應テテ漸々完成セシムベシ

○宗設休養所 熱海、有馬、箱根、大磯、伊香保、其他著名ノ温泉又ハ海浴場數十ヶ所ヲ撰ヒ、巡教師及宗徒ノ休養ニ便シ、兼テ浴客ニ對シ誘化的傳道ヲ爲スベキ爲メノ會堂ニシテ、五年以内ニ建造シ了ルヲ要

○靈跡表彰地 全國 聖祖親歷ノ靈境、即チ法難、親化、各有緣ノ個所ヲ表彰スル爲メ、儼然タル淨域ヲ構ヘ銅石等ノ巨碑ヲ建テ、林觀、淨欄ヲ以テ地境ヲ護リ、神聖崇嚴ノ致態ヲ存セシム(完成繼年)

○宗門古跡 全国各地ニ散在セル、宗門先輩ノ法難殉死及法論等、宗史上重要ノ古跡ニシテ、相當ノ表彰ト保護トヲ加ヘテ、宗門ノ過去ヲ莊嚴スルニ備フ(全上)

○宗有園林 靈地及古跡ニ附屬スベキ宗立義園并ニ全國各地ノ宗有林野ニシテ、相當ノ栽培ヲ施シ保護生長ノ方ヲ設ク(全上)

○宗設造船所 宗有船舶ノ建造修繕ヲ司ル爲メ、便宜ノ地ニ之ヲ設ク(第四十一年着手完成繼年)

○本山鐵道 ハ本山所在地ヲ中心トシテ、全國靈地ヲ回歴シ、各港ニ於ケル、宗設義勇艦隊一ト、海陸ノ連絡ヲ爲シ得ベク施設シ、營利以外ニ立テ、宗用及國用ヲ達シ、宗徒及ヒ世間一般ノ學生并ニ兵卒等ニハ各線無料乗車ヲ許スノ考案ニシテ、後年全國海岸ヲ周回貫通スベキ豫測ヲ以テ着手ス(第三十一年着手漸次完成シテ將來戒壇鐵道ノ準備ヲ爲ス)

○看護救療院 看護傳道ノ部隊ヲ置キ、且ツ部隊ノ應援トシテ貧病者ニ對シ施療ヲ爲ス慈善病院ニシテ、東京、京都、大阪、名古屋等適宜ノ地ニ設立シ、漸次増加シテ、遂ニ全國ニ治カラシム(第六年着手、漸次増設)

○宗立殖民地 內國ニハ北海道及臺灣、外國ニハ各國殖民地ニ於テ、宗團專有ノ拓植ヲ施行シ、漸次團勢ヲ張リ個所ヲ増シテ、兼テ傳道機關ノ中心ト爲ス(內國ハ第六年ヨリ海外ハ第二十二年ヨリ着手漸次増

大ス)

此外零碎ノ施設許多アリト雖之ヲ略ス、以上ノ各設計資金ハ、本山費ノ幾分、信徒ノ特別寄附、並ニ基金ノ幾分流用ヲ以ス。

○本邦諸宗教ノ解散ト國教成立期

宗門事業ノ漸次成功ハ、各種ノ布教力ト相待テ、不測ノ宗化力ヲ有シ、改宗歸正ノモノ、累歲彌加ハリ、諸ノ劣等宗教(邪神道ノ類)先ツ跡ヲ絶チ、其他ノ宗教モ漸々惡弊ヲ去リ、誠意ニ教學ニ志スニ至リ、淫祠迷信都テ滅シ、土流ノ士ハ眞摯ニ「日蓮主義」ノ何タルヲ解シ、下層ノ德教安心ハ靡然トシテ正路ニ入り、宗門以外ニ於テ、日蓮主義ノ學見、日蓮主義ノ政黨、「日蓮主義」ノ實業團體、「日蓮主義」ノ道德說等、續々世間ニ興起シ、内外國ノ諸大學、マタ哲學上空前ノ問題トシテ之ニ注目スルニ至リ、國民ノ多數正シク誠意ノ同情ヲ寄セ來リ貴族院ノ半數及衆議院ノ過半數ニ「日蓮主義」ノ熱誠同意者ヲ得、廟堂ノ大部分亦宗徒ニコリテ組織セラレ、ト聖祖遺訓ノ如クニシテ、正義國中ヲ風靡シ、國運方サニ宗風ト共ニ扇揚センコトハ、蓋シ「本表」第四期「ヨリ」第六期(第二十年ヨリ第三十年)ノ間ニ在ラン。

宗風、國情、進運ノ大勢既ニ斯ノ如シナル時ハ佛耶諸宗ノ學者、亦敬虔眞摯ノ態度ヲ以テ、本化妙宗ヲ研究シ始メテ佛陀ノ本懷ト各祖ノ得失ヲ知り、知見學殖茲ニ正明ニシテ、各宗ノ教機時因ヲ失セルヲ曉リ、英兒俊傑相踵テ改悔歸宗シ、其宗團ノ解散ヲ宣言スルニ至ラン、乃チ佛教ニ於テハ、「法相」、「華嚴」ノ兩宗先ツ滅シ、其本山ハ本宗之ヲ購入シ、其建造物ハ國寶トシテ丁重ノ保護ヲ加ヘ、以テ國家ニ献上スベク、之ニ次テハ「天台宗」

先ツ漸ク「慈覺」「智證」ノ邪僻ヲ看破シ、「根本大師」ノ正意ヲ悟リ、始メテ 聖祖在獄中三塔論議改革切諫ノ歴
史ヲ追慕シ、闔宗洗然トシテ本化ノ宗ニ合群シ、以テ『天台』『傳教』ノ内鑒正意タル本門三秘ヲ奉ズルニ及ビテ
ハ「真言宗」亦獨リ空海ノ密教ニ固執スルコトナシ、瓦然解群シテ宗籍ヲ本化ノ妙宗ニ移スニ至ルベキハ、蓋シ
「本表」第七期（第三十一年至第三十五年）ナルベシ、外教ニ在テハ、「天主教」「希臘教」先ツ跡ヲ我邦ニ絶タ
ンモ亦此期間ナルベシ。

「禪宗」ト「淨土宗」トハ、篤學聰明ノ士先ツ正信歸伏シ、諸口宗我偏執ノ一類穢ニ殘墟ヲ固守スルモ、一面ハ幾
多ノ法戰ニヨリ、一面ハ信徒ノ滅却ニヨリテ已ムナク解散スルニ至ランハ、方サニ「第八期」「第九期」ノ間ナル
ベケン。

從來多少ノ布教力ヲ有シ、亦宗政維持ノ秘訣ヲ解セルハ、「本願寺宗」ト「耶穌新教」ノ諸派ナリ、彼等ハ本宗擴
大ノ勢力ニ打撃セラレ、爲ニ幾許ノ扶宗策ヲ講シテ我ニ對峙スルニ至リ、且ツ各宗潰走ノ殘機ヲ流寓シシメ、
多少ノ活動ヲ帶テ、鞏トシテ諸宗ニ殿スルモノトセバ、吾邦最終ノ教陣ハ、本宗ノ外「真言宗」ト「耶穌教」トノミ
ナルベシ、此三大宗教ハ實ニ四海ノ壯觀ヲ萃メテ、天下分目ノ法戰ヲ端緒ノ野ニ交ユベシ、然モ天運既ニ歸シ
地利人和併セ得タル、本化妙宗ノ膨張力ハ山岳河海ヲ翻轉シツベク、殊ニ况ヤ宗旨教義ノ正邪優劣、天淵モ
管ナラザル分明ノ勝算ハ、夙ク既ニ内外有識者及舉國ノ同情ニ認定セラレ、「第十期」ノ中間ニ迫ラズシテ「真
宗」ト「耶穌教」ハ吾邦ニ跡ヲ絶ツニ至ラント必セリ矣、斯ノ如クニシテ宗教ノ天下終ニ一ニ定リ、舉國既ニ一
乘ノ民ト成リ、帝國議會ノ大多數、亦本化妙宗ノ經國主義ヲ奉テ、畏レ多クモ 皇室亦疾クニ斯正教ト冥合シ
玉フニ至リ、大詔巍然トシテ煥發シ、議會詢々如トシテ協贊シ奉リテ 世界未曾有ノ 開運顯本の國教ト安
ニ憲定セラレ、本門事妙ノ「大戒壇」涌然トシテ吾邦ノ中央最勝地ニ建鼎セラル、曉ハ、即チ大日本國 天祖ノ

「神護」ト、斯靈奇最勝ノ「國體」ト、斯 神奇一系ノ「帝室」トガ、本佛釋尊ト本佛法華經トノ化身タル日
蓮聖祖ニ緣リテ、殘リナク解釋セラレテ、其眞價ヲ實現シ了レル時也、既ニシテ教威國光、宇内ヲ周遍シテ世
界萬邦ノ群類ヲ風化ス、一兵一丸ヲ要セズシテ世界ノ靈的統一ヲ大成センコト、歷々トシテ想見スベキ耳、之
ヲ「日蓮主義」ノ宗教的經國策ト爲ス、日蓮聖祖ノ遺訓ニ曰ク「戒壇トハ王法ハ佛法ニ冥シ佛法ハ王法ニ合シ
テ王臣一同ニ三秘密ノ法ヲ持テ有徳王覺德比丘ノ其乃往ヲ末法濁惡ノ未來ニ移サシ時救世並ニ御教書ヲ申下レ
テ靈山淨土ニ似タラン最勝ノ地ヲ尋テ戒壇ヲ建立スベキ者歟時ヲ待ツベキ耳事ノ戒法ト申ハ是也三國並ニ一閻
浮提ノ人ノ懺悔滅罪ノ戒法ノミナラズ大梵天王帝釋等モ來下シテ踏給フベキ戒壇也」（三大秘法抄）ト、又曰ク
「日本乃至一閻浮提ノ人トニ有智無智ヲキラハズ一同ニ他事ヲステ、但南無妙法蓮華經ト唱フベシ」（報恩抄）
ト、又曰ク「一閻浮提第一ノ本尊此國ニ建ツベシ」（觀心本尊抄）ト、又曰ク天下萬民諸乘一佛乘トナリテ妙法獨
リ繁昌セン時萬民一同ニ南無妙法蓮華經ト唱ヘ奉ラバ吹風ハ枝ヲナラサズ雨ハ壤ヲ碎カズ代ハ穢農ノ世トナリ
テ今生ニハ不祥ノ災難ヲ拂ヒ長生ノ術ヲ得テ人法共ニ不老不死ノ理顯レン時ヲ御覽セヨ現世安穩ノ證文疑アレ
ベカラザル者也（如說修行抄）ト、又曰ク「月ハ西ヨリ出テ東ヲ照シ日ハ東ヨリ出テ西ヲ照ス佛法又以テ是ノ如
シ正像ニハ西ヨリ東ニ向ヒ末法ニハ東ヨリ西ニ往ク妙樂大師云ク豈非中國失法求之四維乎等云々天竺ニ佛
法ヲキ證文也」乃至「佛記ニ順シテ之ヲ勘フルニ既ニ後五百歲ノ始ニ相當レリ佛法必ズ東土ノ日本ヨリ出
ツベキ也（顯佛未來記）ト、又曰ク「天竺國ヲハ月氏國ト申ス佛ノ出現シタマフベキ名也扶桑國ヲハ日本國ト申
ス豈聖人出給ハザランヤ月ハ西ヨリ東ニ向ヘリ月氏ノ佛法ノ東ヘ移ルベキ相也日ハ東ヨリ西ヘ入ル日本國ノ佛

法ノ月氏へ還ルベキ瑞相也(諫曉八幡抄)ト、宏判昭々、玄談悠々、登ニ戴仰欽奉セザルベクンヤ。

第五十年以後ノ宗勢

本表第五十年ノ宗勢ハ、「信徒二億千三百萬人、宗財千九億四千二百萬圓ヲ育シ、歳入二億三千一百萬圓ニ達シ、「宗設義勇艦隊」三千九百十五隻ヲ備ヘテ、敢テ國家ノ富力ト正義トヲ代表シテ、世界ニ雄飛スルニ足ル此後毎一年ノ富増力ハ、宗勢膨大ノ速度ニ於テ、眞ニ驚クベキモノアラン、試ミニ彼ノ「戒壇基金」ヲ保殖スルコト更ニ二三十年ヲ以テセバ、富力既ニ全世界ノ死命ヲ扼スルニ足リテ、宇内平和ノ最終擔保タルコトヲ得ン、宗門勢力ノ充實斯ノ如クニシテ、始メテ「三大秘法」宗旨ノ大成ヲ告クルモノト謂フベシ、宗門ハ是ヨリシテ宗法活動ノ第一歩ニ入ル也、所謂創業ヨリ守成ニ入ルノ時也、専門折伏ノ宗是ヨリ攝折兩宜ノ宗是ニ移ルノ一大關節期是也、乃チ第五十年ノ末端ニ於テ、非々想天ノ雲ヲモ貫クベキ 詔命ト國論トニヨリテ

●閣浮統教トシテノ……………大日本國教ノ憲定

●宇内靈鎮トシテノ……………「本門大戒壇」ノ興立

●戒壇靈都トシテノ……………「宗都」ノ奠定

トヲ見ルヲ得ン、是レ豈ニ二千八百年ノ前 釋尊之ヲ命マ、千四百歳ノ前 聖德皇太子之ヲ先見シ、六百年ノ前 聖祖之ヲ發軔シ、獨リ吾宗徒ト國家トノ之ヲ忘レテ以テ今日ニ至レル所ニアラスヤ。

有徳王ノ乃往ヲ移シ、天ノ岩戸ノ再ヒ開ケタランガ如ク、煥然トシテ光發セル 大詔ト、議會ノ協贊トニヨリテ、盡未來際徹上徹下ノ憲教トシテ、「日本國教」ノ奠定セラル、ト共ニ、世界萬邦ノ靈鎮、宇内ノ歸敬式場トシテ、「本門ノ戒壇」ハ應サニ吾國ノ中央勝地ニ建立セラルベキニ就キテ、全國ノ地勢觀ニ戒壇ノ外庭タルヲ

以テ、主伴ノ諸大工事、年歳ヲ閱シテ完成セザルベカラズ、乃チ第五十一年ヨリ第五十五年ニ至テ、戒壇本場ノ設計ヲ成功シ、第五十六年已後相當年限内ニ於テ、全國ノ大設計ヲ成功スベキ歟。

予ハ夥多ノ論案考證ニヨリテ、「戒壇」建立ノ聖地ノ、必ズ本邦ノ名山富嶽ナルベキヲ疑ハズ、果シテ然ラバ其南面正表ニ位スル所ノ、「駿河灣」ハ是レ外國王臣朝覲來詣ノ朱雀門ニシテ「清見灣」ト三穗ノ岬「ハ是レ其内關ニ非ズヤ、須ラク三穗、村松、清水、江尻、山比、興津ノ諸市邑ヲ改修シテ一大都府ヲ開キ、所謂「宗都」ヲ此處ニ奠定ベキモノ也ト信ズ。

宏大壯嚴世界無比ノ大建築ヲ以テ、「戒壇遙拜殿」ヲ「三穗」ノ清洲ニ造リ、天皇ノ離宮、及ヒ外國帝王ノ賓館ヲ連テ建テ戒壇附屬ノ聖地トシ、以テ「宗都」ノ眉目ト爲スベシ。

伊勢ノ「神都」、東京ノ「帝都」トテ東西翼收シ、「宗都」ト一貫シテ、世界無上ノ最大都府ト爲シ三都貫通ノ鐵道線路往復各々數條ヲ備ヘ、絶ヘズ發着往來シテ、世界ノ至便ヲ究メ人生ノ壯觀ヲコ、ニ聚メテ、泰然タル靈界ノ舍宅トセンコトヲ要ス。

之ニ次テ施設スベキ其他ノ重要設計凡ソ左ノ如シ

○駿河灣頭ノ築港 瀨口ノ中央砂岩ノ地點ヲ利用シ、一島ヲ築成シテ風波ヲ防ギ、兼テ警備ノ施設ニ供ス

○敦賀大運河ノ開鑿 伊勢灣若クハ大阪灣ヨリ、敦賀ニ達スベキ、世界未曾有ノ一大運河ヲ開キ、本洲ヲ兩斷シテ、南北ノ航路ヲ半縮スベシ、河幅ハ最大軍艦二隻ヲ駢ベ通ズルヲ得ベカラシメ、鐵道及國縣里道

ニ當ル個所ハ橋ヲ架シ、兩端河口ニハ常ニ浚漚船ヲ備フ、而シテ其幾億萬金ノ費用ハ宗力ヲ以テ負擔シ、

其永久ノ收益ハスベテ 帝室御用度ニ欽納ス

○宗設燈臺 伊豆日蓮岬、全伊東、相模米ヶ濱、全山比ヶ濱、全龍口、駿河沼津、全富士山、上總興津、安房小湊、全小松原、佐渡諸海岸、越後寺泊、全角田、全柏崎等ノ相當地ニ、宗費ヲ以テ 宗門紀念燈臺ヲ建造スベシ

○戒壇鐵道 ハ本山鐵道ノ規模ヲ擴大シ、全國海岸周圍鐵道、及ヒ既成官私設ノ各線ト連絡貫通シテ、全國登壇者ノ便ヲ計リ、兼テ國用ニ利スル爲メ、本邦人ノ乘車賃ヲ全免スベシ

○皇陵ノ擴大 御歷代ノ 皇陵ハ、將來其規模ヲ擴大セザルベカラズ、乃チ現境域以外ニ、更ニ數倍ノ淨域ヲ修築シ、門柵ヲ嚴美シ、守衛所及衆庶ノ拜禮所ヲ置クベシ、洵ニ天壤無窮ノ 皇祚、綿々トシテ隆昌シ、億萬世ノ後ニ至ラバ全國土ノ而積ヲ舉テ以テ陵域ト爲シ、民衆ノ居處ヲ海外ニ移スノ已ムヲ得ザル時アラシムモ此時コソ全世界ノ邦土即日本國ナレバ、本邦ノ全部ヲ舉テ戒壇陵墓ノ神地ト爲シテ、宇内人類ノ宗廟國タラシムベキ也、然ル后普天一家群生一道ノ祖教、始テ云ニ現在前シ、本門本尊ノ深致 天祖兩廟柱位勸請ノ秘妙、渙然トシテ、事實ニ解釋セラレテ、吾カ 皇室ガ即チ萬國ノ宗親タルコトヲ現證シ得ベシ、故ニ吾國ノ 皇陵ハ即チ世界萬邦ノ祖廟也トノ意ヲ以テ其莊面ヲ嚴整スベキハ、正シク國家ノ最高義務ニ屬ス、日蓮聖祖斯ノ如ク誨ヘ、我レ弟子斯ノ如ク信ズ

之ヲ要スルニ、五十年後ノ一年ハ、以前ノ十年ニ超ヘ、乃至第百年後ノ一年ハ、亦之ニ百千倍ス、道教的世界統一ノ成立ハ、必シモ五百年ノ王者ヲ跋ツノ要ナルベシ

既ニ道教の統一ヲ以テ世界ニ編ムテ、國家ノ精神トセル日本國ハ、將來ニ於テ尺寸ノ領土ヲモ海外ニ求メズ、名利俗榮ノ爲ニ一兵ヲモ動カス勿ラシムテ本誓トセザルベカラズ、唯無道ヲ責メ非義ヲ懲ラス爲ニ、已ムコトヲ得ズシテ武ヲ用フルハ、是レ王道ノ戰ニシテ神武也、而モ戰勝テ后、善政ヲ布キ平和ノ擔保ヲ得ベ、直ニ其國土及利償ヲ還附スベシ、日本小ナリト雖、靈ニ於テ大也、坐シテ宇内ヲ靈化スルヲ得バ、豈ニ區々物質の領土ニ戀々スルノ要アラシヤ

○宗勢發展ノ圖說

『宗門ノ維新』ハ、言々實行ヲ豫期シテ之ヲ説ク、而モ予ガ文字ノ技能ニ乏シキ、或ハ意ヲ盡サザル所ヲラシテ恐レ、區々ノ婆心尙已マズ、更ラニ圖ヲ以テ之ヲ説キ、以テ讀者ノ參考ニ資セント欲ス、添フル所ノ圖四アリ、第一……唯一本山設計之圖、第二……宗門改革全國普及之圖、第三……國教成立日本統一之圖、第四……闊洋廣布世界統一之圖、是也

●第一圖 (唯一本山設計圖案) 解説

△本山ノ敷地ハ、山岡平地ノイヅレヲ問ハズ、宗門ノ威靈ヲ具備シ、宗政機關ノ利便ヲ完フスベキ程度ニ於テ、設計セザルベカラズ。其地積ハ、圖面ノ示ス所ヨリ狭少ナルベカラズト雖、建物ハ適宜増擴スベシ。
△本圖ハ、今假リニ平地ニ於テノ奠設ト爲シテ案計ヲ立ツ、若シ山林丘岡ニ於テセバ、建造ノ意匠ハ、オノゾカラ其地勢ニ順テ多少ノ變更ヲ爲スベシ。
△圖中、十干(甲乙等)ヲ印セルハ地域ノ符章ニシテ、「イロハ」ヲ以テセルハ多ク建造物ノ符票トス、乃チ左ノ

如シ

●地割ノ部

▲(甲) 本山淨域ニシテ「木尊殿」ヲ始メ、最要建築物ヲ置ク、縦二百間横四百二十間、面積八萬四千坪トス ▲(乙) 學校敷地ニシテ「大學」ヲ始メ宗學ノ諸校舍ヲ置ク、縦三百間横二百間、面積六萬坪 ▲(丙) 「宗務總督院」及「宗務總督院」等宗政機關所在ノ地ニシテ、面積八上ニ同ジ ▲(丁) 縱横ノ道路ニシテ、丁字形ヲ爲ス、巾二十間、左右ニ溝渠ヲ備ヘ、兩側ニ樹木ヲ植ク ▲(戊) 本山惣域ノ周圍セル巾三十間ノ長形園林ニシテ、蒼樹花卉ヲ植付、其外端ニ於テ電氣鐵道ノ線路ヲ設ク ▲(己) 本城外城ニシテ「銀行」及「大醫院」及附屬學校等ヲ置ク、地積未定 ▲(庚) (辛) (壬) イツレモ「諸坊寮」ノ敷地ニシテ、坊寮ノ數ニヨリテ地積ノ廣狹アレベシ、最初建設ノ分ハ内ニ近接シ、漸次増加ニ順テ外ニ擴張スベシ、而シテ「坊寮」ノ建坪約十坪ノ平均ナレバ、庭除トモ廿五坪ナ一寮地ト爲シ、中央道路三間ヲ隔テ、其布劃ハシテ、「教家寮」ノ増加ト共ニ之ヲ増加ス、初ハ約一千寮ヲ遺テ急ニ應ジ、漸次三千五千乃至幾萬坊ニ及ブベシ

●建物ノ部

▲(イ) 木尊寶殿 樣式ハ多寶塔、周圍ニ迴廊ヲ設ケテ行道ニ便ス ▲(ロ) 大拜殿 中殿間口四十間奥行五十間、外三方幅五間ノ光線廊ヲ俵ラシ、其外圍亦幅五間ノ廊殿ヲ以テ圍フ、建坪三千六百坪、中殿ノ屋根青色玻璃、惣天井及光線廊ノ屋根ハ、光澤消玻璃ヲ用フ ▲(ハ) 聖舍利寶殿 三方廻殿本谷廂廊、總面積約八百坪 ▲(ニ) 壇影寶殿 三方廻殿、御眞筆宗寶安置ノ寶藏殿、面積同上 ▲(上) 鐘門 建坪未定、樓上大音樂室 ▲(ヘ) 大迴廊 鐘門ノ左右音樂座ニ使用 ▲(ト) 本山用庫 ▲(チ) 唱導殿 ▲(リ) 耆德殿 ▲(ヌ) 附屬建物 ▲(ル) 奉行院 ▲(ル) 本山用庫 ▲(ヴ) 行法總督院 ▲(カ) 傳導總督院 ▲(コ) (ク) 防火用大噴水 ▲(レ) (ツ) 通用門 ▲(ツ) 宗務總督院 ▲(ナ) 諸員詰所 ▲(ワ) 噴水 ▲(ム) 宗務總督院 建築宏雄ニシテ、中ニ諸局課ヲ各備ス ▲(ウ) 給遺局 ▲(ハ) 出版局 ▲(ノ) 交通院 ▲(イ) 音樂院 ▲(ク) 衛生院 ▲(ヤ) 用度院 ▲(ケ) 噴水 ▲(ケ) 學務總督院 ▲(フ) 書籍館 ▲(コ) 妙宗大學 ▲(エ) 教學寮 ▲(テ) 初心學寮 ▲(ア) 高等學寮 ▲(サ) 寺家學寮 ▲(キ) 電車待合所 ▲(エ) 宗立銀行 ▲(メ) 本山案内所 ▲(ミ) (シ) 大宿院 ▲(エ) 附屬小學 ▲(ヒ) 傳導寮林 ▲(モ) 選科學寮 ▲(セ) 附屬中學 ▲(ス) 附屬病院 以上

上(ホ)已下ノ建造物ハイツレモ最初實用ニ適シ得ベキ大サニシ、漸次改良大成スベシ、依テ建坪ヲ明記セズ

△四周ノ電車ハ、山内山外樞要ノ地マデ延長シテ山務ノ便ニ供ス △本山水道ハ庭觀ノ大噴水ヲ始メ、諸堂宇ノ屋上ニ架設シテ非常ニ備ヘ、兼テ玻璃瓦ノ洗滌用ニ充テ、其他ハ各建物ノ使用ニ供シ、淨水ハ周圍ノ溝渠ニ放流シ、汚水ハ暗渠ヲ通シテ遠ク域外ニ放流ス

△「電車」及「電燈」ノ發電所ハ、水力又ハ火力ニヨリテ本山内外ノ交通、及各建造物ノ使用ニ供ス、外ニ瓦斯局ヲ置キ燈火及ヒ諸燃料ヲ供給スベシ △建物ノ設計ハ(イ)ヨリ(ソ)ニ至ル分ヲ除クノ外、專ラ堅牢實用ヲ主トシ、無用ノ虛飾ヲ爲スベカラズ

△聖廟寶殿ハ本圖ノ外トス

●第二圖 (宗門改革全國普及之圖) 解説

△宗門勢力ノ普及ハ、陸ニハ本山鐵道、海ニハ宗門義勇艦隊ノ航路、此等交通機關ノ周備ト共ニ、布教開導ノ奏功著シク進ミ、幾ト全國ヲ通シテ布教機關ノ完備セルヲ度トス、而シテ海陸ノ聯絡點ハ即チ諸國ノ港灣所在地ニシテ、イツレモ宗務支應ヲ置テ、布教及宗門的交通ノ利便ニ資ス、其起點ハ必ズ

駿州清水港 (宗設義勇艦隊元港、及ヒ本山鐵道起點地トシテ)

ナラザルベカラズ、其他ノ港灣ハ全國至處ノ要衝ニ亘ル、第三圖ニ至テ詳悉スベシ

△圖中ノ●印ハ宗設艦隊港(後ニ宗港ト號スルモノ) ●印ハ本山鐵道及宗船航路ノ起點地、●線ハ宗船航路

第三圖 (國教成立日本統一之圖) 解説

△世界ノ中央靈國タル日本、日本ノ中央靈地タル駿州富士山ニ本門大戒壇建立セラレ、清見灣頭ノ平地ヲ以テ萬國無比ノ『宗都』ヲ奠定シ、太廟ト帝都トヲ合セテ、世界ノ最大靈都ト爲シタル日本國ハ、即チ世界ノ首國ニシテ、教令道權ノ發スル所、萬邦ノ王民朝貢來詣スル所、尤モ威容ト利便トヲ國土ニ表現セザルベカラズ、即チ都市邑ノ整齊、海陸交通ノ利捷、備ハザル所ナキニ至ル

△本門大戒壇地 (駿州富士金山)

△『宗都』及戒壇拜殿 (駿州清見灣一帯ノ地、拜殿) 建造地ハ三種タルベシ)

△宗設艦隊、及戒壇鐵道 (全國海岸周圍鐵道ノ起點地ハ必ズ『宗都』タルベシ)

△敦賀大運河 (敦賀ヨリ伊勢灣若クハ大阪灣ニ向テ開通スベシ)

△宗港 (宗門的交通地、即チ宗務支應所在地ニシテ海陸宗有交通機關ノ聯接點、全國ヲ通シテ凡ソ左ノ如シ)

- 加賀島 (駿河河口ニ於テ新タニ築成スベキ要島ニシテ、世界萬邦ノ交通本部トス) 清水(河) 戸田、田子、下田、伊東、熱海(伊) 小田原、浦賀
- 横須賀(相) 横濱、品川(武) 木更津、勝浦、奥津(上) 富山、鴨河、小湊(安) 銚子、葛飾(下) 小湊(常) 小名濱(警) 狭ノ濱、磯邊、野蒜(陸) 釜石
- 宮古、久慈(陸) 八戸、大湊、野邊地、青森(陸) 函館、森(渡) 室蘭(船) 洞河(高) 釧路、厚岸、批把瀨(船) 花咲、根室(根) 網走、紋別、稚内
- (北) 禮文島、利尻島、燒尻島、増毛(天) 石狩(石) 小樽、余市、岩内、志都(後) 江差、福山(渡) 三瓶、小泊、饒濱(陸) 能代、船川、土崎、古
- 鷹、酒田(羽) 加茂(羽) 新潟、直江津、角田、柏崎、寺泊(越) 伏木(中) 奥、小木、赤泊(佐) 七尾、飯田、輪島(登) 上金石(加) 三崎、敦賀、
- (前) 小浜(若) 宮津、舞鶴(後) 境(出) 西郷(陸) 濱田(石) 萩、赤間(門) 門司、小倉(前) 若松、福岡(筑) 唐津、平戸、名護原(佐) 佐世保、長崎、

- 島原(肥) 柳川(筑) 白川、八代、三角浦(肥) 鹿兒島(陸) 果志布志、油津、細島、延岡(日) 佐伯、臼杵、大分、日出、杵築(後) 八幡濱、宇和
- 島(伊) 宿毛、須崎、高知、浮津、甲之浦(土) 徳島、撫養(阿) 福良、洲本、志筑(淡) 高松、多度津(浪) 三津濱(伊) 三田尻、徳山、岩國(周) 宇品
- 吳(安) 尾道、鞆津(備) 玉島(備) 三崎(備) 神戸、大阪(津) 堺、岸和田(和) 和歌山、湯淺、田邊、二色、新宮、本宮、尾鷲(紀) 河島、前島、鳥羽(志)
- 神社、津、四日市、桑名(伊) 熱田、半田(尾) 豊川(三)

△宗設紀念燈臺ハ、聖祖有縁ノ地ニシテ航路ニ接スル處ニ之ヲ建ツ、凡ソ左ノ如シ

- 富士山頂及山腹數十ヶ所、沼津(駿) 伊東、日蓮崎(伊) 龍口、山井ヶ濱、米ヶ濱(相) 小湊、小松原(房) 寺泊、柏崎、角田(越) 相川、赤津、
- (渡) 興津(總) 佐

△圖中ノ□印ハ戒壇ヲ中心トシタル三大都府、人印ハ敦賀大運河、▲印ハ宗設紀念燈臺、○印ハ戒壇鐵道、印ハ宗設義勇艦隊航路

第四圖 (閻浮廣布世界統一之圖) 解説

第五十年以後ノ宗勢ハ不測ノ宗化力ヲ有ス、歲月唇々ノ傳道ハ終ニ世界ヲ統化シテ本圖ノ實現ヲ見ル、必シモ悠久ノ未來ナラザルベキヲ信ズ。

獨リ宗教ノミナラズ、學問界ニ於ケル本邦ノ勢力亦宇内ヲ掩有スルニ至ルベキハ疑フ所ナシ、即チ日本各地ノ大學校舍八十中ノ八九海外ノ人ヲ以テ充タスニ至ルベシ。

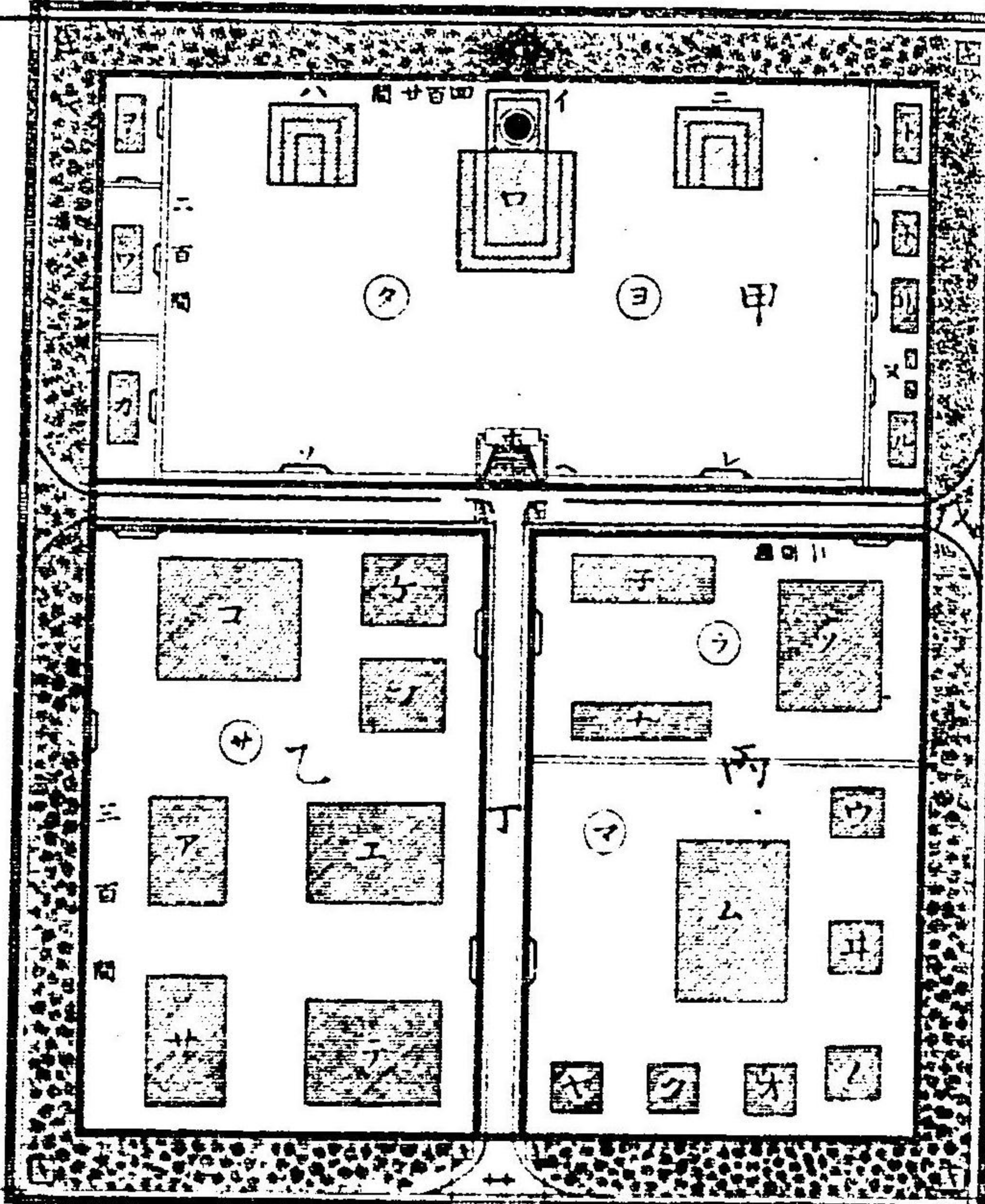
「世界ノ日本」ナル語ヲ以テ無上ノ開明思想ヲ表セルモノト誤解セル日本國民モ、終ニ世界ノ人ヲシテ却テ「日本ノ世界」ナル語ヲ以テ本邦ヲ渴仰セシムルニ至ランコト、偏ニ本論宗門之推新ノ實行ヨリ生ズ。

案圖計設山本一唯

附別解圖

諸坊寮教地
辛

壹萬分一圖



諸坊寮教地

壬

諸坊寮教地

諸坊寮教地

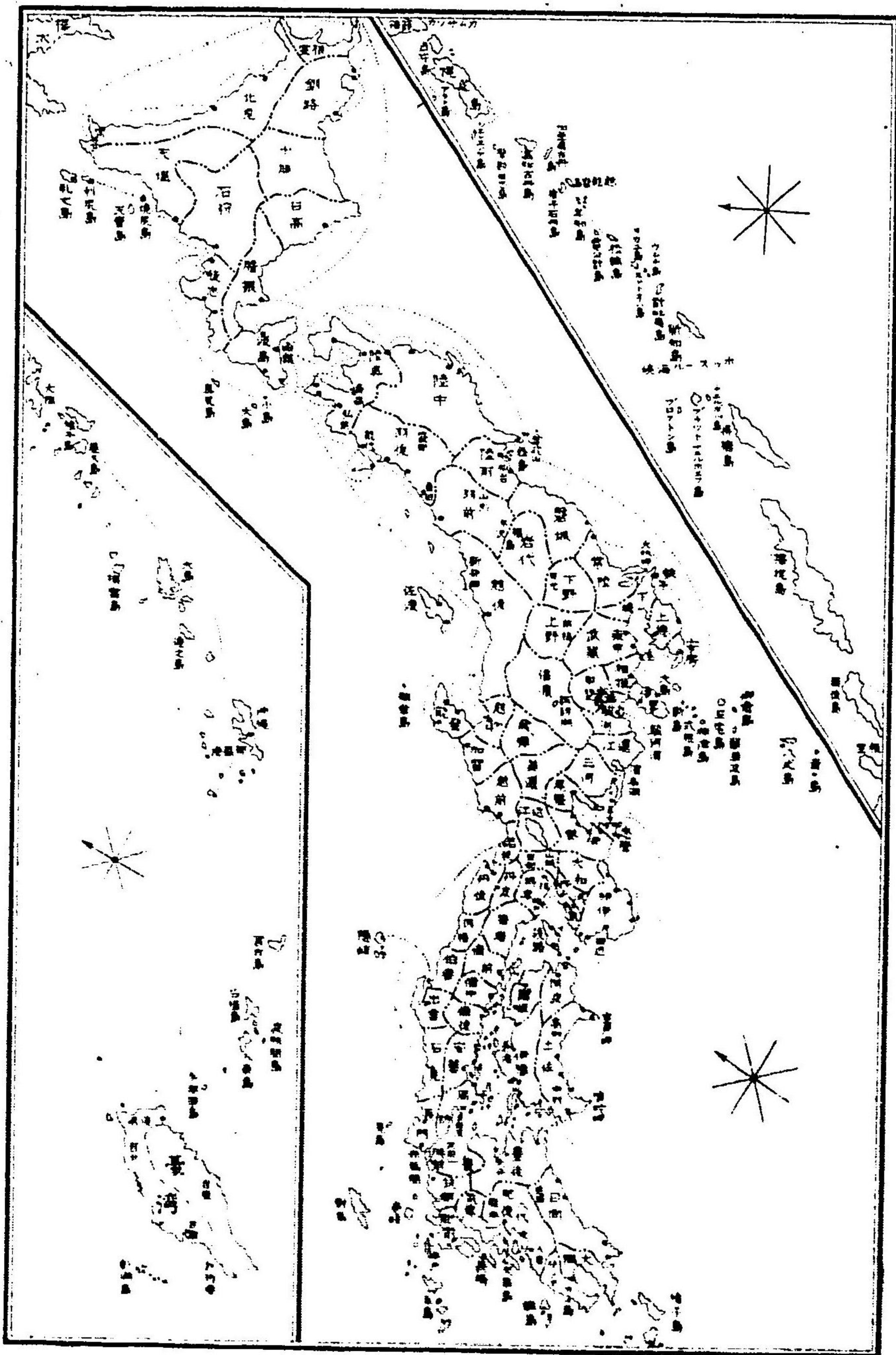
庚

諸坊寮教地

電氣鉄道・一橋・茶垣・山・建築

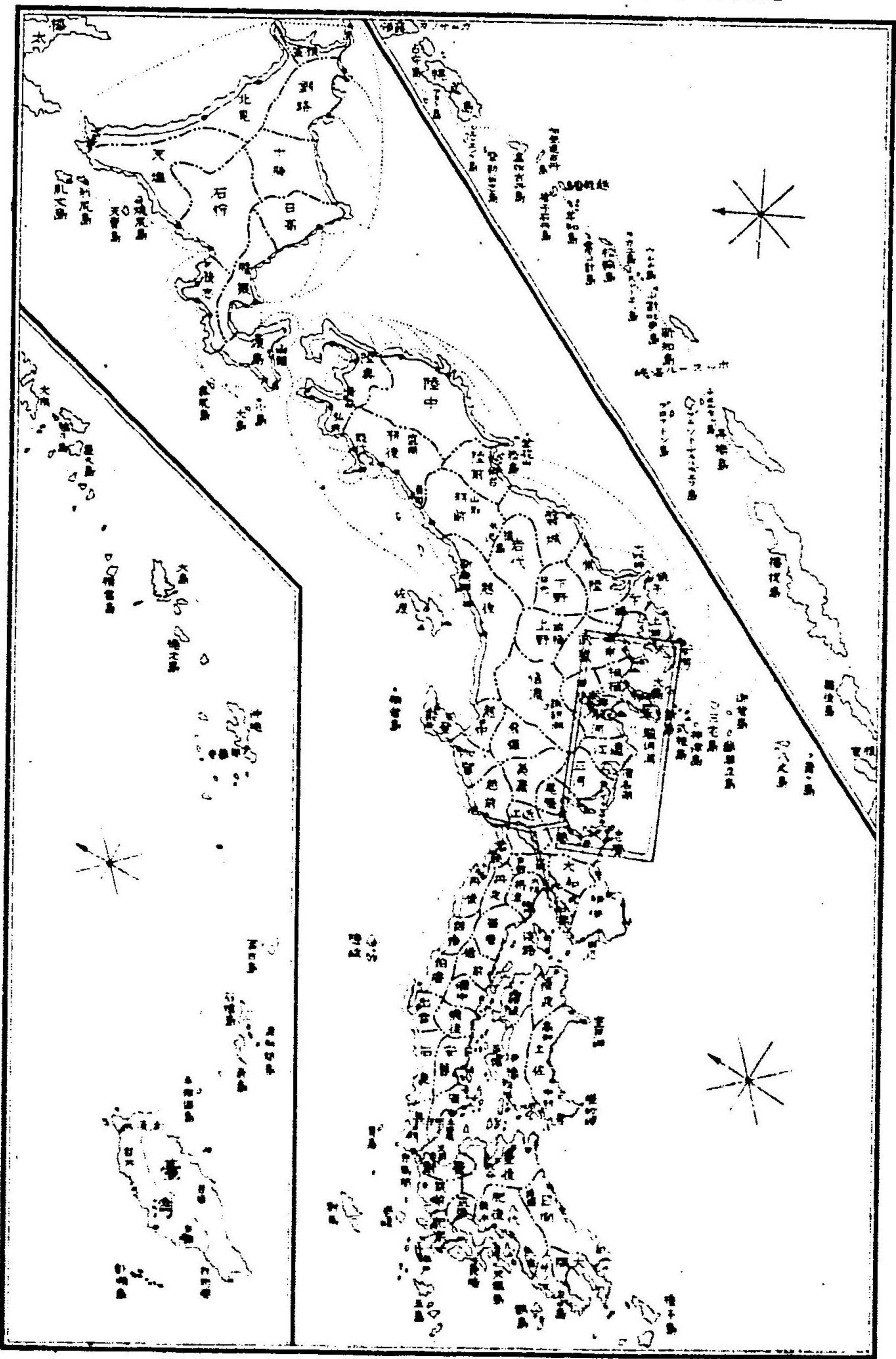
妙宗未來年表ノ一篇ハ宗門維新ノ分別功德分也只
空想ヲ描キ誇張ヲ夢ミルモノト爲ス勿レ試ニ四
百年前ノ宗門繁盛史ヲ追懷シ來テ現時ノ宗勢ニ比
況セヨ此書ノ實現ヲ未來ニ見ントスルノ既ニ已ニ
晚キヲ知ラン宗門ノ衰退ヲ自覺セザルモノハ此書
ノ知己ニ非ズ衰退セル宗門ニ泣カザルモノハ此書
ノ師友ニ非ズ我レハ宗門ノ祖師ヲ説カントテ欲セ
ズ唯祖師ノ宗門ヲ説カント欲シテ此篇ヲ艸ス慚ッ
ル所ハ學識乏少ニシテ殊ニ布字ノ光采ナキニ在リ
請諒焉……………宗門布衣田中智學慨然記

圖之及普國全革改門宗



日本國全圖及宗門改革之圖

圖之一統本日立成教國



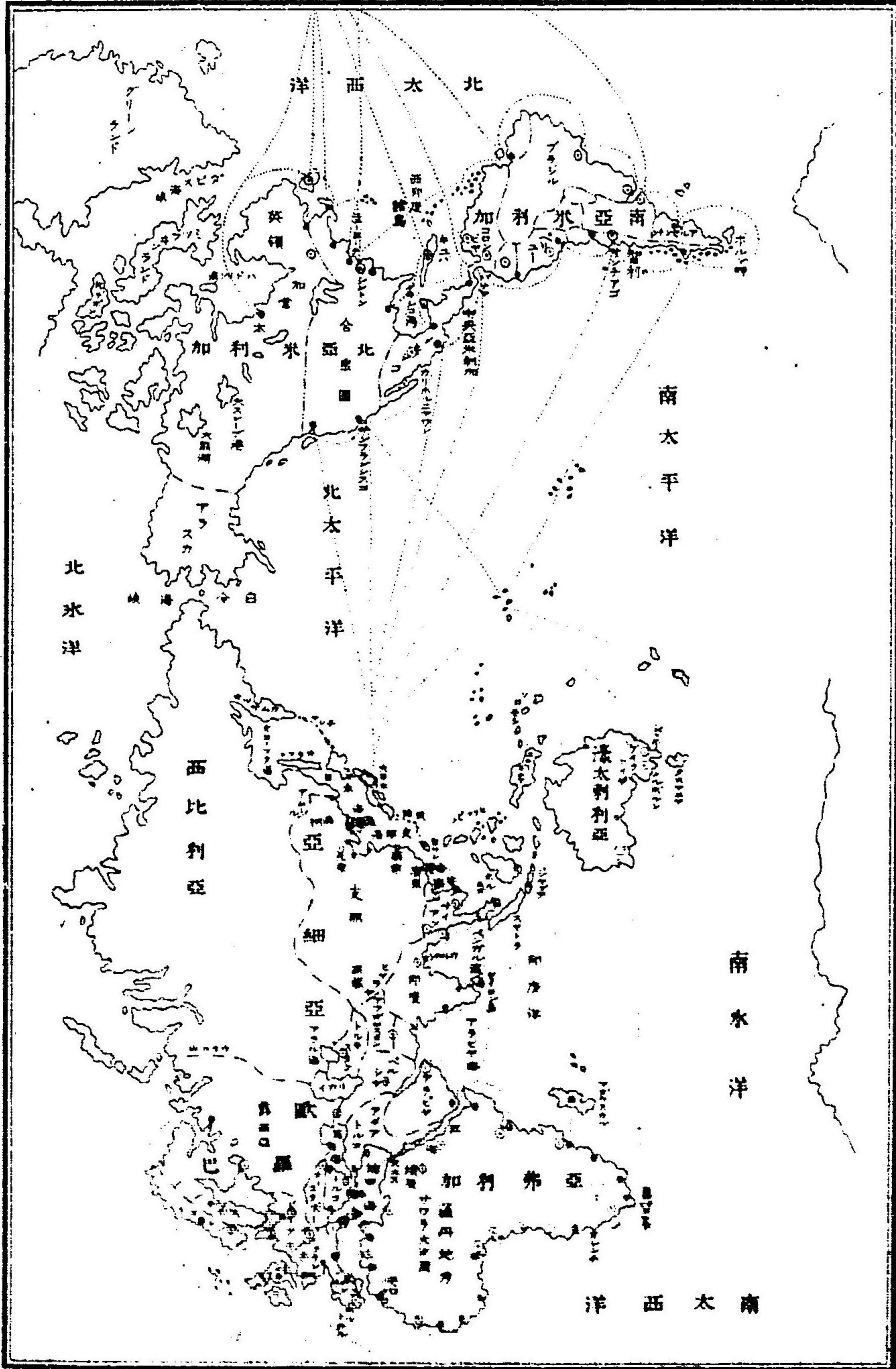
三國城... 宗門改革之圖

40
645

この書つ
れに御身
をばなさ
ず御覽あ
るべく候

明治三十四年九月七日印刷
明治三十四年九月十日發行

2/35
圖之一統界世希廣浮閣



◎ 東京本部 ● 宗海製版所 □ 閣浮大出版

著作兼發行者

田中巴之助

神奈川県下相模國鎌倉郡鎌倉町栗山四百廿八番地

發行所

師子王文庫

全所

印刷者

青木弘

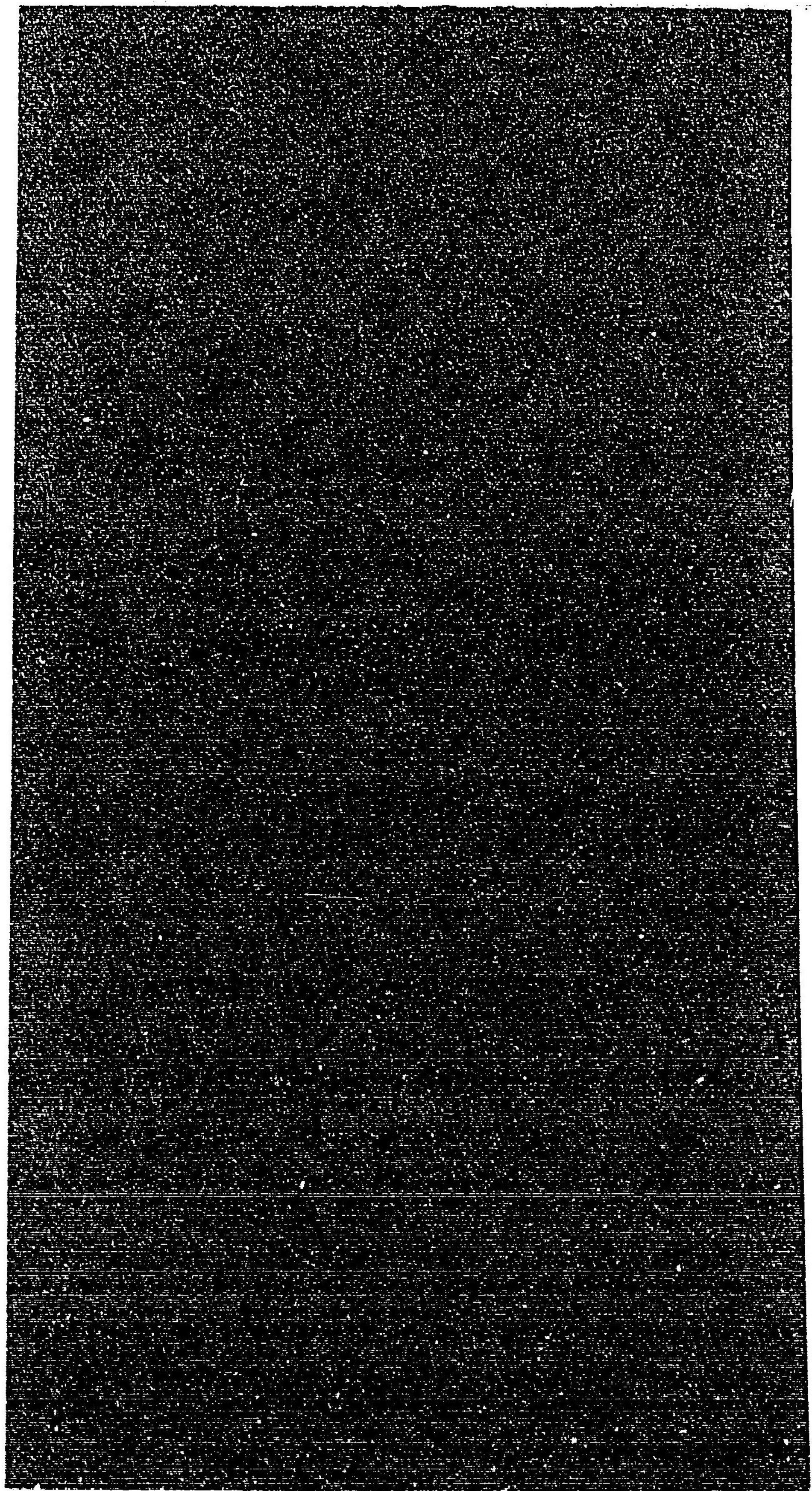
東京市京橋區西紺屋町廿六七番地

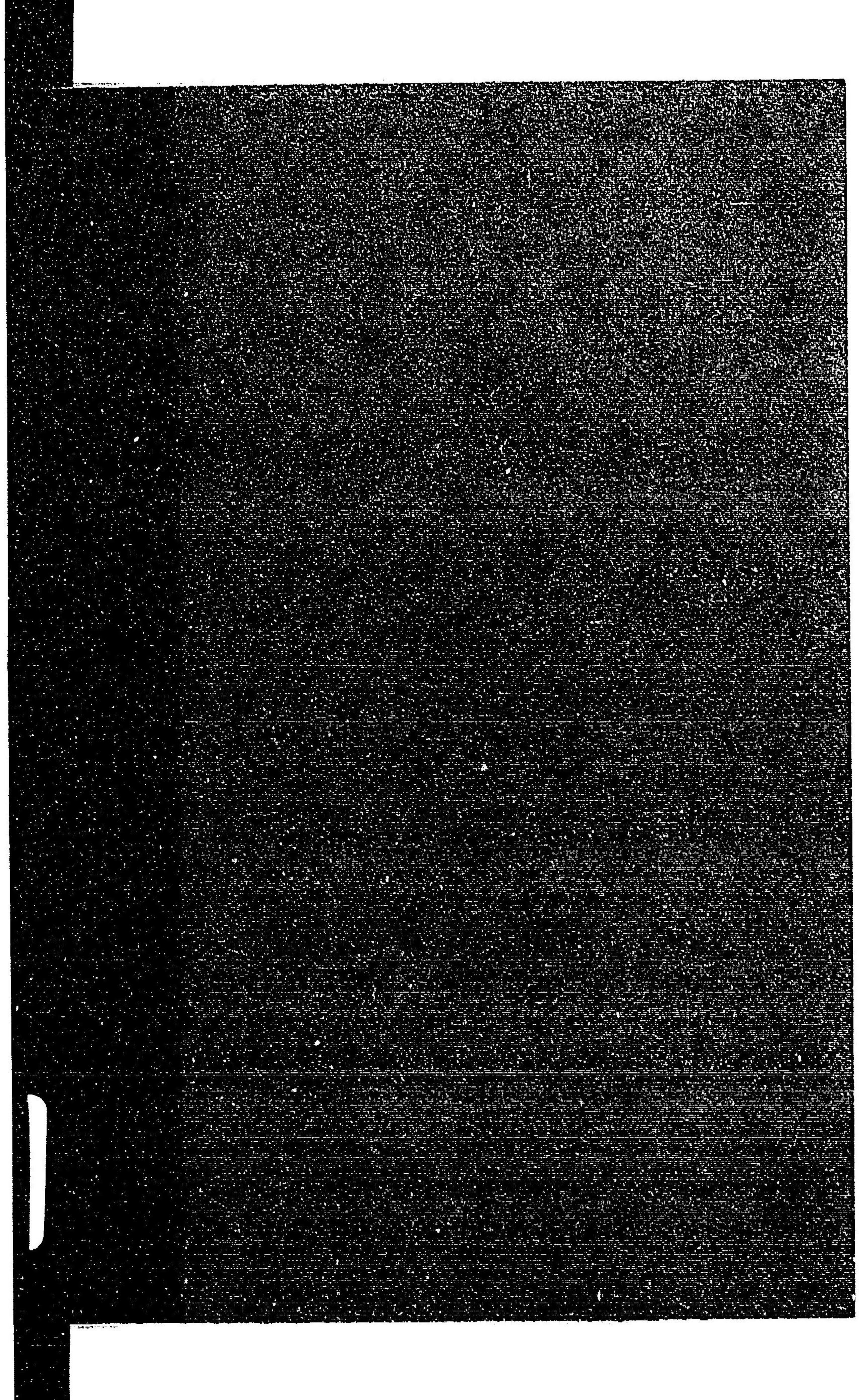
印刷所

株式會社 秀英舍

東京市京橋區西紺屋町廿六七番地

IL 4N30





40
645

019961-000-7

40-645

宗門之維新

田中 智学/著

M34.9

ABH-0115



